

O-4 案内板(自立)

土砂災害警戒区域
 危害の恐れがある範囲
 著しい危害の恐れのある範囲

O-1 校章サイン

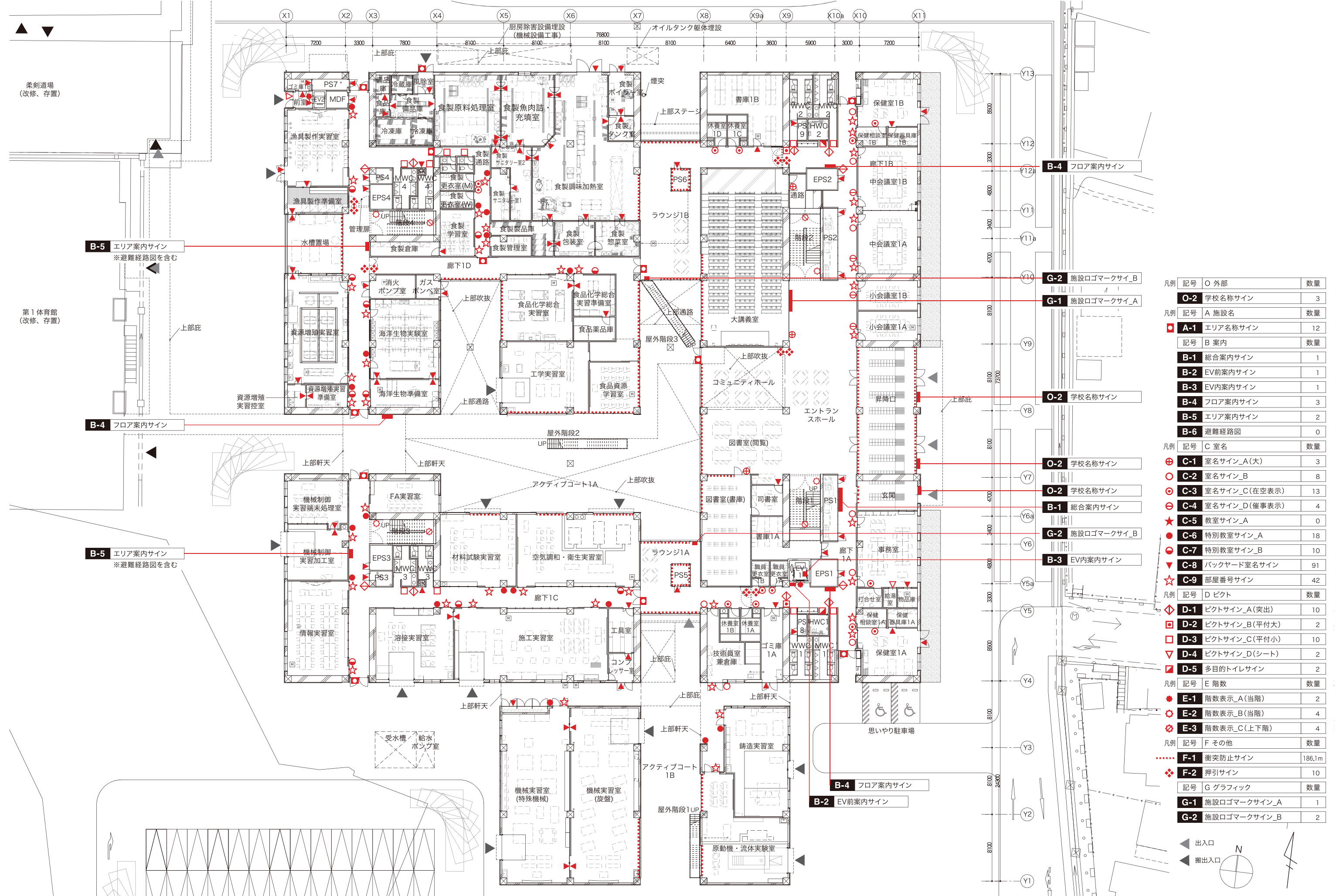
※RFに取付

O-5 学校名称サイン(ゲート部)

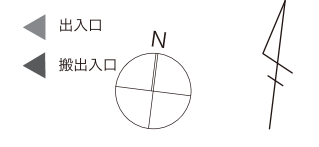
O-3 学校名称サイン(自立)

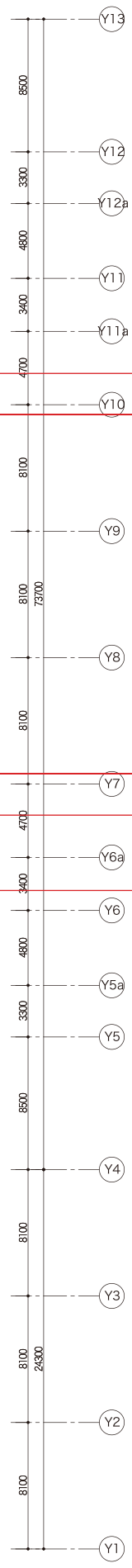
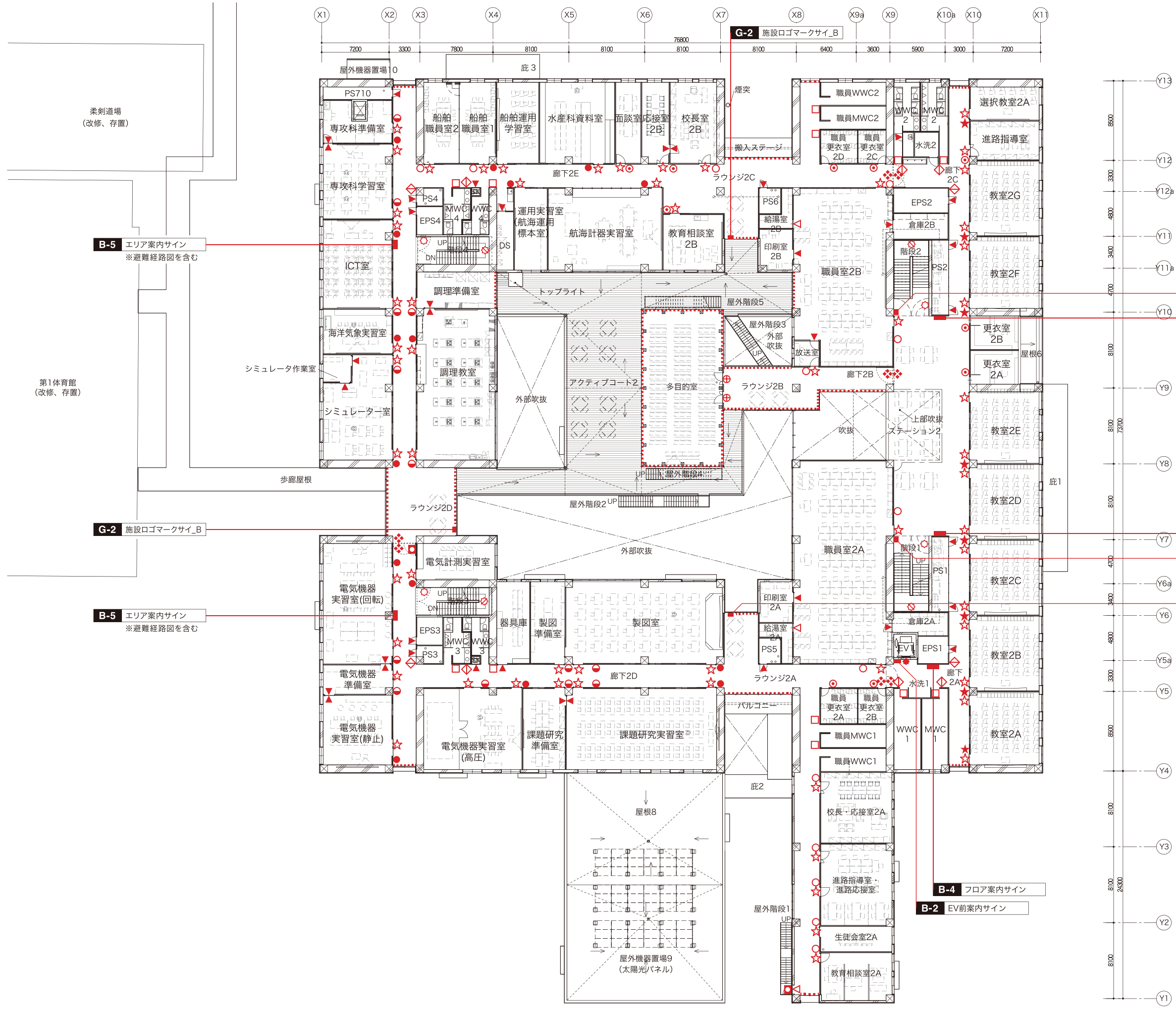
記号	外部	数量
O-1	校章サイン	2 ※RFに取付
O-2	学校名称サイン	3 ※1Fにプロット
O-3	学校名称サイン(自立)	1
O-4	案内板(自立)	3
O-5	学校名称サイン(ゲート部)	2





凡例	記号	名称	数量
	○	外部	
	○-2	学校名称サイン	3
凡例	A	施設名	数量
	■	A-1 エリア名称サイン	12
	記号 B	案内	数量
	B-1	総合案内サイン	1
	B-2	EV前案内サイン	1
	B-3	EV内案内サイン	1
	B-4	フロア案内サイン	3
	B-5	エリア案内サイン	2
	B-6	避難経路図	0
凡例	記号 C	室名	数量
	⊕	C-1 室名サイン_A(大)	3
	○	C-2 室名サイン_B	8
	⊙	C-3 室名サイン_C(在空中表示)	13
	⊖	C-4 室名サイン_D(催事表示)	4
	★	C-5 教室サイン_A	0
	●	C-6 特別教室サイン_A	18
	●	C-7 特別教室サイン_B	10
	▼	C-8 バックヤード室名サイン	91
	☆	C-9 部屋番号サイン	42
凡例	記号 D	ピクト	数量
	◇	D-1 ピクトサイン_A(突出)	10
	□	D-2 ピクトサイン_B(平付大)	2
	□	D-3 ピクトサイン_C(平付小)	10
	▽	D-4 ピクトサイン_D(シート)	2
	■	D-5 多目的トイレサイン	2
凡例	記号 E	階数	数量
	●	E-1 階数表示_A(当階)	2
	⊗	E-2 階数表示_B(当階)	4
	⊗	E-3 階数表示_C(上下階)	4
凡例	記号 F	その他	数量
	⋯	F-1 衝突防止サイン	186.1m
	◆	F-2 押しサイン	10
	記号 G	グラフィック	数量
	G-1	施設ロゴマークサイン_A	1
	G-2	施設ロゴマークサイン_B	2





B-5 エリア案内サイン
※避難経路図を含む

G-2 施設ロゴマークサイ_B

B-5 エリア案内サイン
※避難経路図を含む

B-6 避難経路図

B-4 フロア案内サイン

B-4 フロア案内サイン

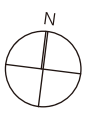
B-6 避難経路図

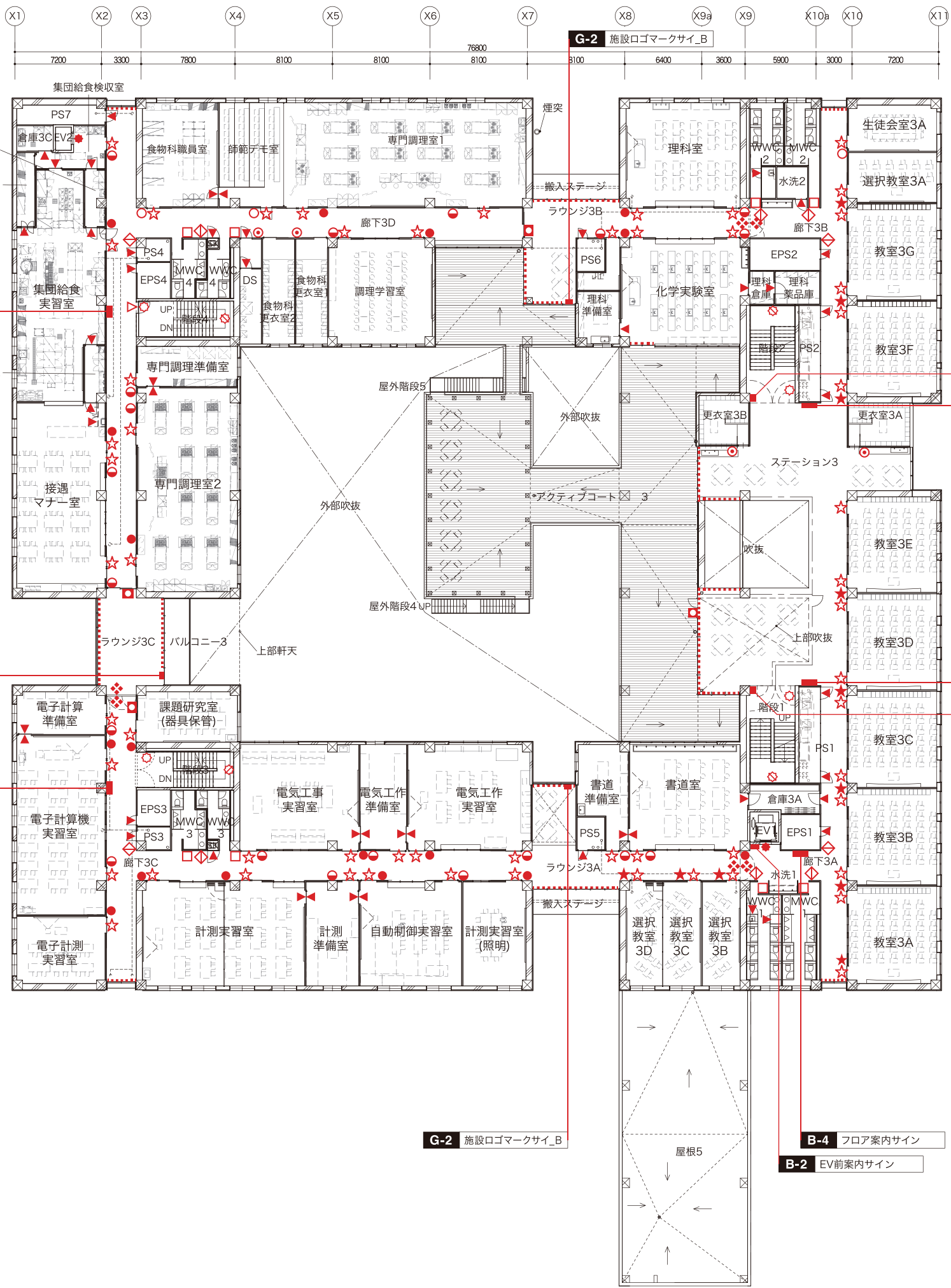
G-2 施設ロゴマークサイ_B

B-4 フロア案内サイン

B-2 EV前案内サイン

凡例	記号	A 施設名	数量
■	A-1	エリア名称サイン	2
	B	案内	数量
	B-1	総合案内サイン	0
	B-2	EV前案内サイン	1
	B-3	EV内案内サイン	0
	B-4	フロア案内サイン	3
	B-5	エリア案内サイン	2
	B-6	避難経路図	2
凡例	記号	C 室名	数量
⊕	C-1	室名サイン_A(大)	2
○	C-2	室名サイン_B	13
⊖	C-3	室名サイン_C(在空表示)	10
⊖	C-4	室名サイン_D(催事表示)	0
★	C-5	教室サイン_A	8
●	C-6	特別教室サイン_A	15
●	C-7	特別教室サイン_B	13
▼	C-8	バックヤード室名サイン	37
☆	C-9	部屋番号サイン	60
凡例	記号	D ピクト	数量
◇	D-1	ピクトサイン_A(突出)	10
□	D-2	ピクトサイン_B(平付大)	0
□	D-3	ピクトサイン_C(平付小)	12
▽	D-4	ピクトサイン_D(シート)	3
■	D-5	多目的トイレサイン	0
凡例	記号	E 階数	数量
●	E-1	階数表示_A(当階)	1
⊗	E-2	階数表示_B(当階)	4
⊗	E-3	階数表示_C(上下階)	4
凡例	記号	F その他	数量
.....	F-1	衝突防止サイン	125.1m
◆	F-2	押しサイン	8
凡例	記号	G グラフィック	数量
	G-1	施設ロゴマークサイン_A	0
	G-2	施設ロゴマークサイン_B	3





B-5 エリア案内サイン
※避難経路図を含む

G-2 施設ロゴマークサイ_B

B-5 エリア案内サイン
※避難経路図を含む

B-6 避難経路図

B-4 フロア案内サイン

B-4 フロア案内サイン

B-6 避難経路図

B-4 フロア案内サイン

B-2 EV前案内サイン

凡例	記号	A 施設名	数量
■	A-1	エリア名称サイン	4
	B	案内	数量
	B-1	総合案内サイン	0
	B-2	EV前案内サイン	1
	B-3	EV内案内サイン	0
	B-4	フロア案内サイン	3
	B-5	エリア案内サイン	2
	B-6	避難経路図	2

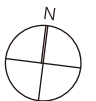
凡例	記号	C 室名	数量
⊕	C-1	室名サイン_A(大)	0
○	C-2	室名サイン_B	3
○	C-3	室名サイン_C(在空表示)	4
⊖	C-4	室名サイン_D(催事表示)	0
★	C-5	教室サイン_A	11
●	C-6	特別教室サイン_A	17
●	C-7	特別教室サイン_B	19
▼	C-8	バックヤード室名サイン	50
☆	C-9	部屋番号サイン	57

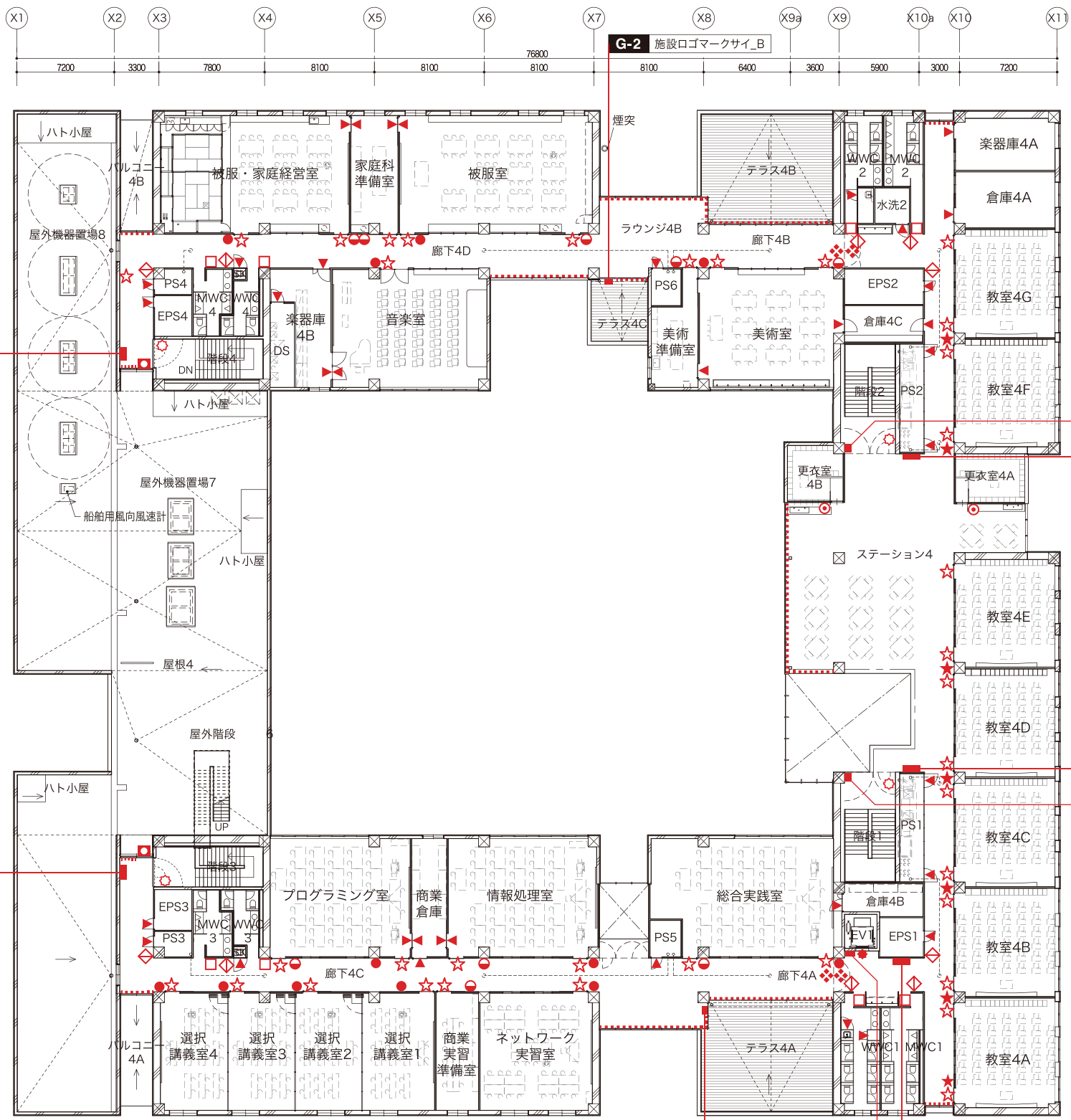
凡例	記号	D ピクト	数量
◇	D-1	ピクトサイン_A(突出)	10
□	D-2	ピクトサイン_B(平付大)	0
□	D-3	ピクトサイン_C(平付小)	8
▽	D-4	ピクトサイン_D(シート)	1
■	D-5	多目的トイレサイン	0

凡例	記号	E 階数	数量
●	E-1	階数表示_A(当階)	2
●	E-2	階数表示_B(当階)	4
●	E-3	階数表示_C(上下階)	4

凡例	記号	F その他	数量
.....	F-1	衝突防止サイン	71.9m
◆	F-2	押しサイン	6

記号	G グラフィック	数量	
■	G-1	施設ロゴマークサイン_A	0
■	G-2	施設ロゴマークサイン_B	3





B-5 エリア案内サイン
※避難経路図を含む

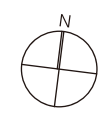
B-5 エリア案内サイン
※避難経路図を含む

G-2 施設ロゴマークサイ_B
B-4 フロア案内サイン
B-2 EV前案内サイン

B-6 避難経路図
B-4 フロア案内サイン

B-4 フロア案内サイン
B-6 避難経路図

凡例	記号	A 施設名	数量
■	A-1	エリア名称サイン	2
	記号 B	案内	数量
	B-1	総合案内サイン	0
	B-2	EV前案内サイン	1
	B-3	EV内案内サイン	0
	B-4	フロア案内サイン	3
	B-5	エリア案内サイン	2
	B-6	避難経路図	2
凡例	記号	C 室名	数量
⊕	C-1	室名サイン_A(大)	0
○	C-2	室名サイン_B	0
○	C-3	室名サイン_C(在空表示)	2
⊖	C-4	室名サイン_D(催事表示)	0
★	C-5	教室サイン_A	7
●	C-6	特別教室サイン_A	12
●	C-7	特別教室サイン_B	9
▼	C-8	バックヤード室名サイン	37
☆	C-9	部屋番号サイン	36
凡例	記号	D ピクト	数量
◊	D-1	ピクトサイン_A(突出)	10
◻	D-2	ピクトサイン_B(平付大)	0
◻	D-3	ピクトサイン_C(平付小)	8
▽	D-4	ピクトサイン_D(シート)	0
◻	D-5	多目的トイレサイン	0
凡例	記号	E 階数	数量
●	E-1	階数表示_A(当階)	1
⊗	E-2	階数表示_B(当階)	4
⊗	E-3	階数表示_C(上下階)	0
凡例	記号	F その他	数量
⋯	F-1	衝突防止サイン	73.1m
◆	F-2	押しサイン	4
	記号 G	グラフィック	数量
	G-1	施設ロゴマークサイン_A	0
	G-2	施設ロゴマークサイン_B	2



分類	記号	サイン名称	形式	電気	合計	外構	校舎棟_数量					特記事項
							1階	2階	3階	4階	R階	
外部	O-1	校章サイン	壁付		2	2						R階に取付
	O-2	学校名称サイン	ガラス面		3		3					1階に取付
	O-3	学校名称サイン(自立)	自立		1	1						
	O-4	案内板(自立)	自立		3	3						
	O-5	学校名称サイン(ゲート部)	壁付		2	2						
施設名	A-1	エリア名称サイン	扉付/壁付		20		12	2	4	2		エリア(棟)名称 入口名称
案内	B-1	総合案内サイン	壁付		1セット		1セット					全館案内+1階フロア案内図
	B-2	EV前案内サイン	壁付		4		1	1	1	1		全館案内
	B-3	EV案内サイン	カゴ内付		1		1					全館案内
	B-4	フロア案内サイン	壁付		12		3	3	3	3		フロア案内+階数表示
	B-5	エリア案内サイン	壁付		8		2	2	2	2		エリア(棟)案内+避難経路図+階数表示
	B-6	避難経路図	壁付		6		2	2	2	2		避難経路図
室名	C-1	室名サイン_A(大)	扉付/ガラス面		5		3	2				一般(共用校舎) 地域解放(共用校舎) 室名表示
	C-2	室名サイン_B	壁付		24		8	13	3			室名表示
	C-3	室名サイン_C(在空表示)	壁付		29		13	10	4	2		室名表示+在室表示
	C-4	室名サイン_D(催事案内)	壁付		4		4					室名表示+在室表示+催事案内
	C-5	教室サイン_A	壁付		26		8	11	7			黒板側入口 室名表示
	C-6	特別教室サイン_A	壁付		62		18	15	17	12		黒板側入口 室名表示
	C-7	特別教室サイン_B	壁付		51		10	13	19	9		黒板と反対側入口 準備室 室名表示
	C-8	バックヤード室名サイン	扉付		215		91	37	50	37		室名表示
	C-9	部屋番号サイン	扉付		195		42	60	57	36		部屋番号表示
ピクト	D-1	ピクトサイン_A(突出)	突出		40		10	10	10	10		ピクト表示
	D-2	ピクトサイン_B(平付大)	壁付		2		2					ピクト表示+トイレ案内図(点字・触知図付)
	D-3	ピクトサイン_C(平付小)	壁付		38		10	12	8	8		ピクト表示
	D-4	ピクトサイン_D(シート)	扉付		6		2	3	1			ピクト表示
	D-5	多目的トイレサイン	扉付		2		2					ピクト表示
階数	E-1	階数表示_A(当階)	壁付		6		2	1	2	1		EV前 当階表示
	E-2	階数表示_B(当階)	壁付		16		4	4	4	4		階段室 当階表示
	E-3	階数表示_C(上下階)	壁付		12		4	4	4			階段室 上下階表示
その他	F-1	衝突防止サイン	ガラス面		456.2m		186.1m	125.1m	71.9m	73.1m		衝突防止マーク
	F-2	押引サイン	扉付		28		10	8	6	4		
	F-3	多目的スタンドサイン	可動		10							未プロット
	F-4	下足入れサイン	下足入れ付		720							未プロット
	F-5	消火器・消火栓サイン	扉付		100							未プロット
	F-6	オートドアサイン	扉付		4							未プロット
	F-7	代替進入口サイン	ガラス面		16							未プロット
	F-8	注意書きサイン	壁付		5							未プロット
	F-9	ロッカーNo.表示	ロッカー付		840							未プロット
	F-10	ゴミ分別表示	ゴミ箱付		50							未プロット
	F-11	設備電気配管ダクト 説明タグプレート	ダクト付		100							未プロット
グラフィック	G-1	施設ロゴマークサイン_A	ガラス面		1		1					
	G-2	施設ロゴマークサイン_B	ガラス面		10		2	3	3	2		

注意 ※全てのサインデザイン、グラフィックデータ作成費を見積りに含むこと

タイプフェイス・ピクトグラム

● 和文：ヒラギノ角ゴ StdN W2 (文字の大きさ・加工方法により W3 W4 を使用する)

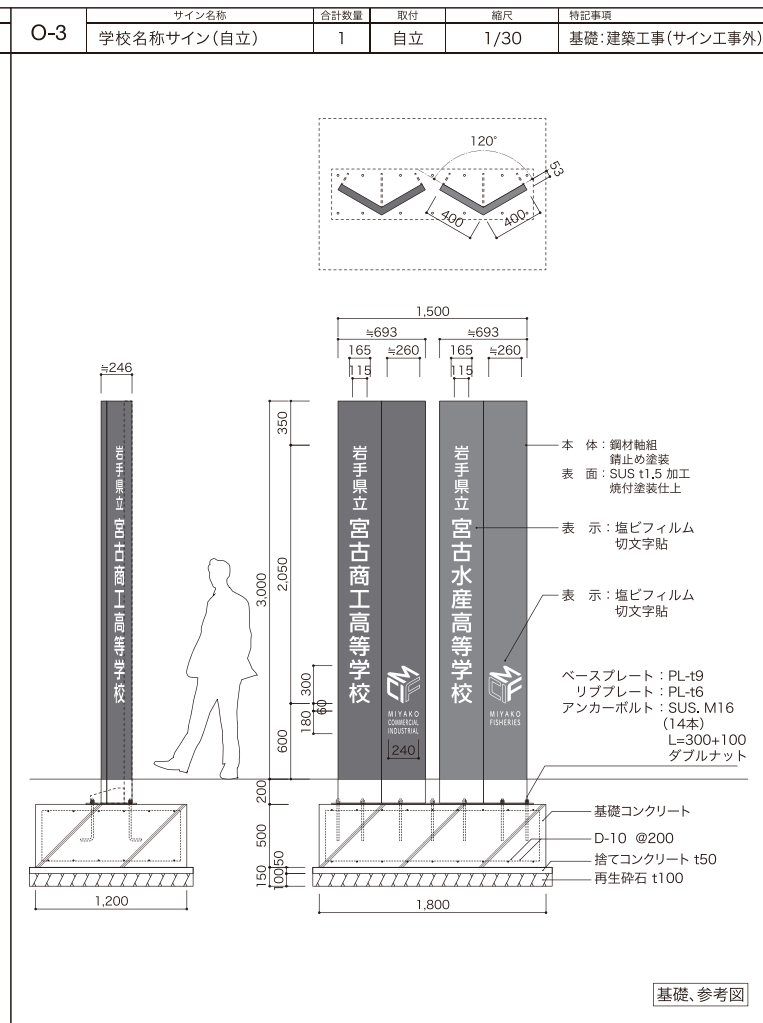
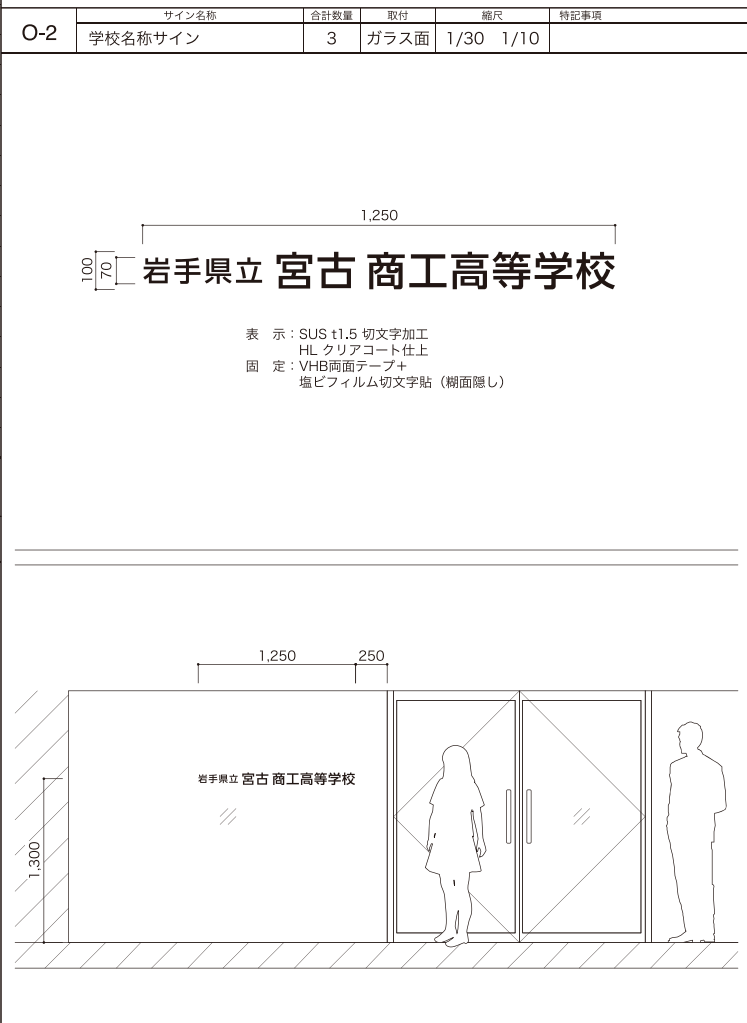
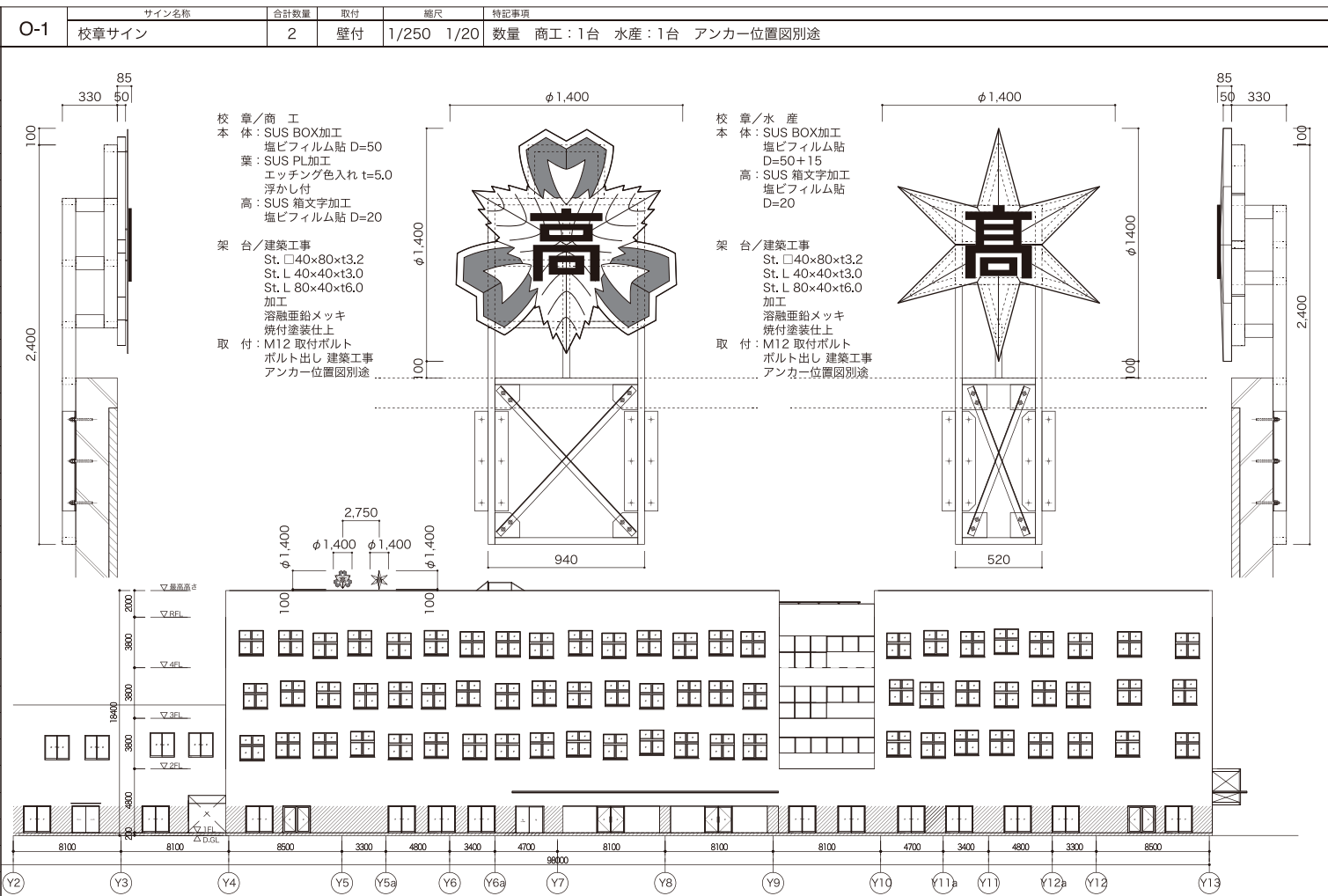
● 英文：Myriad Pro Light (文字の大きさ・加工方法により Regular を使用する)

いろはにほへとちりぬるを
イロハニホヘトチリヌルヲ
伊呂波仁保辺登知里奴留遠

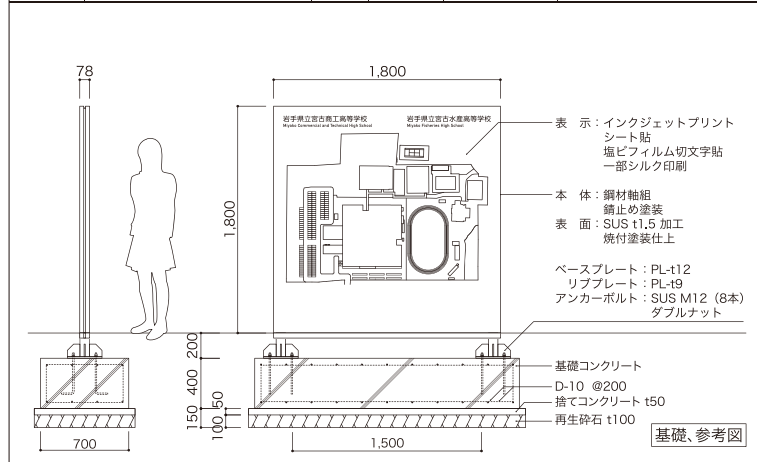
ABCDEFGHIJKLMN OPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstu vwxyz
1234567890

● ピクトグラム JIS規格 (JIS Z 8210 案内用図記号)

男子 女子 男女共用お手洗い 身障者用設備 オストメイト ベビーケアルーム (授乳室) ベビーカー かつお交換台 エレベーター 階段 男子更衣室 女子更衣室 シャワー室 自動販売機



サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
O-4 案内板(自立)	3	自立	1/30	基礎:建築工事(サイン工事外)



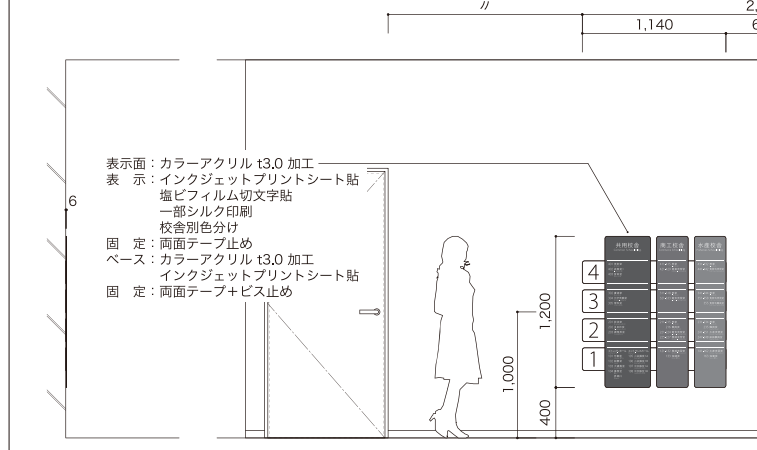
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
O-5 学校名称サイン(ゲート部)	2	壁付	1/10	数量 施工:1台 水産:1台



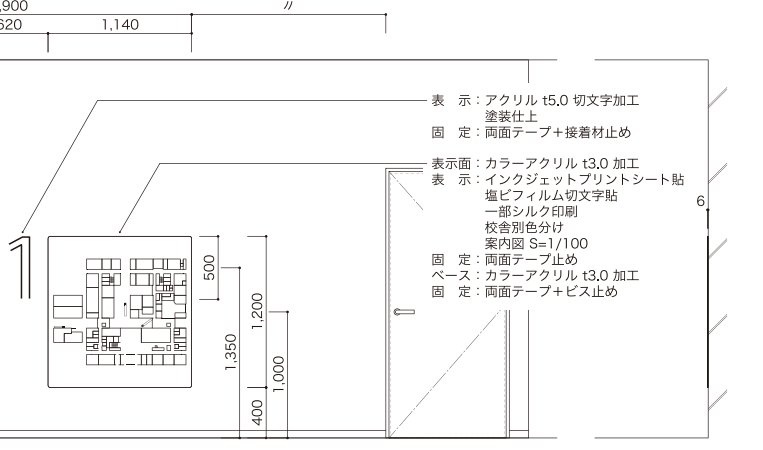
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
A-1 エリア名称サイン	20	扉付	1/30 1/10	



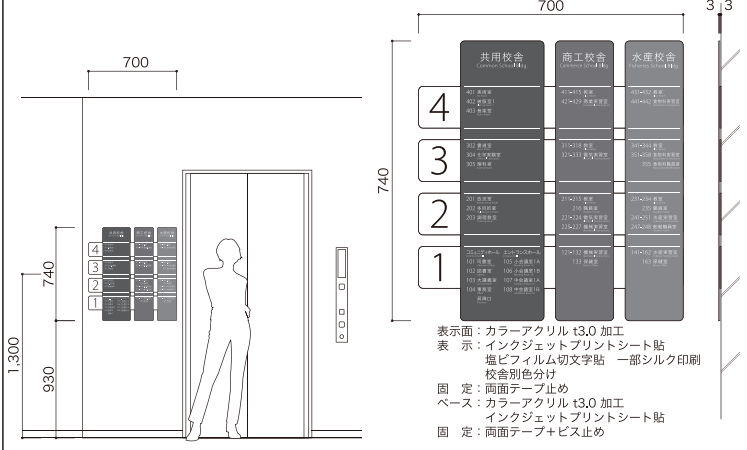
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
B-1 総合案内サイン	1セット	壁付	1/30	全館案内+1階フロア案内図



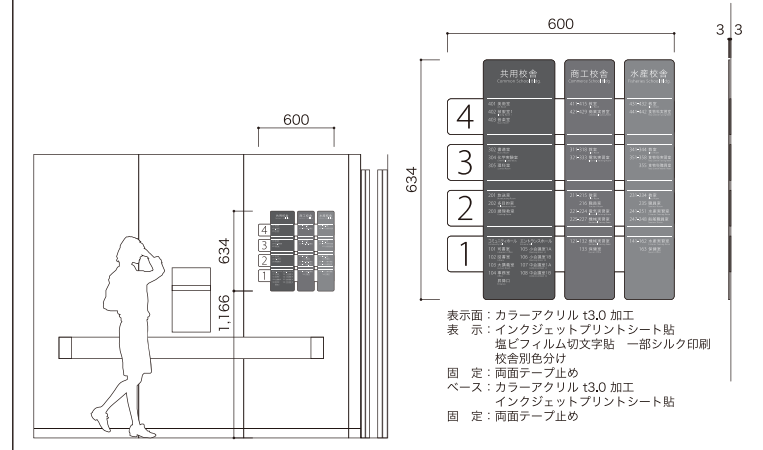
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
B-2 EV前案内サイン	4	壁付	1/30 1/10	



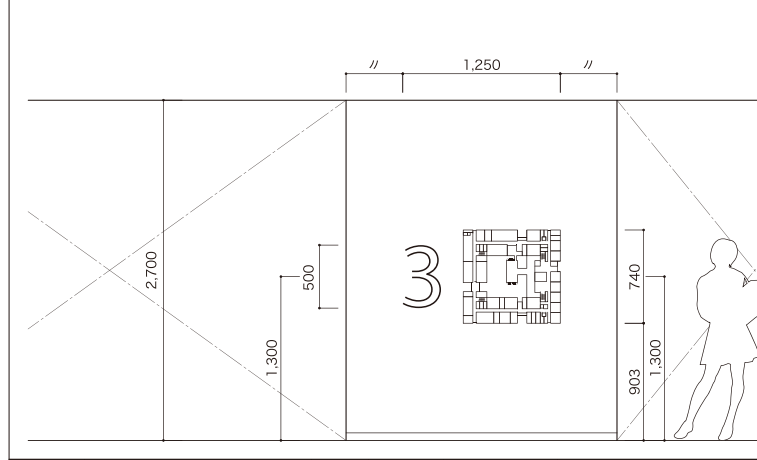
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
B-3 EV案内サイン	1	カゴ内付	1/30 1/10	



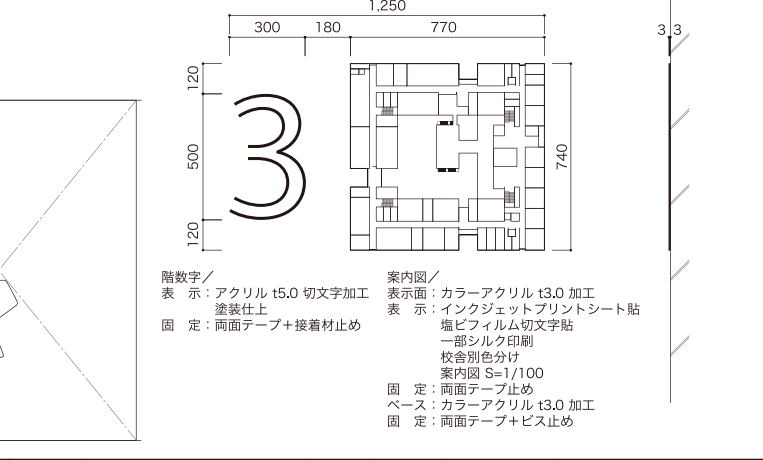
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
B-4 フロア案内サイン	12	壁付	1/30 1/15	



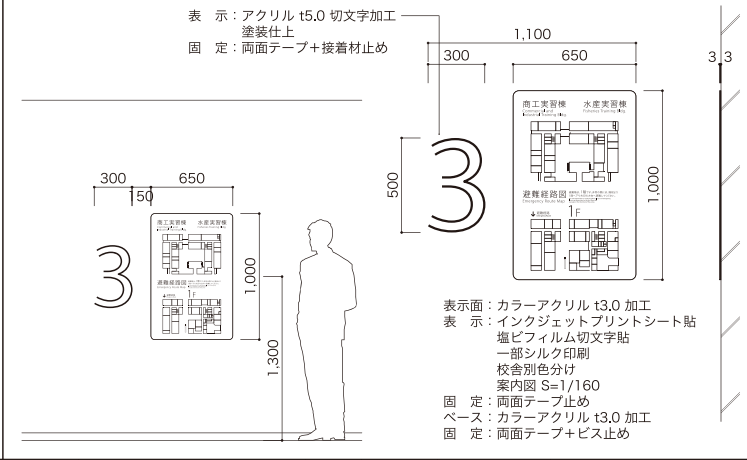
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
B-5 エリア案内サイン	8	壁付	1/30 1/20	エリア案内+避難経路図



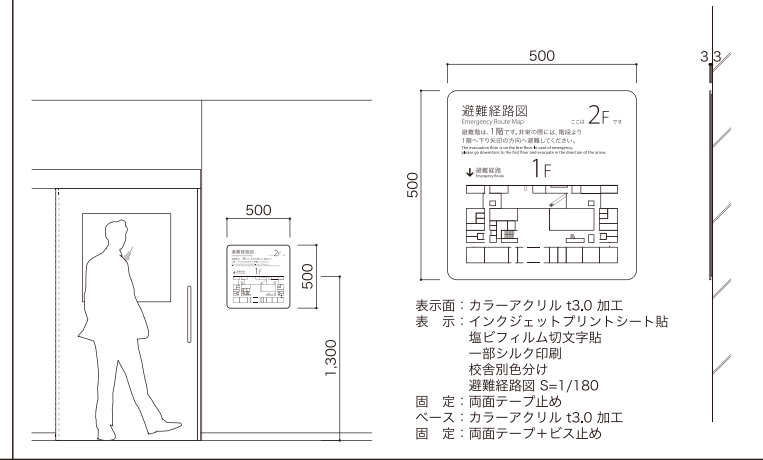
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
B-6 避難経路図	6	壁付	1/30 1/10	



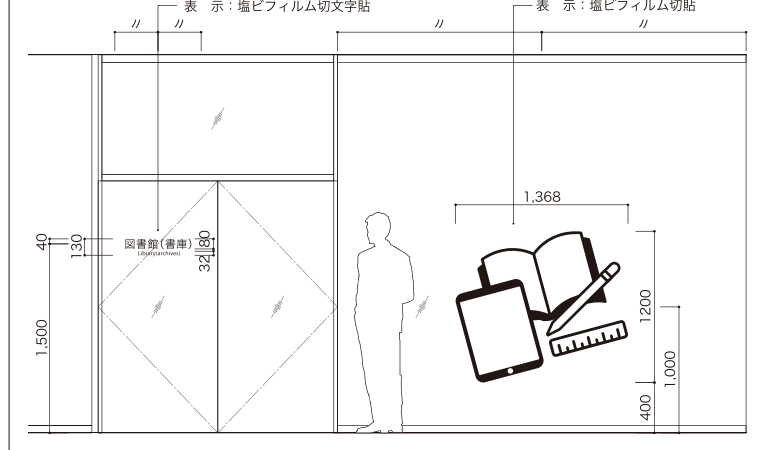
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
C-1 室名サイン_A(大)	5	ガラス面/扉付	1/30	デザインは仮



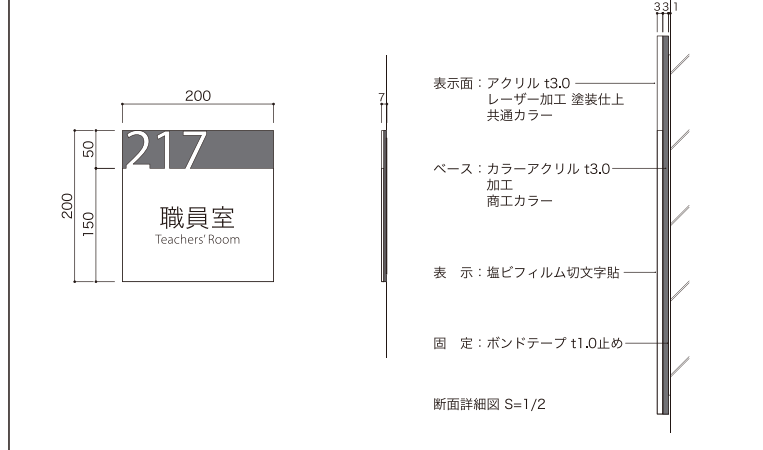
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
C-2 室名サイン_B	24	壁付	1/5 1/2	



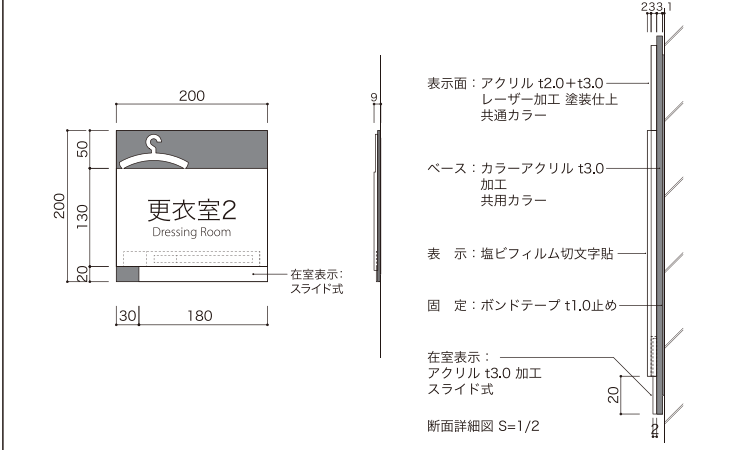
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
C-3 室名サイン_C(在空表示)	29	壁付	1/5 1/2	



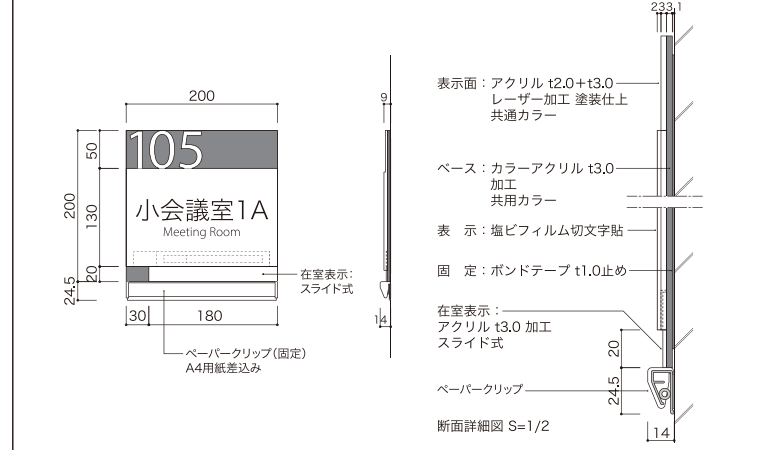
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
C-4 室名サイン_D(催事案内)	4	壁付	1/5 1/2	



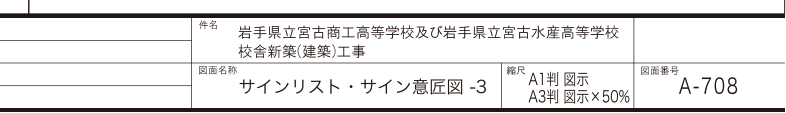
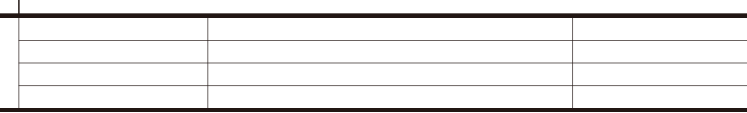
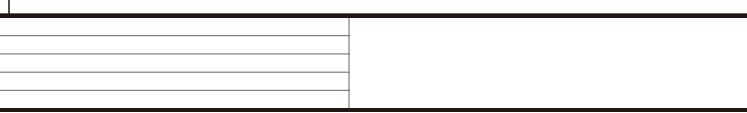
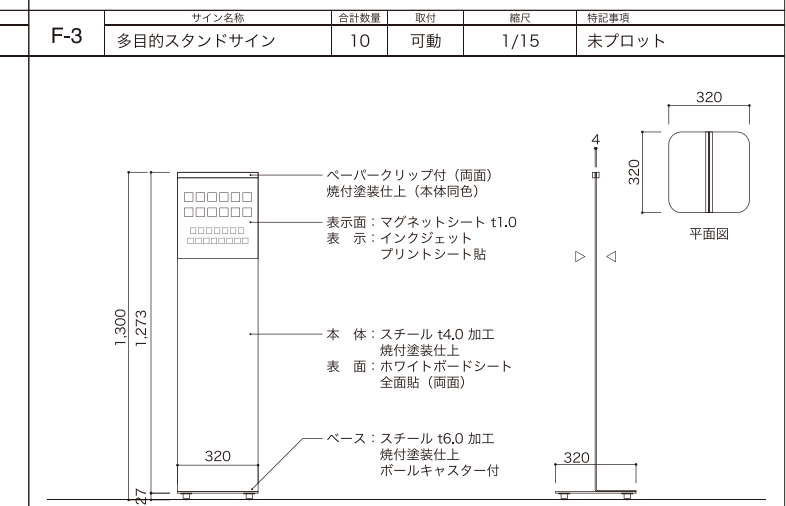
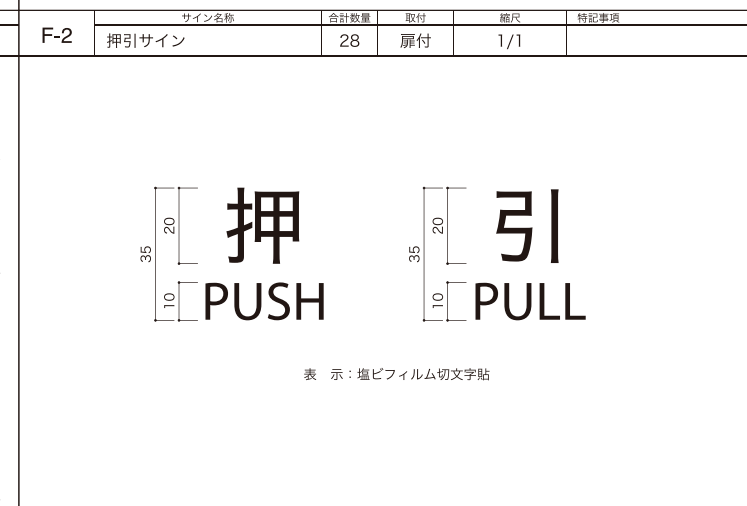
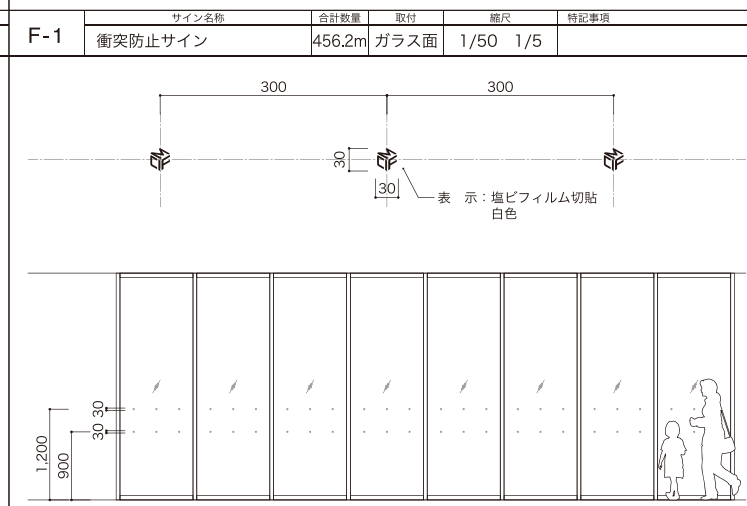
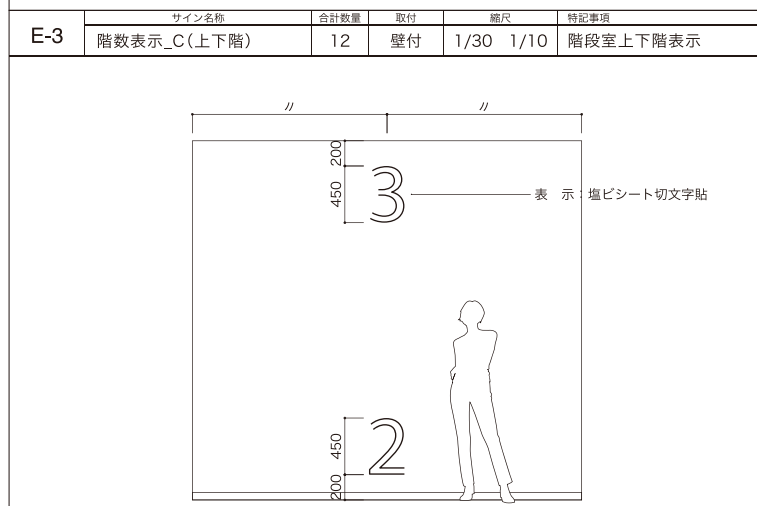
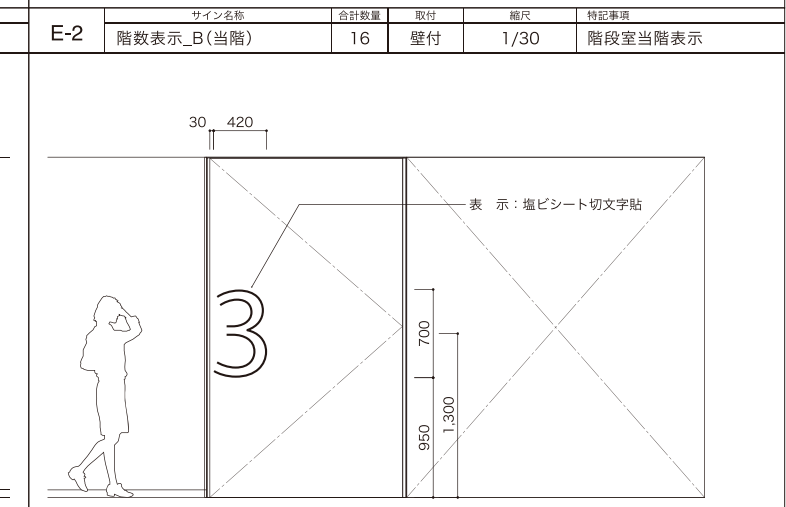
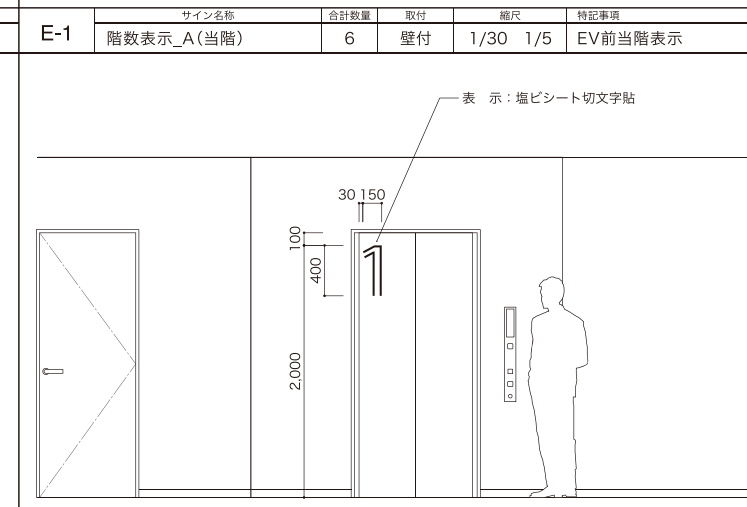
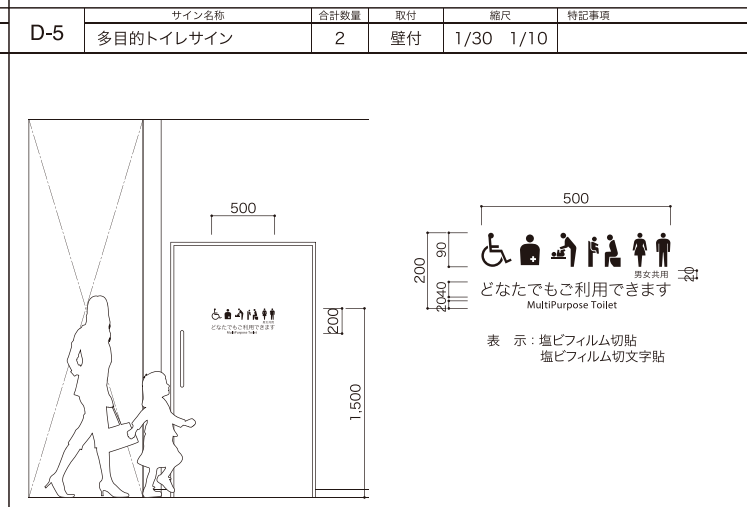
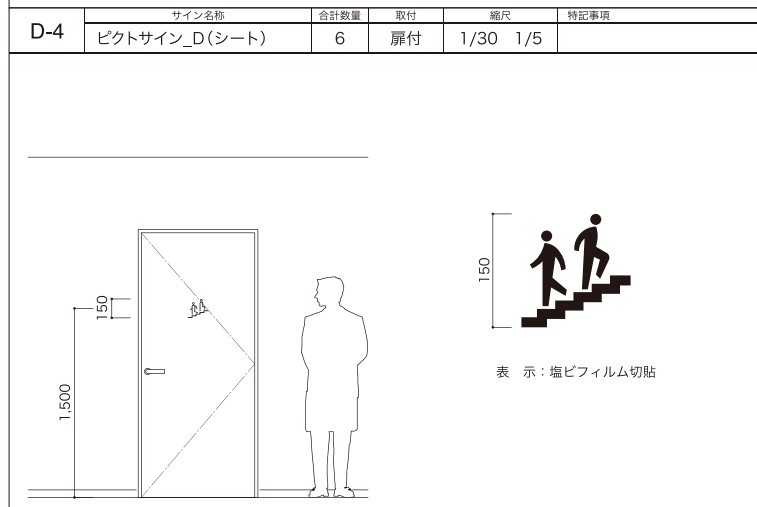
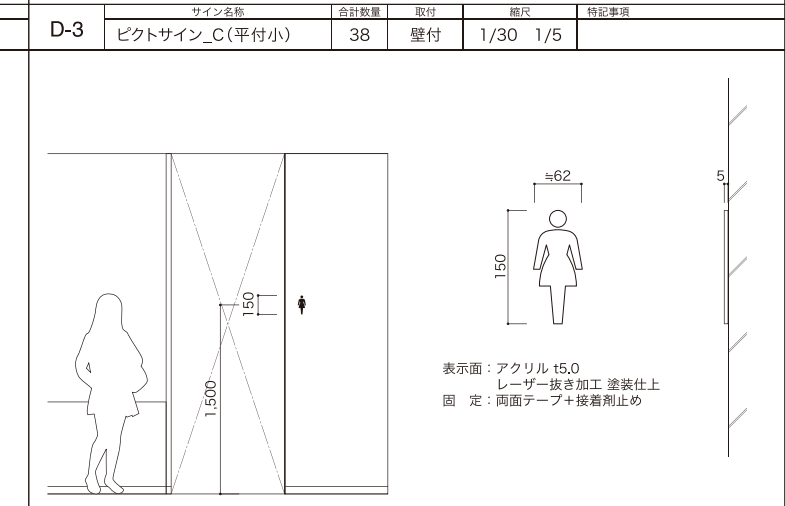
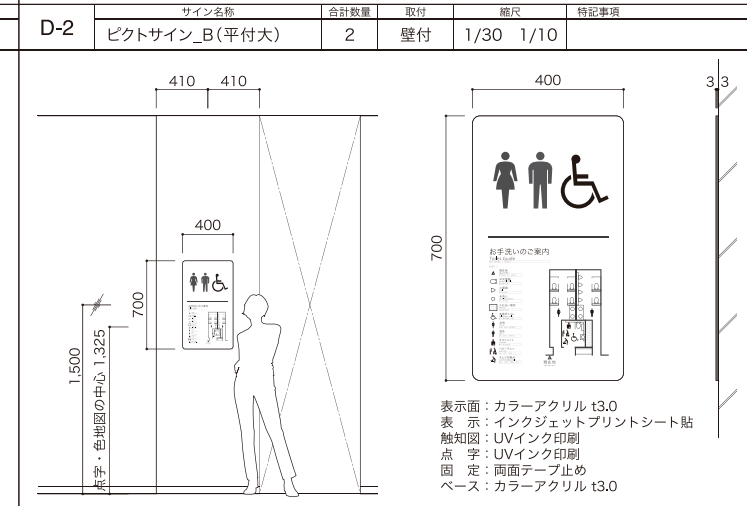
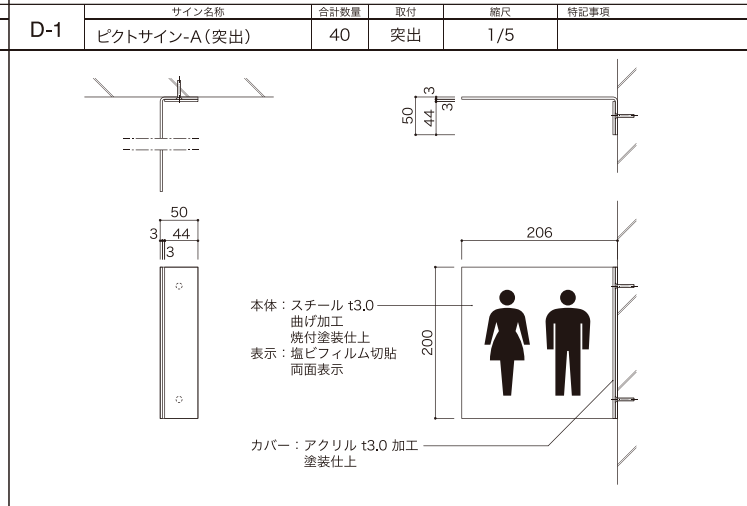
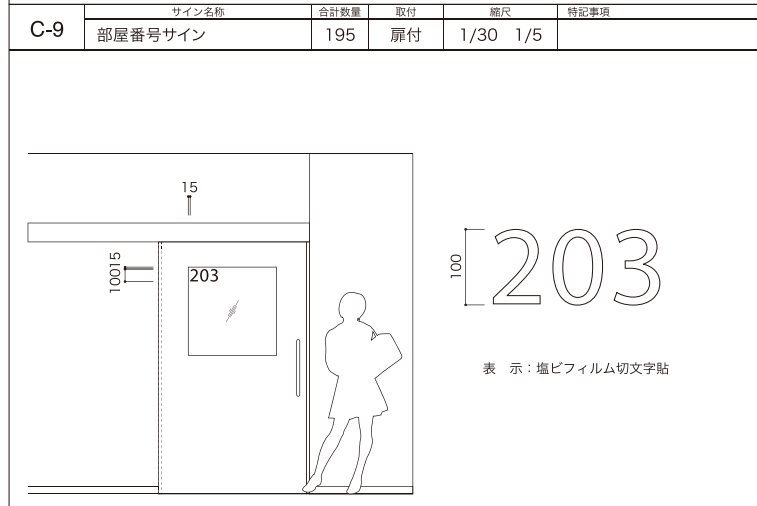
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
C-1 室名サイン_A(大)	5	ガラス面/扉付	1/30	デザインは仮



サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
C-2 室名サイン_B	24	壁付	1/5 1/2	



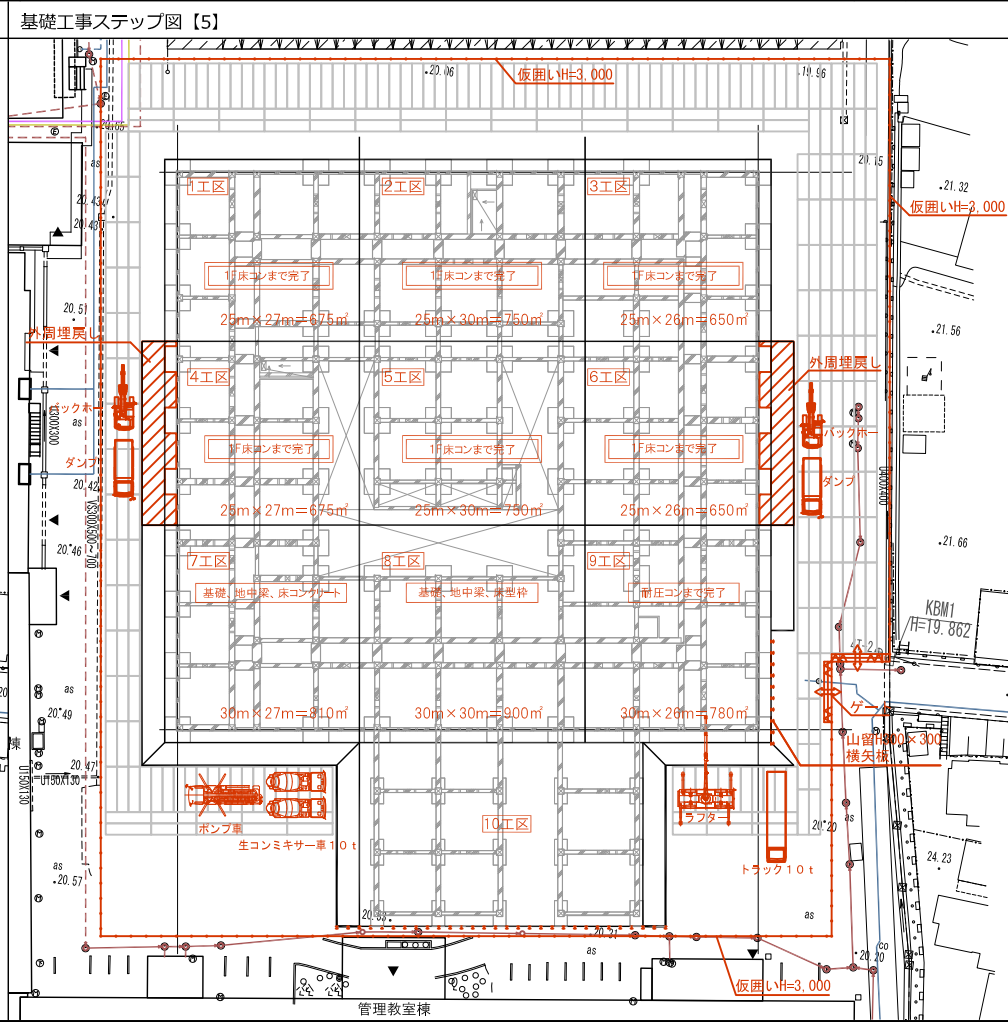
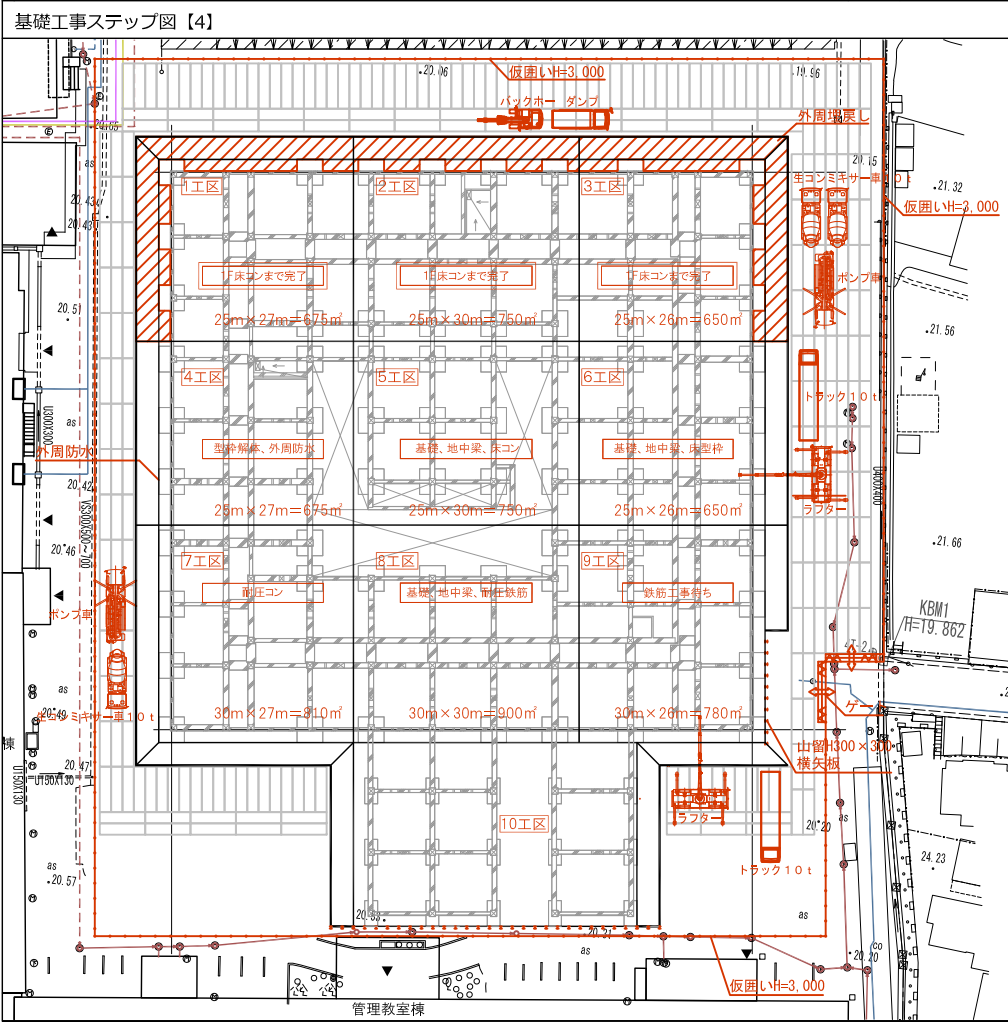
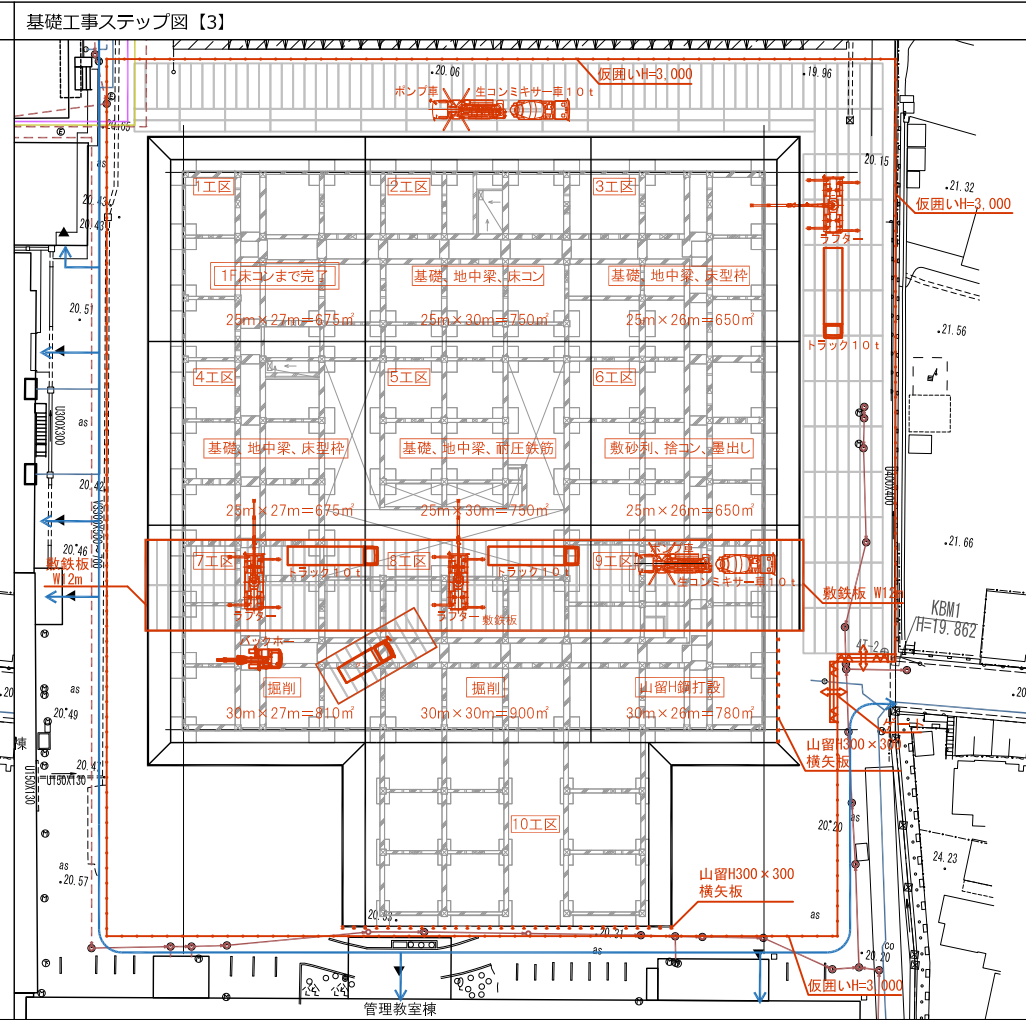
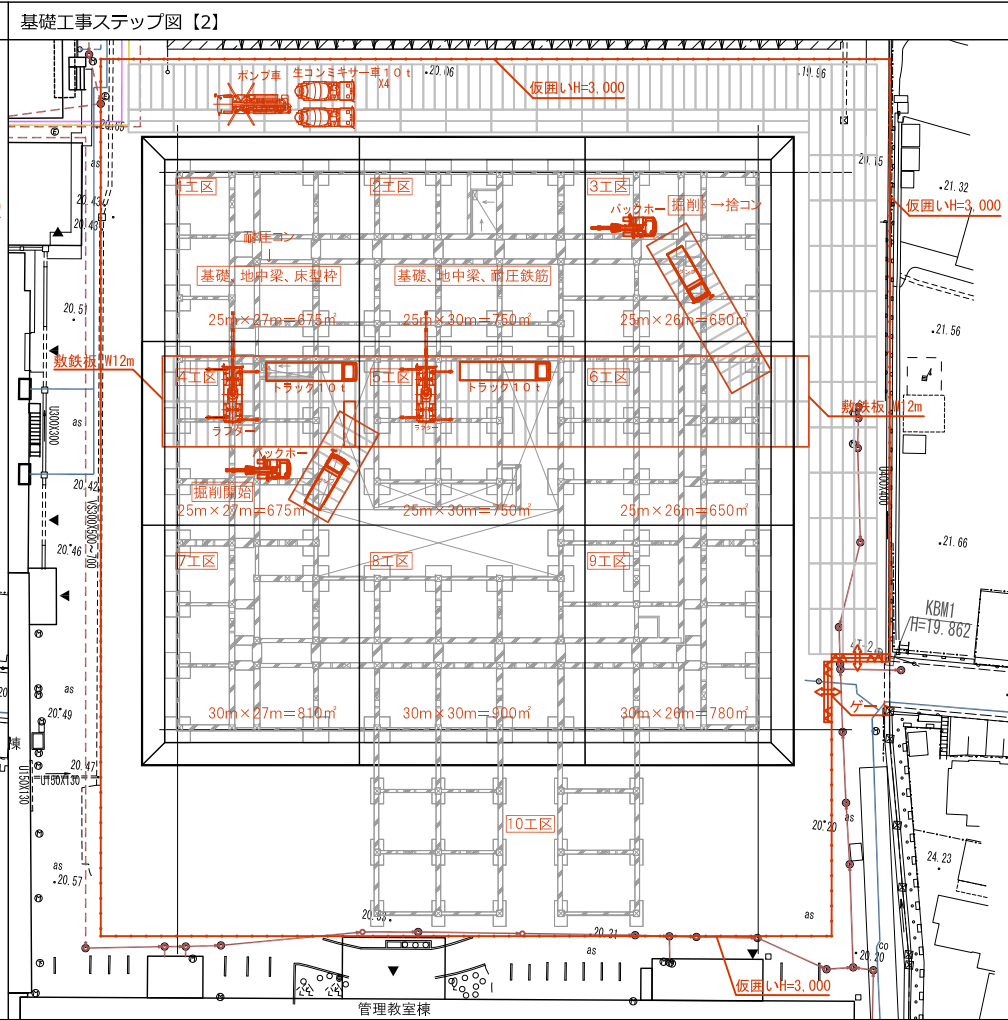
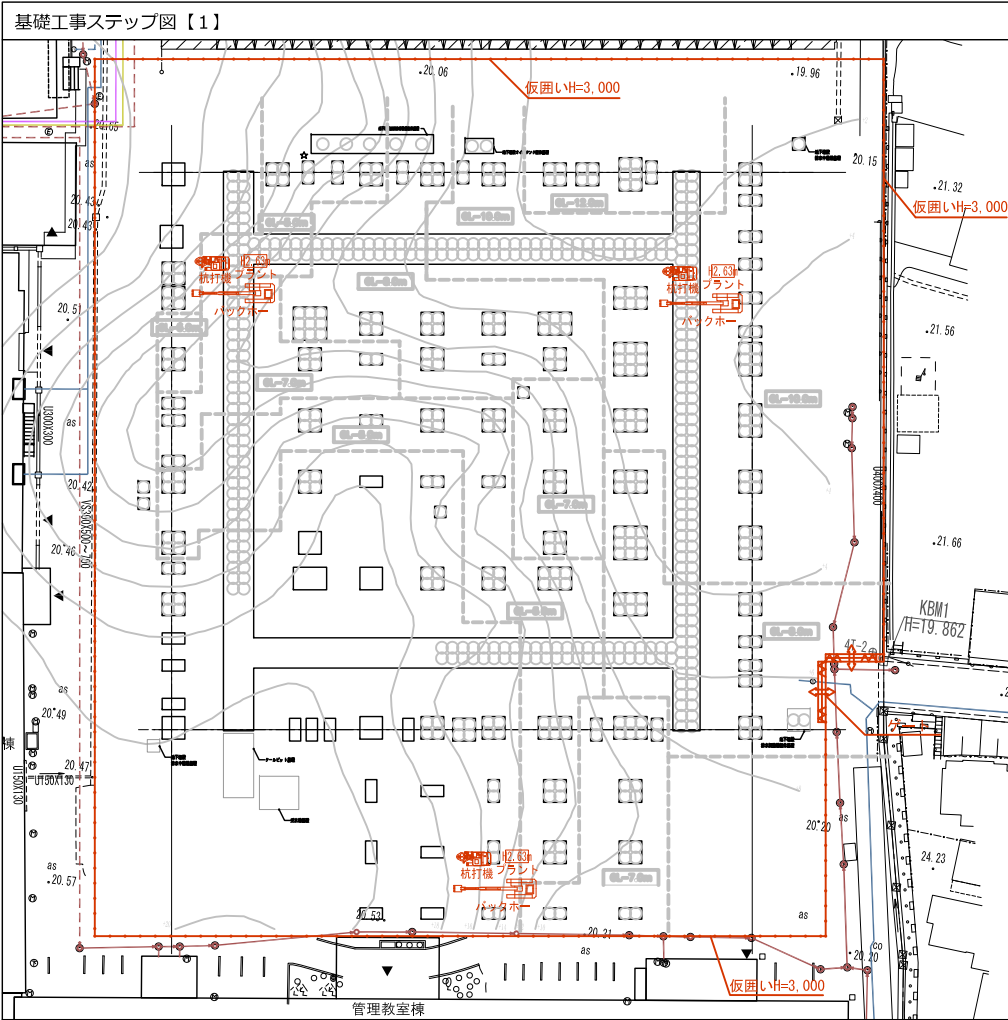
サイン名称	合計数量	取付	幅	高さ	特記事項
C-5 教室サイン_A	26	壁付	1/5	1/2	
C-6 特別教室サイン_A	62	壁付	1/5	1/2	黒板側入口に設置
C-7 特別教室サイン_B	51	壁付	1/5	1/2	黒板と反対側入口 準備室に設置
C-8 バックヤード室名サイン	215	扉付	1/30	1/2	



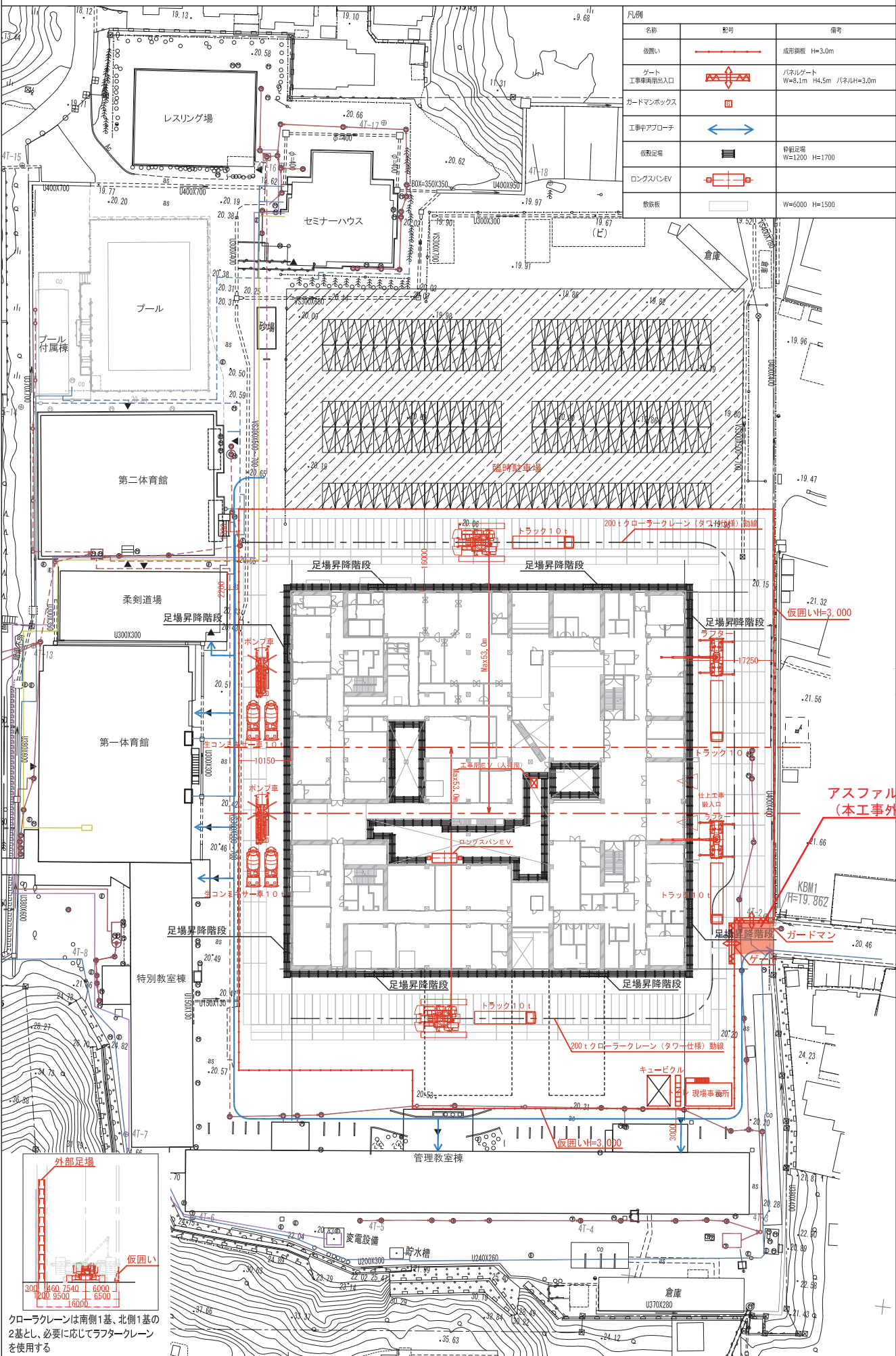
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項	サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項	サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項	サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
F-4 下足入れサイン	720	下足入れ付	1/5 1/2	未プロット	F-5 消火器・消火栓サイン	100	扉付	1/20 1/5	未プロット	F-6 オートドアサイン	4	扉付	1/50 1/5	未プロット	F-7 代替進入口サイン	16	ガラス面	1/5	未プロット
F-8 注意書きサイン	5	壁付	1/10	未プロット	F-9 ロッカーNo.表示	840	ロッカー付	1/2	未プロット	F-10 ゴミ分別表示	50	ゴミ箱付	1/2	未プロット	F-11 設備電気配管ダクト 説明タグプレート	100	壁付	1/5	未プロット

サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項	サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項	サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項	サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項
G-1 施設ロゴマークサイン_A	1	ガラス面	1/30	大講義室	G-2 施設ロゴマークサイン_B	10	ガラス面	1/30											

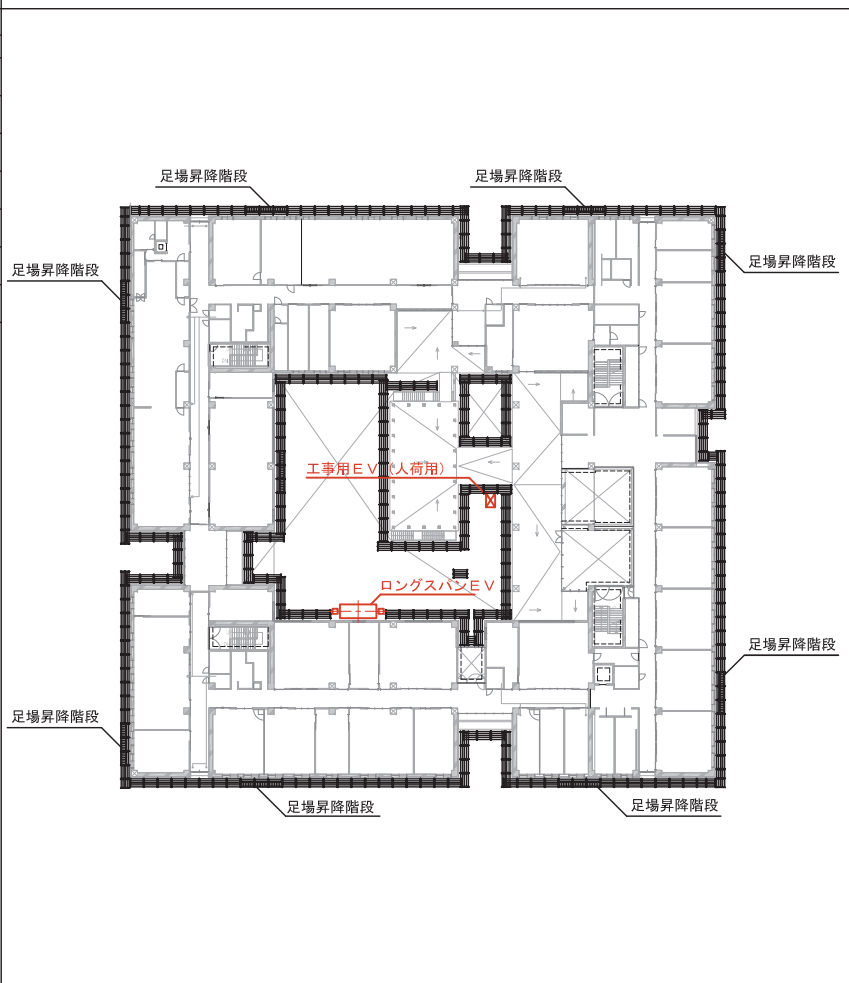
サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項	サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項	サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項	サイン名称	合計数量	取付	縮尺	特記事項



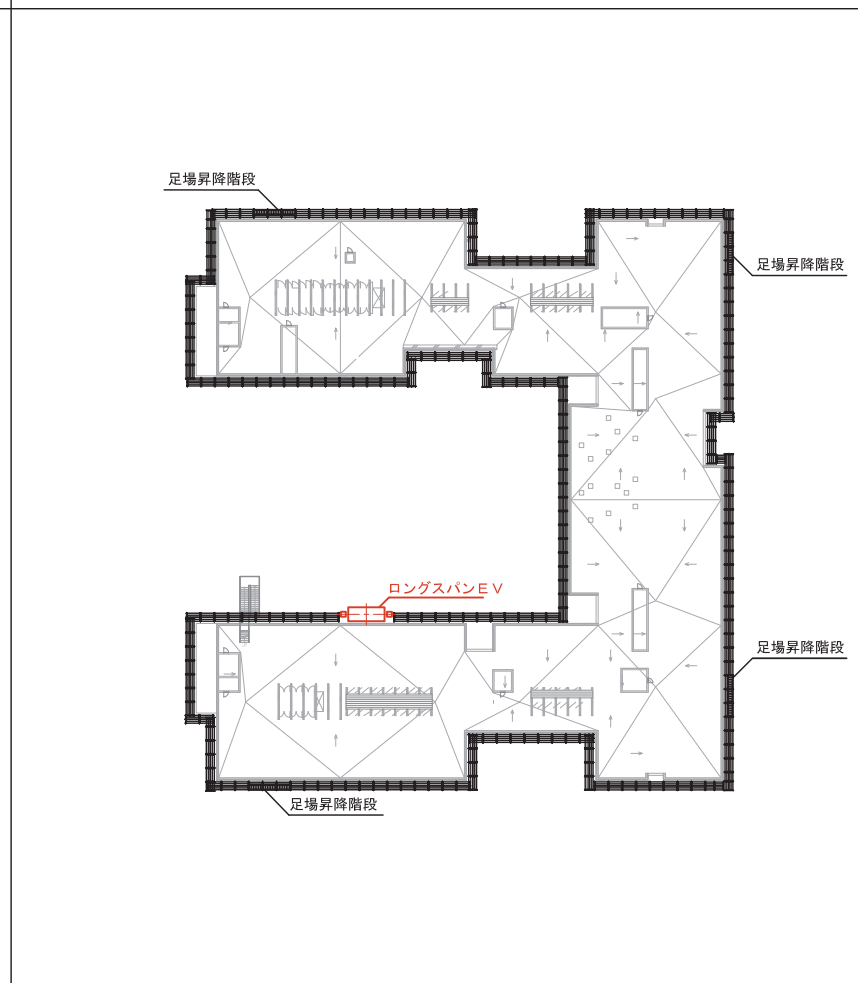
地上躯体工事・仕上工事仮設計画【1F】



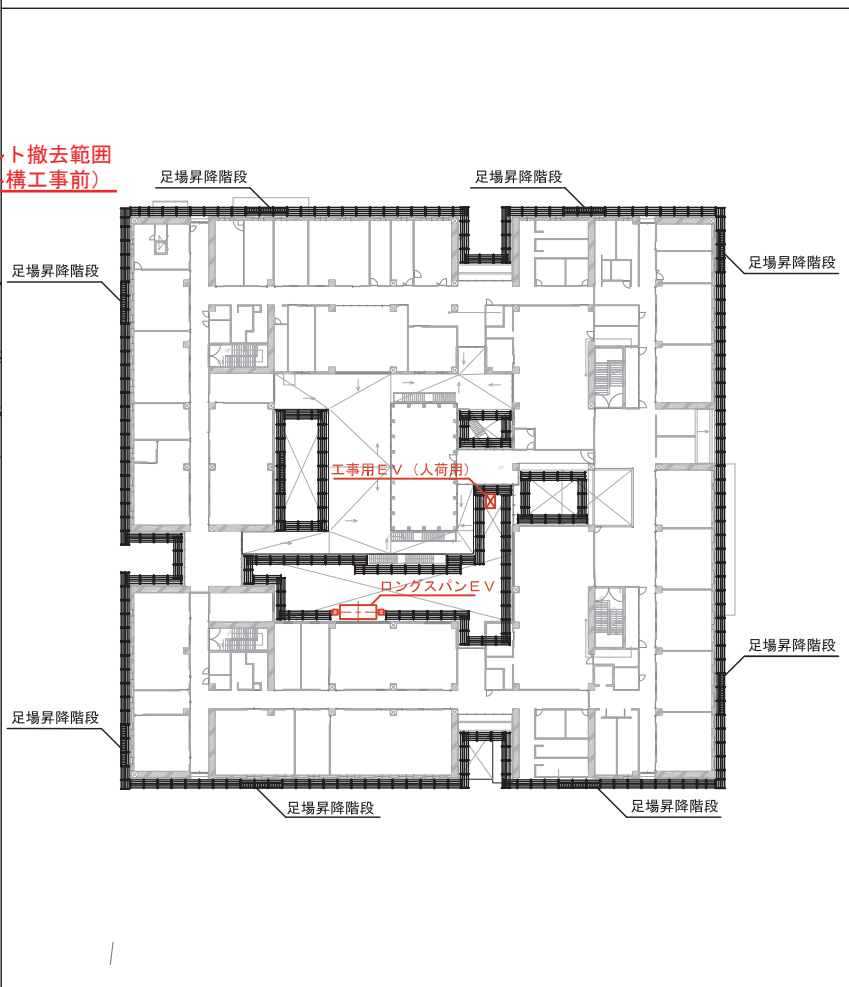
地上躯体工事・仕上工事仮設計画【3F】



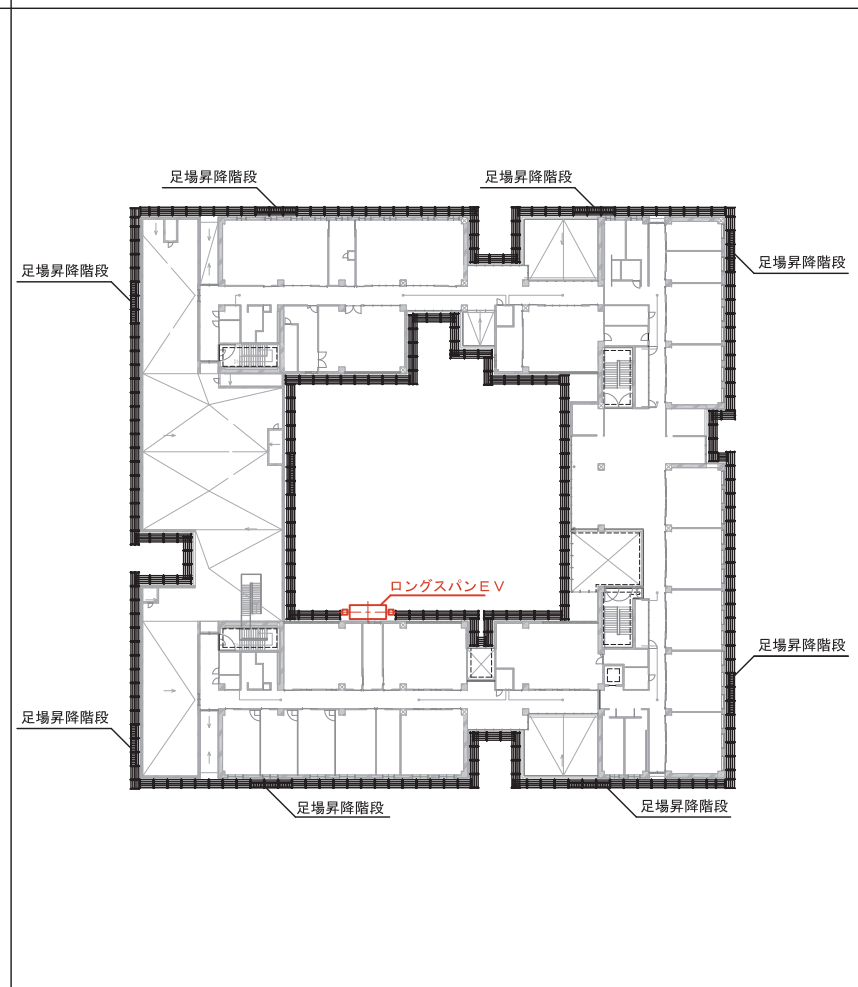
地上躯体工事・仕上工事仮設計画【RF】



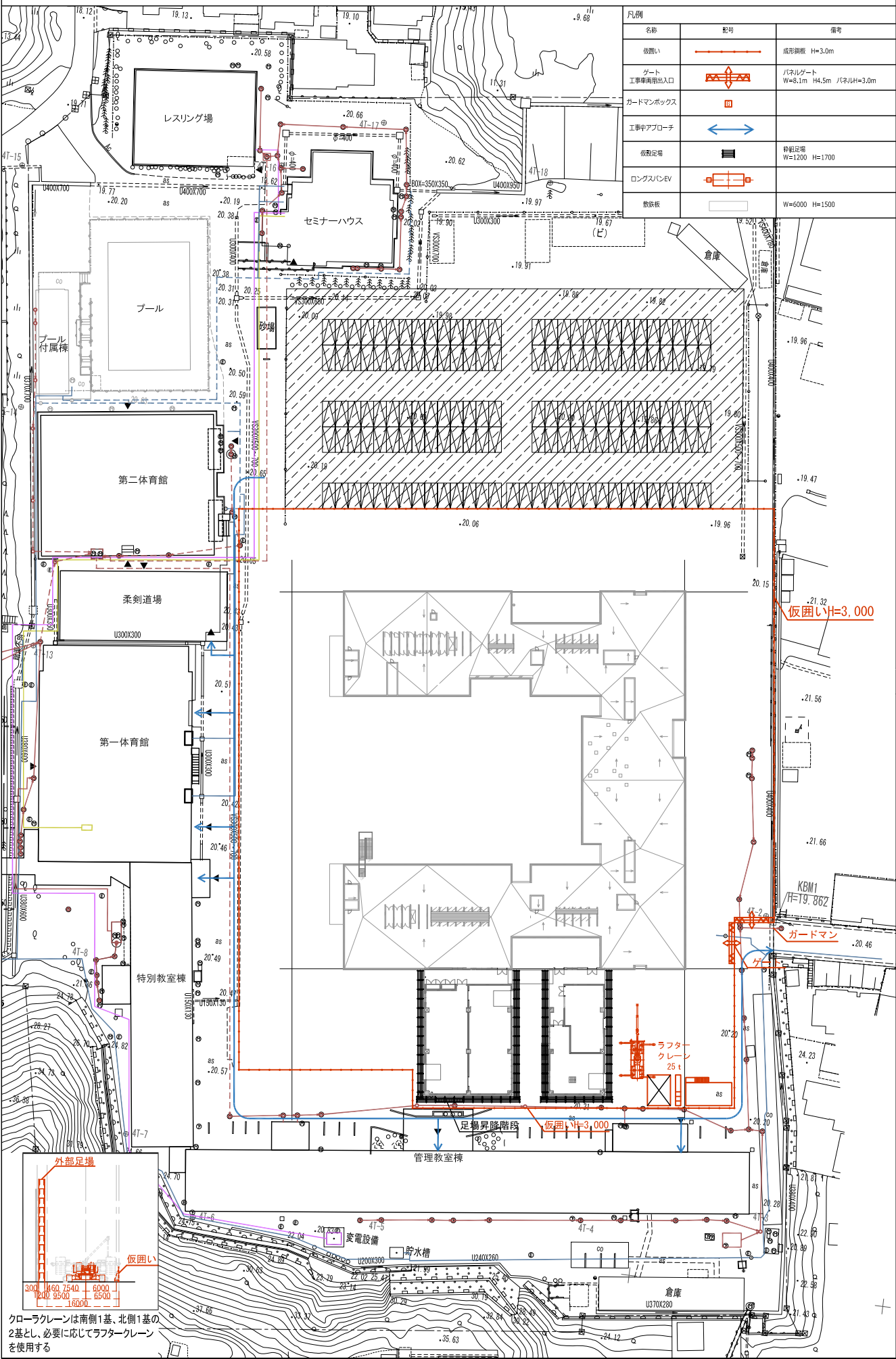
地上躯体工事・仕上工事仮設計画【2F】



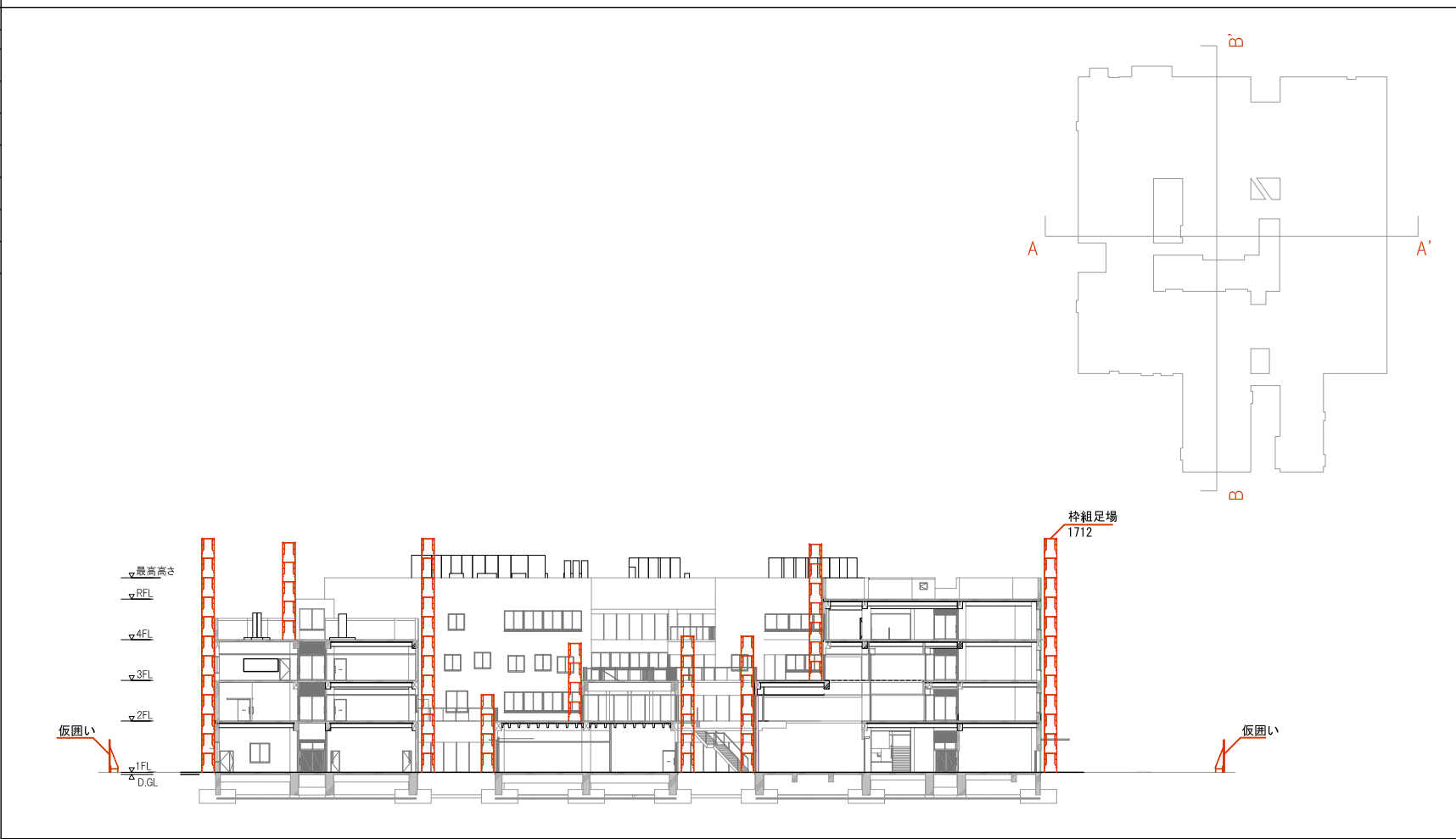
地上躯体工事・仕上工事仮設計画【4F】



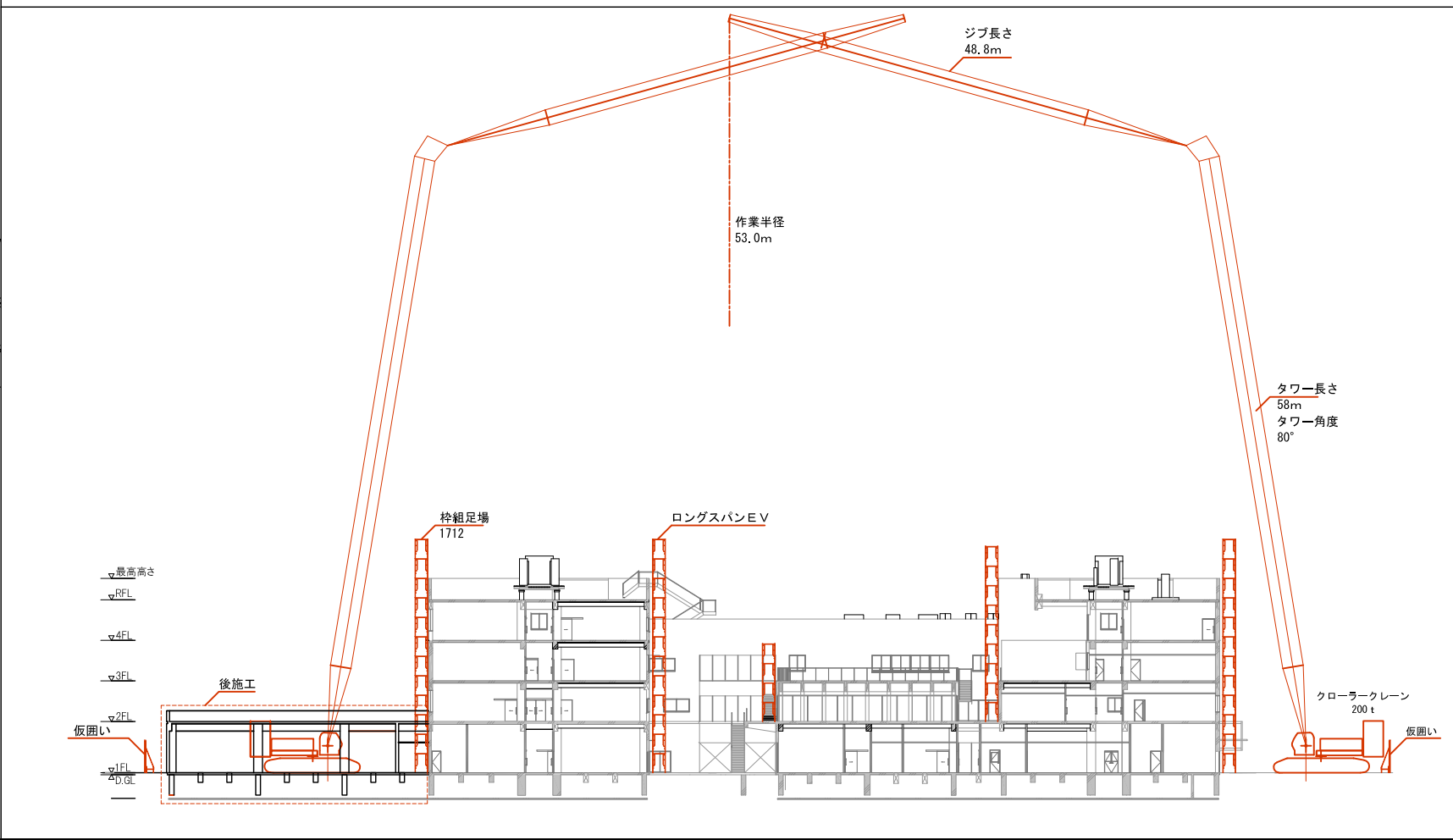
10工区施工時仮設計画



地上躯体工事・仕上工事仮設計画【A-A'断面図】 1:300



地上躯体工事・仕上工事仮設計画【B-B'断面図】 1:300



昇降機設備工事特記仕様書

特記仕様書の適用について

設計図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、共仕・標仕による。特記仕様書の章、節、項番号及び表番号は、追加の場合を除き共仕・標仕の当該番号とする。
 特記仕様書の以下の表記は、次による。
 【読替】：共仕、標仕の当該章、節、項の規定を特記の規定に読み替える。
 【追加】：共仕、標仕の章、節、項の規定に新たに章、節、項を追加する。
 特記事項の内、選択肢のあるものは、●の付いたものを適用し、○印は適用しない。

1 適用基準

- 建築基準法
- 消防法
- 民間(七会)連合協定工事請負契約約款に適合した工事共通仕様書(令和5年版)機械設備工事編:第1編のみ
- 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(令和4年版)機械設備工事編:第9編
- 公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(令和4年版)
- 機械設備工事監理指針 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(令和4年版)
- 建築設備設計・施工上の運用指針 日本建築設備・昇降機センター(2019年版)
- 昇降機技術基準の解説 日本建築設備・昇降機センター(2016年版)
- 一般社団法人日本エレベーター協会標準(JEAS)

2 工事種目

(1) 工事種目 (下記以外の特記補足事項に記載)

- 一般エレベーター設備工事 ○ 非常用エレベーター設備工事
 - 乗用エレベーター設備
 - 寝台用エレベーター設備
 - 人荷共用エレベーター設備
 - 荷物用エレベーター設備
 - エスカレーター設備工事
- 普及型エレベーター設備工事
 - 一般乗用エレベーター設備
 - 寝台用エレベーター設備

機械室レスエレベーターは一般及び普及型、非常用エレベータ設備工事に含む
見積書の項目順序は、工事種目順とする。

(2) エレベーターの耐震

(a) 耐震安全性の分類、「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準(令和3年版改訂)」による。
 ● 耐震クラスA14 : 標準クラスとし、希に発生する地震動においては、地震後かご内から速やかに避難することが出来ることと、極めて希に発生する地震動においては、人命安全を確保することを目的とするもの。
 ○ 耐震クラスS14 : 耐震クラスA14より地震時の構造部分の損傷が少なく、地震後のエレベーターの速やかな機能回復を目的とするもの。

(b) 地域係数 ○ 1.2 ● 1.0 ○ 0.9 ○ 0.8 ○ 0.7

(c) 設計用水平標準震度
 建築物の高さが60m以下の基準
 設計用水平震度は、設計用水平標準震度に特記した地域係数を乗じたものとする。

設計用水平標準震度(A14またはS14)						
対象機器	耐震安全性分類	乗用・寝台・人荷共用エレベーター		荷物用エレベーター		
		A14	S14	A14	S14	
懸垂機器	建築物の全高1/4の上層階	防振 固定	0.3・K2・λ	0.45・K2・λ	0.3・K2・λ	0.45・K2・λ
	上層階を除く2階以上	防振 固定	0.4・K2	0.6・K2	0.4・K2	0.6・K2
	1階及び地階	防振 固定	0.6	1.0	0.6	1.0
	基礎免震免震全階	防振 固定	0.3・K2	0.45・K2	0.3・K2	0.45・K2
	注1. 本表における「設計用水平標準震度」は、昇降機耐震設計・施工指針で定める「設計用水平標準震度」にエレベーターの用途別の係数を乗じたものとする。					
	2. 機器の区分は、次による。 懸垂機器:制御盤、巻上機、そらせ車 昇降案内機器:レール、レール支持部材					

注1. 本表における「設計用水平標準震度」は、昇降機耐震設計・施工指針で定める「設計用水平標準震度」にエレベーターの用途別の係数を乗じたものとする。
 2. 機器の区分は、次による。
 懸垂機器:制御盤、巻上機、そらせ車
 昇降案内機器:レール、レール支持部材

3. 制御盤は、防振支持の数値とする。
 4. 免震構造及び制振構造の建物は特記なき場合は、設計用水平標準震度の最低値はS14で0.3、A14で0.2とする。

建築物の高さが60mを超える場合の設計用水平震度は、当該建物の動的解析による加速度応答倍率を考慮した値に、特記した地域係数を乗じたものとする。
 当該建物の動的解析による加速度応答倍率を考慮した値は、S14で0.6以上、A14で0.4以上とする。ただし、免震構造建物の場合はS14で0.3以上、A14で0.2以上とする。

3 エスカレーターの耐震

(a) 設計用水平標準震度
 建築物の高さが60m以下の場合の設計用水平震度は、設計用水平標準震度に特記した地域係数を乗じたものとする。

設計用水平標準震度				
設置階	設置階	設計用水平標準震度		
		設計用水平標準震度	設計用水平標準震度	
上層階及び屋上		1.0		
中間階		0.6		
1階及び地階		0.4		

上層階は2から6階建の場合は最上階、7から9階建の場合は上層2階、10から12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。中間階は、1階及び地下階を除く各階で上層階に該当しない階とする。

建築物の高さが60mを超える場合の設計用水平震度は、当該建物の動的解析による加速度応答倍率を考慮した設計用水平標準震度に、特記した地域係数を乗じたものとする。その地域係数を乗じる前の値は、0.4以上とする。
 免震構造及び制振構造の建築物は設計図内に基準を示す。

(b) 設計用鉛直標準震度
 設計用鉛直震度は、設計用鉛直標準震度に特記した地域係数を乗じたものとする。

設計用鉛直標準震度			
設置階	設置階	設計用鉛直標準震度	
		設計用鉛直標準震度	設計用鉛直標準震度
上層階及び屋上		0.5	
中層階		0.3	
地階及び1階		0.2	

(c) 層間変形角
 エスカレーターの設計用層間変形角は「地震その他の震動によってエスカレーターが脱落するおそれがない構造方法を定める件」(平成25年国土省告示1046号)による。

設計用水平標準震度(A14またはS14)

対象機器	耐震安全性分類	乗用・寝台・人荷共用エレベーター		荷物用エレベーター		
		A14	S14	A14	S14	
懸垂機器	建築物の全高1/4の上層階	防振 固定	0.3・K2・λ	0.45・K2・λ	0.3・K2・λ	0.45・K2・λ
	上層階を除く2階以上	防振 固定	0.4・K2	0.6・K2	0.4・K2	0.6・K2
	1階及び地階	防振 固定	0.6	1.0	0.6	1.0
	基礎免震免震全階	防振 固定	0.3・K2	0.45・K2	0.3・K2	0.45・K2
	注1. 本表における「設計用水平標準震度」は、昇降機耐震設計・施工指針で定める「設計用水平標準震度」にエレベーターの用途別の係数を乗じたものとする。					
	2. 機器の区分は、次による。 懸垂機器:制御盤、巻上機、そらせ車 昇降案内機器:レール、レール支持部材					

注1. 本表における「設計用水平標準震度」は、昇降機耐震設計・施工指針で定める「設計用水平標準震度」にエレベーターの用途別の係数を乗じたものとする。
 2. 機器の区分は、次による。
 懸垂機器:制御盤、巻上機、そらせ車
 昇降案内機器:レール、レール支持部材

3. 制御盤は、防振支持の数値とする。
 4. 住宅用エレベーターは、乗用エレベーターに準じる。
 5. 各階床応答加速度及び層間変形角は下記による。

床応答加速度及び層間変形角				
構造	階床	階高[mm]	フロアレスポンス	層間変形角
			最大値 Fr(cm/s ²)	差分
RC造	4	3800		1/200
	3	3800		1/200
	2	3800		1/200
	1	4800		1/200

(d) 設計用鉛直震度
 設計用鉛直震度は、設計用鉛直標準震度に特記した地域係数を乗じたものとする。ただし、機械室ありの場合および機械室なしの場合で、懸垂機器が常時昇降案内機器に鉛直荷重を与えない場合は、昇降案内機器は対象としない。

設計用鉛直標準震度(A14またはS14)

対象機器	耐震安全性分類	乗用・寝台・人荷共用エレベーター		荷物用エレベーター		
		A14	S14	A14	S14	
懸垂機器	建築物の中間階超え	防振支持 固定支持	0.6	1.0	0.6	1.0
	建築物の中間階以下	防振支持 固定支持	0.3	0.5	0.3	0.5
	建築物の中間階超え	弾性支持 固定支持	0.4	0.6	0.3	0.45
	建築物の中間階以下	弾性支持 固定支持	0.2	0.3	0.15	0.225
	建築物の中間階以下	弾性支持 固定支持	0.2	0.3	0.15	0.225
	建築物の中間階以下	弾性支持 固定支持	0.1	0.15	0.075	0.1125

注1. 本表における「設計用鉛直標準震度」は、昇降機技術基準の解説で定める「設計用鉛直標準震度」にエレベーターの用途別の係数を乗じたものとする。
 2. 機器の区分は、次による。
 懸垂機器:制御盤、巻上機、そらせ車
 昇降案内機器:レール、レール支持部材

3. 制御盤は、防振支持の数値とする。
 4. 免震構造の建築物については、設計図内に基準を示す。

4 建築物省エネルギー消費性能適合性判定

【追加】

- 「省エネ適合判定」は、下記による。
 ○ 標準入力法 ● モデル建物法 ○ 国土交通大臣による認定
- 「省エネ適合判定」の計画書・添付図書に記載されたメーカー定格能力、台数仕様を変更する場合、受注者は変更該部分の1次エネルギー消費量および計算書等を作成し、基準値以内にあることを確認の上、監理者へ提出すること。
 なお、第三者認証(日本工業規格(JIS)など)による確認を受けられない機材を選定する場合は、メーカーの自己適合宣言書などをともに書類作成し、監理者へ提出すること。
- 受注者は、「省エネ基準工事監理報告書」に記載されている事項について、資料を準備し、監理者へ提出すること。(施工写真、施工図、施工計画書、検査、記録書、製品ラベル、自主検査記録書、納入仕様書、品質証明書等)

5 官庁諸手続き

【追加】

確認申請を含む官庁への必要な手続き(変更申請手続きを含む)は受注者が建築主の代理者及び昇降機設計者として行い、その費用は受注者負担とする。手続き書類は正本、副本計2部を作成する事。
 また、官庁検査等に必要な書類、測定データ等は事前に取り組み、監理者に提出し承諾を得ること。

6 インバーター制御エレベーター及びエスカレーター

【追加】

- 高調波抑制対策はACLまたは絶縁トランス等を設置し、高調波抑制対策ガイドラインに定義されている換算係数Ki=1.8以下を満足するものとする。
- ノイズ(高次高調波)対策は、絶縁トランスまたは高次高調波対策フィルター等を設置する。

7 他システムとの関連

【追加】

昇降機設備の運転制御、監視、警報、監理などにおける他設備システムとの関連は以下による。

(a) 供給電源の識別
 ○ 商用電源と非常電源(発電装置電源)の識別接点信号を受変電設備、発電設備より上げ制御、監視を行う。(自家発電時管制運転)

(b) 特定階停止(不停止)制御
 ○ 建物施設の鍵管理システム、防犯セキュリティシステム及びかご内操作盤組込み特定階制御スイッチなどによる制御信号を受け、指定号機、指定階などの不停止制御を行う。

(c) 警備保障設備
 ○ 昇降機の故障時などに一定条件のもとで、昇降機設備から通報、信号などを警備保障システム、昇降機保守管理会社へ通報、発信を行う。

(d) エレベーター監視設備
 ● 昇降機設備の状態、監視の接点信号を発生、中央監視設備で状態監視を行う。
 (接点信号: ● 故障または異常 ● インターホン通話)

(e) 自動火災報知設備
 ● 自動火災報知設備の火災発報信号を受け、火災時管制運転を行う。

(f) 拡声放送設備
 ● 非常放送、業務放送、BGMなどの放送設備と接続を行い、かご内の放送等を行う。

(g) 監視カメラ
 ● かご内に監視カメラを設置し、中央監視室または防災センター(1階 事務室)にて監視を行う。

(h) 防火シャッター
 ○ エスカレーター区画用防火シャッター降下に連動しエスカレーター停止させる。

(i) 照明設備
 ○ エスカレーターの照明は照明制御盤からの外部信号にて点滅を行う。

(j) 監視設備
 ● 昇降機設備の監視盤(インターホン組込)を(1階 事務室)に設置する。

(k) インターホン
 ● 昇降機設備のインターホン親機を(1階 事務室)に設置する。
 ● 小荷物専用昇降機の居室インターホンを(3階 食料科職員室)に設置する。

(l) 緊急地震速報設備
 ● 緊急地震速報と連動しエレベーター管制運転を行う。

8 電線およびケーブル

【追加】

配線は図中の表記にかかわらず、設置が可能な部分には下記を使用する。
 EM-電線またはケーブル(#S-3005 60度傾斜難燃試験に合格)

9 サージ保護装置

【追加】

(a) エレベーター制御盤には、サージ保護装置を設置する。

(b) エレベーター制御盤と監視盤間を伝送ラインで行う場合は、それぞれに通信用のサージ保護装置を設置する。

10 指定メーカーリスト

【追加】

本工事で使用する機材の指定メーカーは下記とする。

訂正	

姓名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校	図面名称	昇降機設備 特記仕様書-1	図面番号	EV-001
	校舎新築(建築)工事	版	A1版 -		
			A3版 -		

第1編 一般共通事項		第2章 昇降機設備工事		3.2.11 電気記線		<p>3.2.11.1 一般事項</p> <p>(1)昇降機工事/電気工事区分は下記に依る 共通:配管工事は電気工事 ・監視/制御/インターホン配線 ○昇降機 ●電気 ○該当なし ・遠隔監視配線 ○昇降機 ●電気 ○該当なし ・放送配線 ○昇降機 ●電気 ○該当なし ・非常照明配線 ○昇降機 ●電気 ○該当なし ・監視カメラ配線 ○昇降機 ●電気 ○該当なし ・セキュリティ配線 ○昇降機 ●電気 ○該当なし</p> <p>(2)電源設備は下記に依る ○動力・照明一次電源統合(動力電源一括受電、制御盤にて単相照明電源構築) ●動力・照明一次電源個別(動力/照明電源個別受電)</p> <p>その他 エレベータービッドに扉を設ける場合は、インターロックスイッチをエレベーター工事として設け、扉開放時にエレベーターが停止する機構とすること。扉にその旨の表示をすること。</p> <p>第6章 エスカレーター</p> <p>第2節 機材及び施工</p> <p>6.2.4 欄干</p> <p>6.2.4.1 内側板 内側板は、ステンレス鋼板又は透明強化ガラスとし、ステンレス鋼板の場合は表面をヘアライン仕上げし、内側板の表面に取付ボルト及びビス類が突出しない構造とする。なお、内側板の材質は下記による。 ● 設計図による。</p> <p>6.2.7 制御盤及び運転操作方式</p> <p>6.2.7 (2)運転操作方式は、一定速運転とし、自動運転機能を設ける場合は下記による。 ● 設計図による。 ○ 自動運転方式または微速運転方式等省エネルギー制御を導入する。</p> <p>6.2.8 安全装置 【追加】 (2)エスカレーターと接する部分の安全措置は、次のよるものとし、適用は下記による。 (ア)保護板 ハンドレールの外縁からの水平距離で500mm以下にある建物の天井、はりその他これに類するもの又は隣接するエスカレーターの外装底部と交差する箇所に、固定保護板及び可動警告板を設ける。 ● 設計図による。</p> <p>その他 【追加】 ・エスカレーター注意喚起音声案内装置を設置すること(スピーカーごとに音量調整機能有する)。 ・音声案内は特殊仕様とし内容は事前に協議の上、納入すること。また日英2ヶ国語とする。 ・屋外用は雨天時音声切替えスイッチを乗降場付近に設けるとともに、昇降機監視システム(PC)操作により切替が可能なこと ・スカートガードはフッ素樹脂コーティング仕上げとする。 ・欄干内側板ガラスは飛散防止フィルム貼とする。 ・欄干内側板ガラス間の隙間は、シールまたはパッキン等により引掛り防止措置をとること。 ・スカートガードとステップの隙間への衣類等の巻き込まれ防止のためのドレスガードを設置する。 ・屋外用エスカレーターのフロアプレート・ステップ等は雨天時使用を考慮した防滑仕様とする。 ・ピット部のオイルトラップは 50 $\frac{1}{min}$ 以上の能力のオイルトラップとする。 ・速度調整(普通、低速)ができること。 ・エスカレーターのフロアプレート等にはメーカー名を記載しないこと。 ・エスカレーター注意喚起サインを欄干内側板に設置(乗り口、降り口の両方)する。(シート貼、日英2ヶ国語、ピクトサイン併記) ・防火シャッター又は防火戸とハンドレールの折り返し部先端の距離が2m(定格速度が30m/min超のときは2.5m)以内に防火シャッター又は防火戸を設置している場合は、その作動時にエスカレーターを非常停止させること。接点、配管配線は下記とすること。 運動用接点 防火シャッター・防火戸に設けられる運動用接点は、定格DC125V/0.2A(AC250V/1A)b接点(防火シャッターを閉め始めて床面上1.8mまで達成しないうちに開く接点)とし、接点の数は運動を必要とするエスカレーターの台数とすること。 配管配線 防火シャッターに設けられる運動用接点からエスカレーター制御盤までの引き込み管路・配線は、CVV1.25mm²-2C(PF16)とすること。</p>																		
第1章 一般事項		1.1.1 再生電力備蓄システム		○ 使用する。 ● 使用しない。																				
第1節 総則		2.2.2 かが		2.2.2.1 かが室 ・エレベーターのカゴ天井に光膜天井を用いる場合は、容易に照明のメンテナンス等が可能な機構とする。ほごりが溜まらないように、日常清掃ができること。 ・かが内照明は調光仕様とし、かが内で調光可能とすること。 ・照明の色温度は監理者に確認すること。 ・エレベーターカゴ内のエアコンは、エレベーターメーカーが維持管理、交換の対応ができること。 (ア)かが室内の付加仕様は下記による。 ● 設計図による。																				
1.1.6 設計図書等の取扱い 【追加】 図面に記載された能力、機能等は表記された内容とし、電動機出力は原則として表示された数値以下とすること。		2.2.2.2 かが床 (ア)乗用、寝台用及び人荷共用エレベーターのかが床の材質及び敷居の材質は下記 ● 設計図による。 (イ)乗用、寝台用及び人荷共用エレベーターのかが床の敷物は下記による。 ● 設計図による。		3.2.2.3 (ア)かが室内の側板の材質、仕上げは下記による。 ● 設計図による。																				
1.2.3 施工図等 【追加】 (a) 工事着手に先立ち、施工計画書を作成し、据付、出入口およびカゴ意匠、監視盤システム等に関する製作図、施工図、仕様書は全て監理者に提出し承諾を受けること。 (b) 承認を受ける機器製作のための見本その他は下記とし、監理者に提出し保管する。 ● 扉仕上げ材 ● 幕板仕上げ材 ● 三方枠仕上げ材 ● かが内装材 ● ホールランタン ● 床材 ● 監視盤 ● ボタン類 特注品を採用する場合は、監理者に維持管理計画を提出すること。また、表示器、ボタン等は長期に供給可能な仕様とすること。		2.2.2.2 かがの戸 (ア)かがの戸の材質は下記による。 ● 設計図による。		3.2.2.6 かが操作盤 ● 行先階ボタン(登録済呼び取消し機能付き)の仕様は設計図による。																				
第4節 機器および材料		2.2.3 乗り場		2.2.3.1 三方枠 (ア)三方枠の材質は下記による。 ● 設計図による。																				
1.4.1 環境への配慮 【追加】 国等による環境物品等の調達に関する法律(グリーン購入法)に定めるところにより、極力環境負荷を低減できる材料を選択し、そのリストを監理者に提出し協議すること。		2.2.3.3 乗り場の戸 乗り場の戸の材質は下記による。 ● 設計図による。		2.2.3.5 乗り場のボタン (イ)乗り場のボタンの形状、材質は下記による。 ● 設計図による。																				
1.4.3 機材の搬入 【追加】 機材の搬入について、手順や安全対策、資格者の確認等を記載した搬入計画書を作成し、監理者の確認を受けること。また搬入後速やかに搬入報告書を監理者に提出すること。		2.2.3.6 インジケーターまたはランタン インジケーター、またはランタンの形状、材質は下記による。 ● 設計図による。		3.2.10 塗装																				
1.4.5 機材の検査等 【追加】 (a) 昇降機設備場外立会検査試験の対象は下記とする。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名</th> <th>備考</th> <th>機器名</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乗用エレベーター</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> (b) 場外立会検査試験 共通事項は下記とする。 ・場外立会検査にあたり、試験内容は監理者との協議による。 ・設計変更等により、監理者が騒音、振動や性能機能上、場外立会検査が必要と判断した場合、協議の上、上記以外の項目についても場外立会検査を行う。 ・工場検査の方法は、監理者の指示する要領に従うものとし、結果は文書をもって報告すること。検査及び立会にかかる監理者(設計者含む)、発注者の交通費、宿泊費等の費用は、全て受注者の負担とする。また、検査の結果不合格となった場合の再検査にかかる費用も同様とする。 かが内内装についても発注者及び監理者の検査を受け、検査合格後現場に搬入すること。		機器名	備考	機器名	備考		乗用エレベーター																3.2.10.3 塗装標準 塗装色は、(一社)日本エレベーター協会のエレベーター用色見本帳、(一社)日本塗料工業会の色見本帳または監理者指定の色見本による。製作にあたり、塗り見本を提出し、監督職員との承諾を受けること。	
機器名	備考	機器名	備考																					
乗用エレベーター																								
第5節 施工		2.2.7 管制運転等		2.2.7.1 地震時管制運転 地震時管制運転は、閉じ込め時リスタート運転機能を備えたものとする。なお、建築物の高さが120mを超え、昇降路頂部高さ及び昇降路全高が60mを超えるエレベーターを設置する場合は、長尺目振れ管制運転を備えるものとする。																				
1.5.1 施工 【追加】 (a) 足場・橋脚類 ● 建築工事請負者が定置したものは無償で使用できる。 ● 本工事ですべて設置する。 (b) 電線・ケーブル ● 分電盤、制御盤、端子盤などの二次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径などは、監理者の承認を受けて変更できる。 ● 通線 長さ1m以上の通線を行わない配管には、導入線(1.2mm以上の樹脂被覆線等)を挿入する。 (c) 保守 無償全面保守期間は工事完成引渡し後、 ● 3ヶ月とする。 ○ 6ヶ月とする。 ○ 1年とする。 (d) 仮設使用 ● 01号機 期間 6ヶ月間 ○ 号機 期間 ヶ月間 ● 仮設使用期間終了時には、完全に整備し引渡すものとする。 なお、仮設使用したエレベーターのメインロープは受注者の負担で交換する。ただし、使用状況、ロープテスターによる点検および整備の結果により劣化または不具合がないと認められる場合は、監理者と協議の上、ロープ交換は行わなくても良いものとする。 (e) 光熱水費 ● 竣工引渡しまでに必要な光熱水費は本工事とする。		2.2.8 エレベーター監視盤		2.2.8.1 一般事項 エレベーター監視盤は、監視装置(表示部、操作部及びインターホン)、電源装置、操作卓等からなるものとし、監視装置の形式は下記とする。 ● 自立形 ○ 壁掛形 ○ デスクトップ形(非常用は除く) エレベーター監視盤は、監視装置(表示部、操作部及びインターホン)、電源装置、操作卓等からなるものとし、監視装置の形式は下記とする。																				
1.5.5 施工の試験 【追加】 (3) 監理者と協議の上、以下を実施すること。 ・高調波抑制対策ガイドラインに従うこと。また高調波流出電流計算書を作成すること。 ・エレベーター巻上機及び周辺機器の防振防音対策を行った上で、振動騒音測定を行いそのデータを提出する。 ・エレベーターシャフト周辺のエレベーターカゴ走行音及び振動測定を行いそのデータを提出する。		2.2.8.2 監視装置 エレベーターの運行状態監視、各種管制運転制御の機能、操作キースイッチ、ボタン類、用途別インターホン(一般用、非常用)等を備えたものとし、次による。また、機能は製造者の標準仕様とする。なお、デスクトップ形の場合の表示監視装置は、同様な機能の操作・監視ができるものとし、操作キースイッチ及び用途別インターホンは別置きとする。 (a)表示部は、発光ダイオードによる表示又は液晶ディスプレイとする。 なお、非常用エレベーターの場合は、発光ダイオードによる表示とする。 (b)表示項目は、電源識別表示、運行状態表示(運転、故障、運転方向、かごの位置)及び管制運転表示(運転中表示、完了表示)とする。 (c)操作キースイッチは、運転及び休止の切替スイッチ、各種管制運転を行う操作スイッチ、基準階切替スイッチ等を備えたものとする。なお、適用は特記による。 (d)ボタン類は、故障警報リセットボタン等を備えたものとする		2.2.8.4 操作卓 デスクトップ形の場合に設けるものとし、本体を床又は壁にアンカーボルトで固定できるように固定金具を備えたものとする。また、表示装置等は、転倒防止用の措置を講じたものとする。 ● 設計図による。																				
		2.2.9 エレベーター警報盤		エレベーターの運行状態表示(運転、故障、各種管制運転等)、操作スイッチ、インターホン等を備えたものとし、機能は製造者の標準仕様とする。 ● 設計図による。																				

分類	仕様項目	01号機		
基本仕様	機種名称	標準形機械室レスエレベーター		
	用途	乗用		
	制御方式	可変電圧可変周波数制御（図生なし）		
	操作方式	乗合全自動方式		
	積載量	900kg		
	定員	13名		
	定格速度	60m/min		
	戸閉方式	2枚戸両引き		
	出入口幅 JJ	900mm		
	出入口高さ HH	2100mm		
	かご室サイズ（内法開口 AA）	1600mm		
	かご室サイズ（内法奥行 BB）	1350mm		
	かご室内法高さ	2300mm		
	出入口方式	一方出入口		
	正面倒停止数	4停止（1-4階）		
	動力用電源	AC3φ-200V-50Hz		
	照明用電源	AC1φ-100V-50Hz		
	その他基本仕様	耐震設計施工指針耐震クラス	クラスA14	
		公共建築工事標準仕様 適用年版	令和4年版	
		かご室トランク	トランクあり	
		敷居照開	10mm	
		車いす仕様	制御機能付	
視覚障がい者対応仕様		あり		
地震時管制運転方式		P波+S波センサー付3段設定（普通線）		
停電時自動着床装置		あり		
かご内防犯カメラ		エレベーター工事（かご内カラー液晶画面付）		
乗場仕様		乗場三方枠	小枠 ステンレスヘアライン（1-4階）	
		乗場戸	ステンレスヘアライン（1-4階）	
		乗場戸階床名板	あり	
		乗場敷居	ステンレス製（1-4階）	
		乗場ボタン	透明ストロークボタン（特殊フォント・φ33） 抗ウイルス・抗菌シート・特殊フォント 建築枠組込（1-4階）	
		車いす専用乗場ボタン	透明ストロークボタン（特殊フォント・φ33） 抗ウイルス・抗菌シート・特殊フォント 建築枠組込（1-4階）	
		乗場停止スイッチ	あり	
		ホールラタン	建築枠組込み（1-4階）	
		乗場停止スイッチ取付位置	監視盤組込み（1-4階）	
		かご室仕様	天井	ガラスクロス全面光天井（電球色）
			正面壁	鋼板塗装（指定色）
			側面壁	鋼板塗装（指定色）
			希望材質	ステンレスヘアライン
	出入口上板		ステンレスヘアライン	
	かご室戸		ステンレスヘアライン	
	巾木		ステンレスヘアライン	
	かご床		磁器質タイル t10（建築工事）	
	かご室敷居		ステンレス製 2枚戸両引き用	
	かご操作盤タイプ		袖壁操作盤	
	かご操作盤フェースプレート材質		ステンレスヘアライン	
	一般用副かご操作盤		ステンレスヘアライン	
	かごボタン		クリスタルボタン（φ33・黄褐色LED） 抗ウイルス・抗菌シート・特殊フォント	
インターホンボタン乱用防止カバー	あり			
正操作盤インジケータータイプ	かご内液晶インジケーター（10.1インチ）			
かご操作盤液晶インジケーター表示言語	平常時（日英）、注意喚起（日英/中韓切替）、緊急時（日英/中韓）			
車いす専用かご操作盤	両側面 ステンレスヘアライン			
車いす専用正かご操作盤インジケータータイプ	ドットLED（白色）			
車いす専用かごボタン	クリスタルボタン（φ33・黄褐色LED） 抗ウイルス・抗菌シート・特殊フォント			
車いす専用インターホンボタン乱用防止カバー	あり			
かご室換気	DCファン			
かご室手すり	特殊形状ステンレスヘアライン（ユニオン製相当）			
かご室鏡	ステンレス鏡面枠なし3分割（570mm×1400mm）			
キックプレート	ステンレスヘアライン（ビスなし）高さ：床面より350mm			
床保護マット	あり			
かご保護膜	あり			

分類	仕様項目	01号機
その他仕様	工事使用	あり（契約条件に含む：使用期間1ヶ月以内）
	扉開閉報知機能	あり
	かご戸引込まれ防止センサ	あり
	セーフティシュー	片側（多光輪ドアセンサー付き）
	タッチレス戸閉促進・乗場前検知検まれ防止センサー	自動戸閉促進・乗場前検知検まれ防止
	急停止機能	あり（1-4階）
	点字名板取付方法	直打ち
	インターホン呼び出しボタン応答灯（聴覚障がい者対応仕様）	あり
	おもり非常止め	なし
	緊急地震速報利用地震時管制運転（客先より信号受信）	あり
	火災時管制運転方式	火報信号連動式
	冠水時管制運転	あり
	インターホン型式	24V
	無電圧A接点交絡	地震（S波）検出時
	無電圧A接点支給	エレベーター安全回路動作時・閉込時・インターホンボタン押下時
	任意階サービス切放し機能	乗場呼びのみ
	デジタルレコーダー	エレベーター工事
	戸開延長ボタン	クリスタルボタン（φ33・黄褐色LED） 抗ウイルス・抗菌シート・特殊フォント
	到着予告チャイム	あり（方向差別なし）
	かご内アナウンス	かご内4か国語アナウンス（通常時：日英、緊急時：日英/中韓）
	かご室スピーカー	あり ON/OFFスイッチ
	高調波対策種類	DCリアクトル（K1=1.8）及び絶縁トランス（ノイズ・漏洩電流対策）
フェッシャープレート	エレベーター手配（標準品）（2-4階）	
レール支持方式	1フロア1ブラケット	
煙感知器点検口スイッチ	正面側上部取付 【標準】	
仮設動力電源	1式	

No.01号機

EV除外工事事項

建築工事関係

- 昇降路の築造工事及び各階出入口、インジケータ、押ボタン等の穴あけ工事
（昇降路壁は5cm² 切り300Nの外力が作用した時に15mmを超える変形及び塑性変形が生じない構造とすること）
- 各階乗場出入口枠周囲のモルタル詰め工事
- 乗場機器取付後の出入口廻りの壁及び床の仕上げ工事
- 昇降路顶部にエレベーター機器搬送用のフック設置工事（20kN）/台
- 過渡階がある場合の非常出口設置工事（かご敷居先端から125mm以下）
- ビット内防水仕上工事（必要の際は、排水設備工事を含む）
- ビット床下部使用の場合の建築対策工事
- ビットが深い場合の埋め戻し・浅い場合ははつり工事
- 段違いビット時のビット内保護工事（必要な場合）
- 昇降路内の騒音・振動が居室に伝搬しないレイアウトおよび各種防音・防振工事
■居室への影響を検討のうえ、適切な防音・防振対策を行っていただく
（対策例1）昇降路の壁（RC）を厚くする
■（200mm以上推奨）
（対策例2）隣接居室内のボードや天井を、昇降路壁（RC）に直接接しない工法とする
（対策例3）隣接居室内のボードに制振材（鉛板）、吸音材を貼付すること

- その他建築に関する工事

設備工事関係

- 動力用電源・照明電源・接地線の受電端子の引込工事（穿き込み工事含む）
- インターホン取付位置より昇降路までの配管配線工事（0.9φ×110本）/台
- 火報信号の昇降路より外部の配管配線工事
- 遮断ドマゴ採用の場合、遮断ドマゴ設置階降降ロビーに火災感知器または、煙感知器の設置工事
エレベーターの遠隔管理用配管・配線工事（昇降路内から最寄の電話中継盤まで）
- 建設設備設置に必要な接点供給工事
- ビット内点検用コンセント設置工事（照管用AC100Vとは別系統のこと）
- 昇降路顶部の煙感知器設置工事（外部より点検可能なこと）
平成20年国土交通省告示第1454号第一号により点検口の戸は設け（工具を必要とするネジでも可）とし戸が開いた時にはエレベーターを停止させる必要がある必要があります
- かご内TVカメラがある場合、かご内TVカメラ用配管配線工事（昇降路からモニター設置場所まで）
・5C-2V同軸ケーブル
- かご室スピーカーがある場合、放送用配管配線の昇降路制断盤までの引込工事（非常放送がある場合3線式とすること）
- 昇降路の換気設備工事（平成12年建設省告示1413号第1第2号により昇降路内温度を40℃以下に保つ必要があるあります）
発熱量 エレベーター駆動部（1280W/1台）+エアコン（- W/1台）
- 据付工事用の仮設電源を無償支給いたします。（本設備と同じ電源仕様にて支給いたします。）
- 監視盤電源の監視盤までの引込工事及び配管配線工事

- 昇降路開口・奥行寸法は、昇降路全域（ビット底部から昇降路顶部まで）にわたり確保のこと
- コンクリート強度は21N/mm²以上のこと
- 電線電圧の変動は+5%~-10%以内、電圧不平衡率5%以内のこと
- 本エレベーター所定の性能維持のため下記条件とすること
 - 昇降路内の温度は-5℃~40℃以内、湿度は月平均90%・日平均95%未満かつ急激な湿度変化率により氷結・結露しないこと
 - 金属を消耗または腐食したり電気接点の接触障害の原因となるような塵及び化学的有害ガス及び爆発性ガスのないこと

- 昇降路開口・奥行寸法は、昇降路全域（ビット底部から昇降路顶部まで）にわたり確保のこと
- コンクリート強度は21N/mm²以上のこと
- 電線電圧の変動は+5%~-10%以内、電圧不平衡率5%以内のこと
- 本エレベーター所定の性能維持のため下記条件とすること
 - 昇降路内の温度は-5℃~40℃以内、湿度は月平均90%・日平均95%未満かつ急激な湿度変化率により氷結・結露しないこと
 - 金属を消耗または腐食したり接点の接触障害の原因となる塵や塵及び化学的有害ガスが無い事
 - 昇降路壁に電気・水道等の配管器具を埋込しない事
 - 本エレベーター機械室内部機器の発熱量は 490W となります。

- 製品の検査は各規格に準じた社内基準にて行います
電動機（巻上機・駆動機）：JEC-2110,2130、JIS C-4034-1
制動機：JEM1021,1460

- かご内装デザイン等が別途工事の場合、品質保証（変色、はがれ、劣化等の外観変化）対象外となります
また、昇降路保守対象外となります材質、構造等は以下を遵守のこと
材質：不燃又は難燃認定品
構造：該部品（巻等含む）には、エレベーター非常止め作動時または緩衝装置突発時は4G（縦方向）、地震時は1G（横方向）相当の加速度が発生する可能性があるためそれに耐え、かつ接着固定による変色を考慮した取付構造とすること
照度：かごの床面で50ルクス（乗用、観台用以外）
あっては25ルクス）以上の照度とすること
建築用途と使用環境の違いにより、早期に寿命を迎えることがあります
・かご照明の自動休止機能により、照明のON/OFF回数が多い
・かごの昇降による振動がある

- 施工作業時作業条件：月曜日より土曜日 8:00~17:00
尚、施工作業期間の内「4週6休」就労をさせて頂きます
- ELE-Quickは三菱電機ビルソリューションズ（株）とのメンテナンス契約が必要となります

注意事項

- 昇降路開口・奥行寸法は、昇降路全域（ビット底部から昇降路顶部まで）にわたり確保のこと
 - コンクリート強度は21N/mm²以上のこと
 - 電線電圧の変動は+5%~-10%以内、電圧不平衡率5%以内のこと
 - 本エレベーター所定の性能維持のため下記条件とすること
 - 昇降路内の温度は-5℃~40℃以内、湿度は月平均90%・日平均95%未満かつ急激な湿度変化率により氷結・結露しないこと
 - 金属を消耗または腐食したり電気接点の接触障害の原因となるような塵及び化学的有害ガス及び爆発性ガスのないこと
- 昇降路標準環境の基準例
硫化水素ガス-H2S=0.005 [ppm] 以下
亜硫酸ガス-SO2=0.01 [ppm] 以下
窒化水素ガス-HCN=0.05 [ppm] 以下
塩化水素ガス-HCl=0.05 [ppm] 以下
アンモニアガス-NH3=0.1 [ppm] 以下
海岸地区における潮風-海岸より2km以上の地区（プールサイドの場合は上記塩化水素ガス2基準値以下）
■海岸より2km未満、プールサイドの場合は昇降路内に潮風・プール方向からの風が入らず、乗場が壁外に露出しないようなレイアウトとすること
- ①電気接点の接触障害となるもの：鉄粉、炭塵、化学工場における粉塵
②爆発性ガス、又は、助燃：メタン、石炭ガス、ブタン、オソリン、アセチレン、水素、エーテル、炭塵、穀粉
③エレベーターの電気信号に影響を及ぼす電磁波がないこと
電磁波の電界強度が10V/m以下の環境とすること
- 原則、昇降路の設置場所は階高1000mm以下の高さとする
 - （1）上等直排外気と接する乗場における雨水よけ設備により外部から風雨が侵入しないこと（Dガス・風除室・水勾配・グレーニング・防雨板等）
（2）センサ誤動作防止、及び乗場戸急閉防止のため、扉外又は、屋内ガラス越しから乗場及び駆動機・制動装置（制動機、昇降機等）に直射日光が当たらない対策を実施のこと
 - 昇降路壁には電気・水道管の配管・器具を埋込しないこと
昇降路内には他の用途の配管・ダクト等が露出しないようにすること
 - （建築基準法施行令第129条の2の4第1項第三号）
遮断器はインバータ回路対応のものを使用すること
輸送可能な過温配器車や台車などの重量物は250kg以下とすること
 - 換気設備を設置する場合は昇降路外部より保守可能な位置とし、設置環境により雨水或いは、防水対策を実施のこと
 - エレベーターの保守・点検ならば緊急対応のため、外部階段などから最上階および最下階エレベーターホールへアクセスできる経路を確保すること（個人宅など占有部を屋出ししないこと）
 - エレベーターから発生する高周波漏洩電流と高周波ノイズにより、他の設備に影響を受ける恐れがあります
次の対策をお勧めします
（1）エレベーター動力と通信機器・OA機器等弱電機器の電源線・通信線を1m以上分離すること
（2）エレベーターを含む動力の電源トランスと通信機器・OA機器等弱電機器の電源トランスを分離すること（エレベーター用照明電源は弱電機器のトランスと分離不要）
（3）エレベーターを含む機器アース線と通信機器・OA機器等弱電機器のアース線の分離記録と接地板の分離を要する

分類	仕様項目	02号機	
基本仕様	機種名称	小荷物専用昇降機	
	用途	小荷物専用（フロアタイプ）	
	制御方式	可変電圧可変周波数制御	
	操作方式	相互階操作方式	
	積載量	200kg	
	定格速度	45m/min	
	出し入れ口幅	900mm	
	出し入れ口高さ	1230mm	
	かご室サイズ内法（開口）	900mm	
	かご室サイズ内法（高さ）	1100mm	
	かご室サイズ内法（高さ）	1200mm	
	出入口方式	貫通二方向	
	正面倒停止数	1停止（1階）	
	背面倒停止数	1停止（3階）	
	かご戸閉方式	2枚戸上下式	
	動力用電源	AC3φ-200V系-50Hz	
	照明用電源	AC1φ-100V-50Hz	
	乗場戸閉方式	2枚戸上下式（1,3階）	
	その他基本仕様	公共建築工事標準仕様 適用年版	令和4年版
		乗場三方枠	300~500mm ステンレスヘアライン仕上（1,3階）
		出し入れ口敷居	標準 ステンレスヘアライン仕上（1,3階）
		出し入れ口戸	2枚戸 ステンレスヘアライン仕上（1,3階）
出し入れ口操作盤フェースプレート材質・仕上		樹脂密閉シート（防滴）（1,3階）	
天井・正面壁・側壁材質仕上		ステンレスヘアライン仕上	
床仕上		ステンレスヘアライン仕上	
かご室戸		2枚戸 ステンレスヘアライン仕上	
オールステンレス化		出し入れ口+かごステンレス化（SUS304）	
かご扉同時開閉		あり	
オートアナウンス		あり	
巻上機ロープ外れ止め		あり	
異常警告ブザー		あり	
到着ブザー		あり	
機械室点検口スイッチ		あり	
運転休止スイッチ		あり	
ドアホールド装置（出し入れ口戸閉時）		あり	
ドアアシストクローズ装置（出し入れ口戸閉時）		あり	
高調波対策		リアクトル+ノイズフィルター	

居室インターホン：3階 食物科職員室内

NO.2号機

EV除外工事

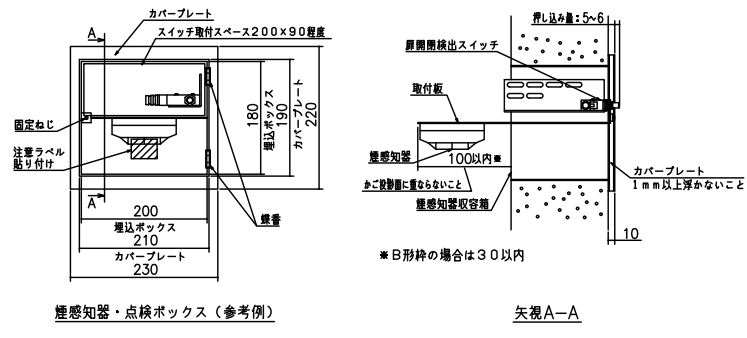
- 昇降路及び機械室の築造工事
- 機械室及び各階出し入れ口孔明け工事
- 機械室出入口設備及び機械室入口とその築造工事
- ビット内防水仕上工事
- ビット床下部使用の場合の建築躯体工事
- 動力電源（接地工事を含む）の機械室受電箱迄の引込工事
- 機械室内の照明設備及び点検用コンセント設置工事
- ビット内点検用コンセント設置工事
- 機械室天井の吊りフック工事

注意事項

- 電線電圧の変動は+5%~-10%以内の事
- 本エレベーター所定の性能維持のため下記条件を守る事
 - 月平均湿度90%以下日平均95%以下
 - 金属を消耗又は腐食したり接点の接触障害の原因となる塵や塵及び化学的有害ガスが無い事
- 昇降路壁に電気・水道等の配管器具を埋込しない事
- 本エレベーター機械室内部機器の発熱量は 490W となります。

	訂正	

呼称	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校校舎新築(建築)工事	
図面名称	昇降機設備図1	図面番号
	縮尺 A1版 - A3版 -	図面番号
		EV-003



煙感知器 (電気設備工事)

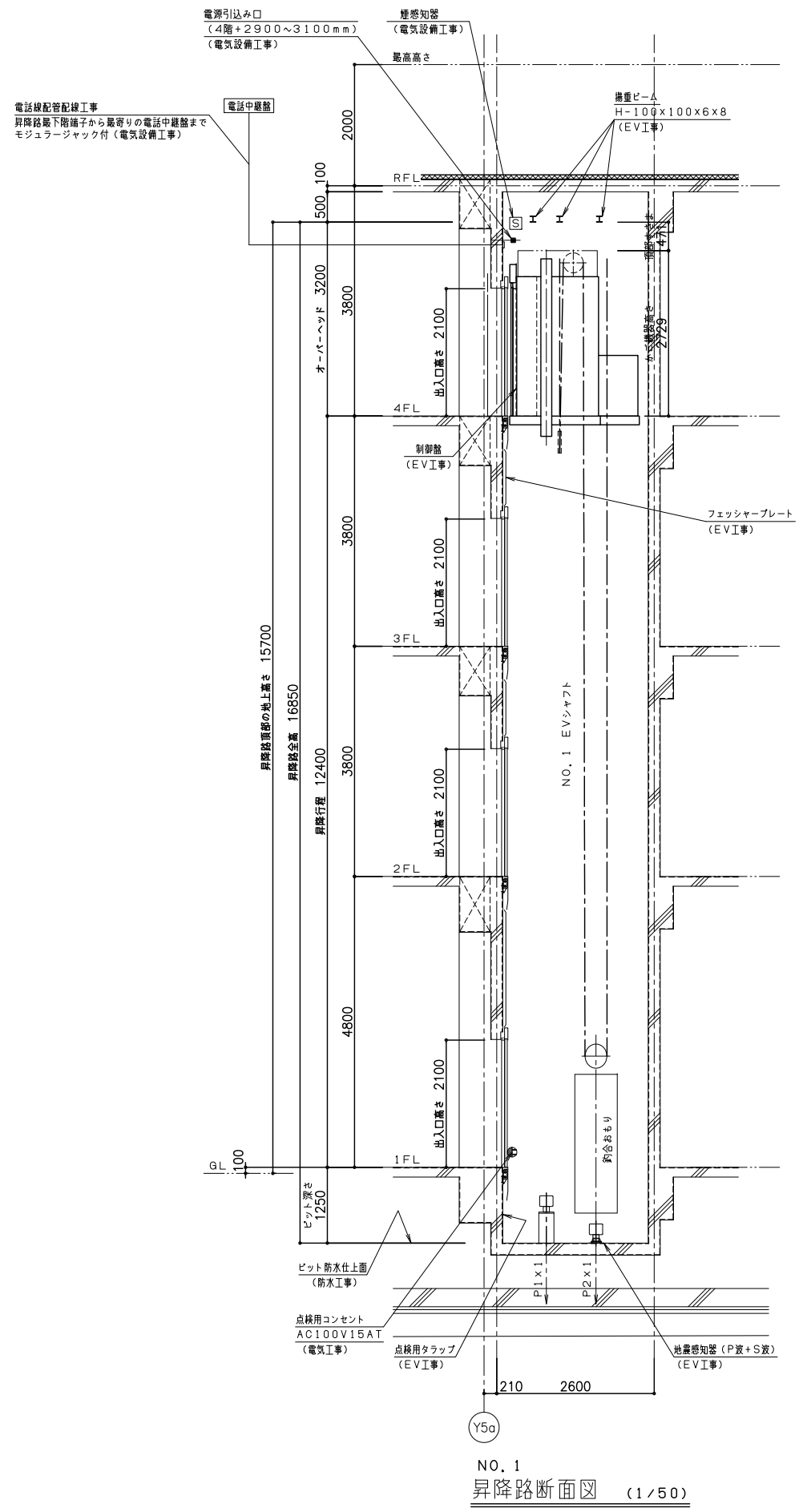
- ・外部より点検可能な構造とする
- ・EV連動スイッチ付 (EV工事)
- ・煙感知器はかご投影面にかからない位置とする
- ・点検口は下記①または②として下さい

①EV昇降路専用品 (スイッチ取付台差付き) (1)~(4)のいずれか

- (1) ホーチキ KUS-1C
- (2) 能美防災 FXSJ001A-HU
- (3) ニッタン NID-T-G
- (4) パナソニック BV95351 (BOX) + BV95381H (扉)

②以下2項目を満足する点検口 ~「煙感知器・点検ボックス (参考例)」参照

- (1) スイッチ取付スペース200x90程度確保できる。
- (2) 錠付または工具を必要とするネジ付きの蓋で、1mm以上浮かないこと。

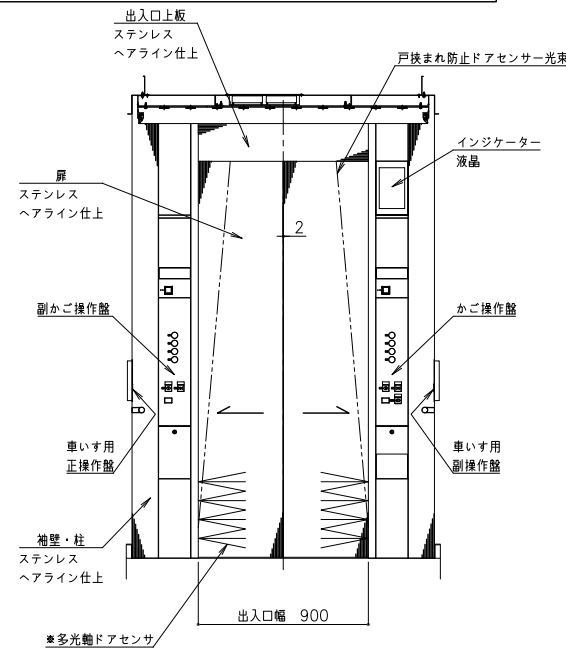


ビット鉛直荷重 (短期荷重)

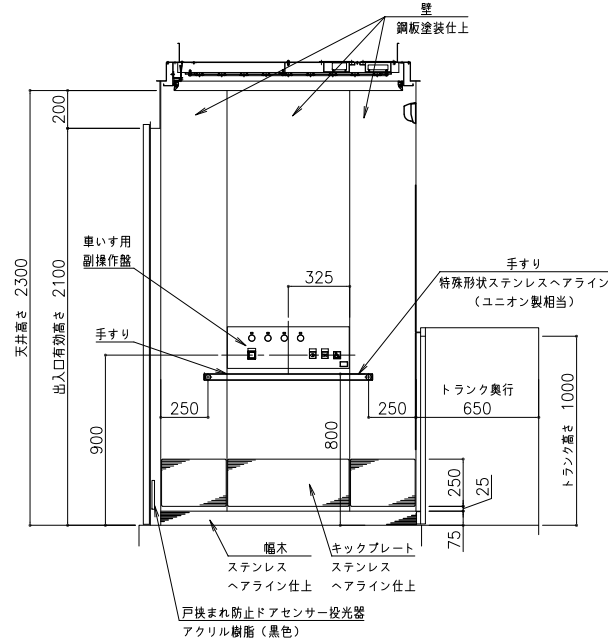
	P1 (kN)	P2 (kN)
NO. 1	111.7	92.7

NO. 1 昇降路断面図 (1/50)

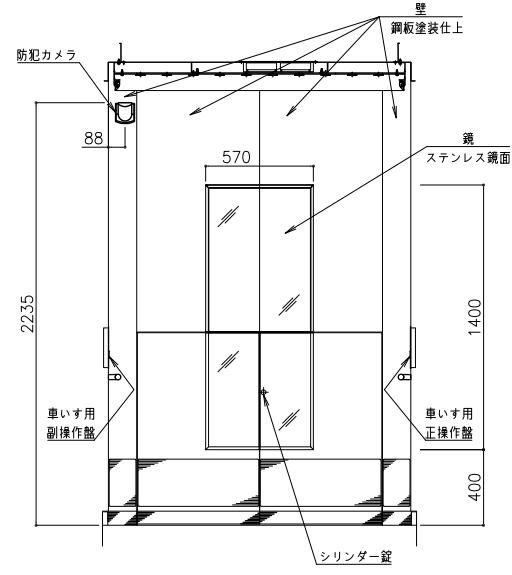
01号機 かが室意匠図 (s = 1 / 20)



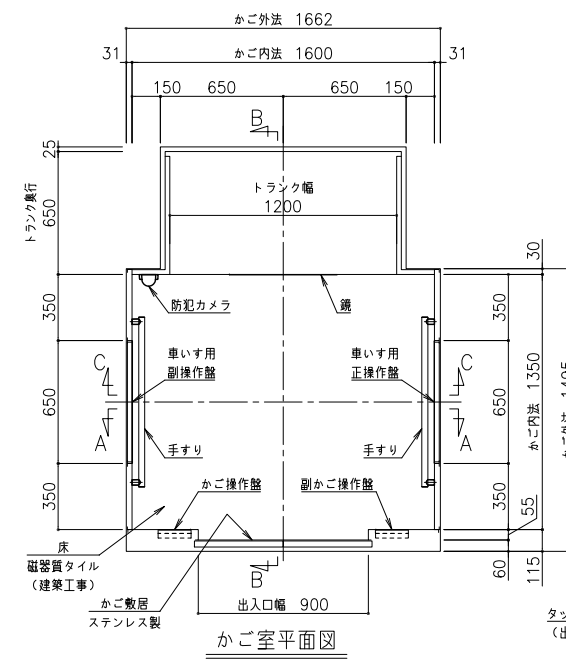
かが室正面図 (A-A矢視)



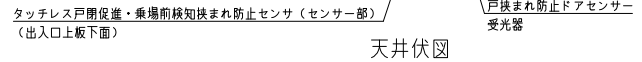
かが室側面図 (B-B矢視)



かが室背面図 (C-C矢視)

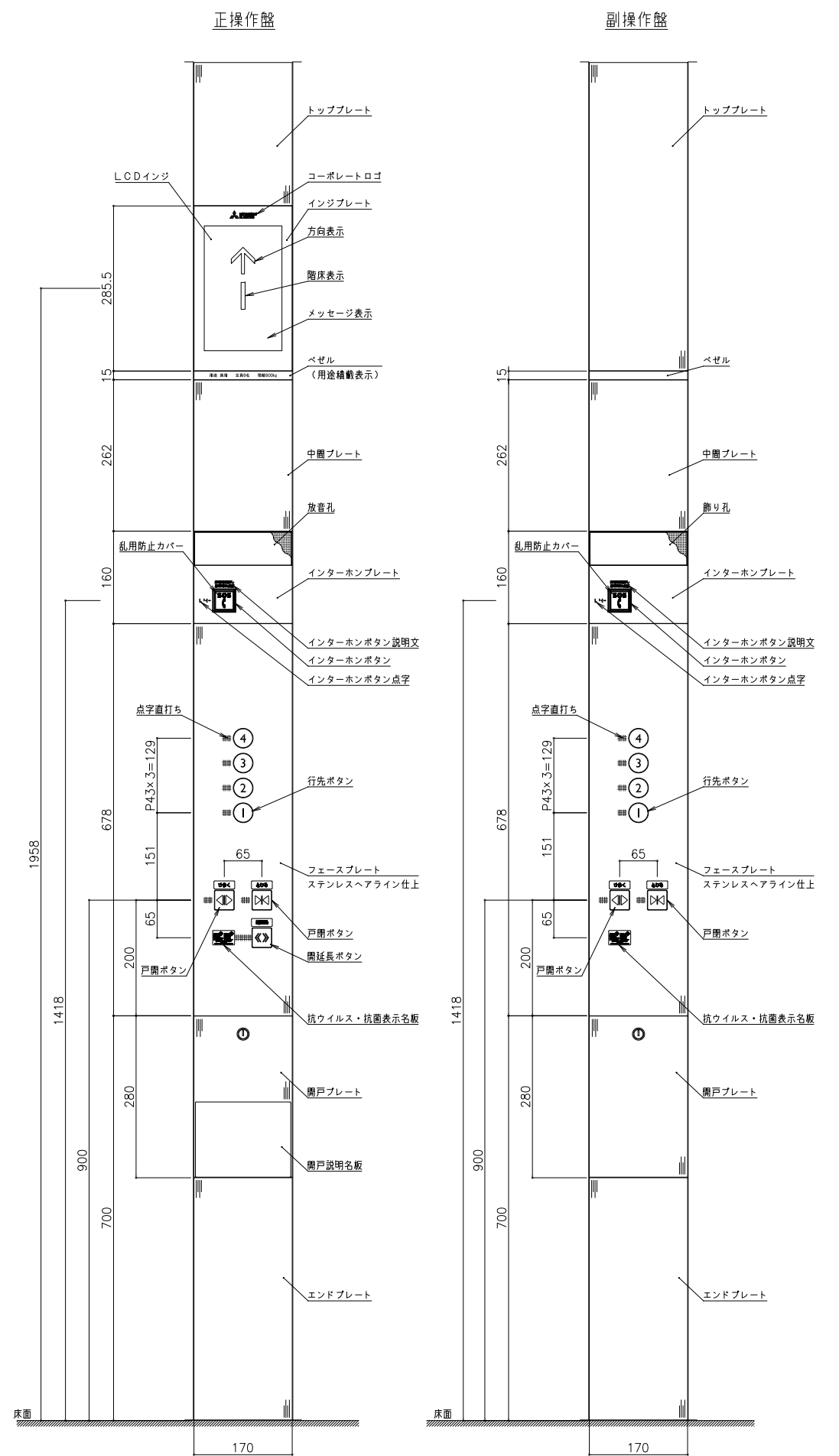


かが室平面図

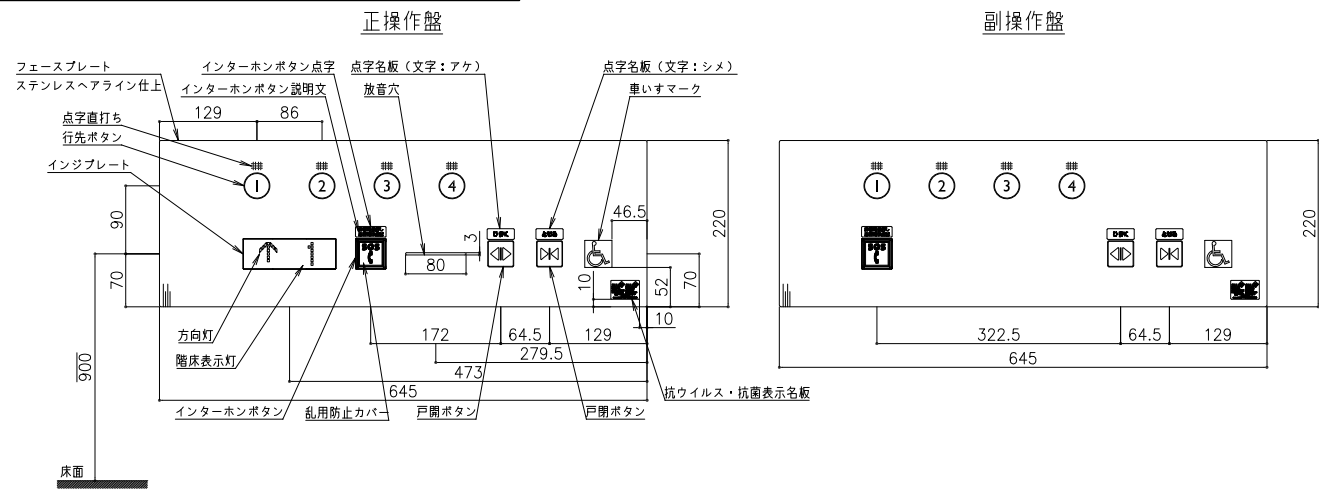


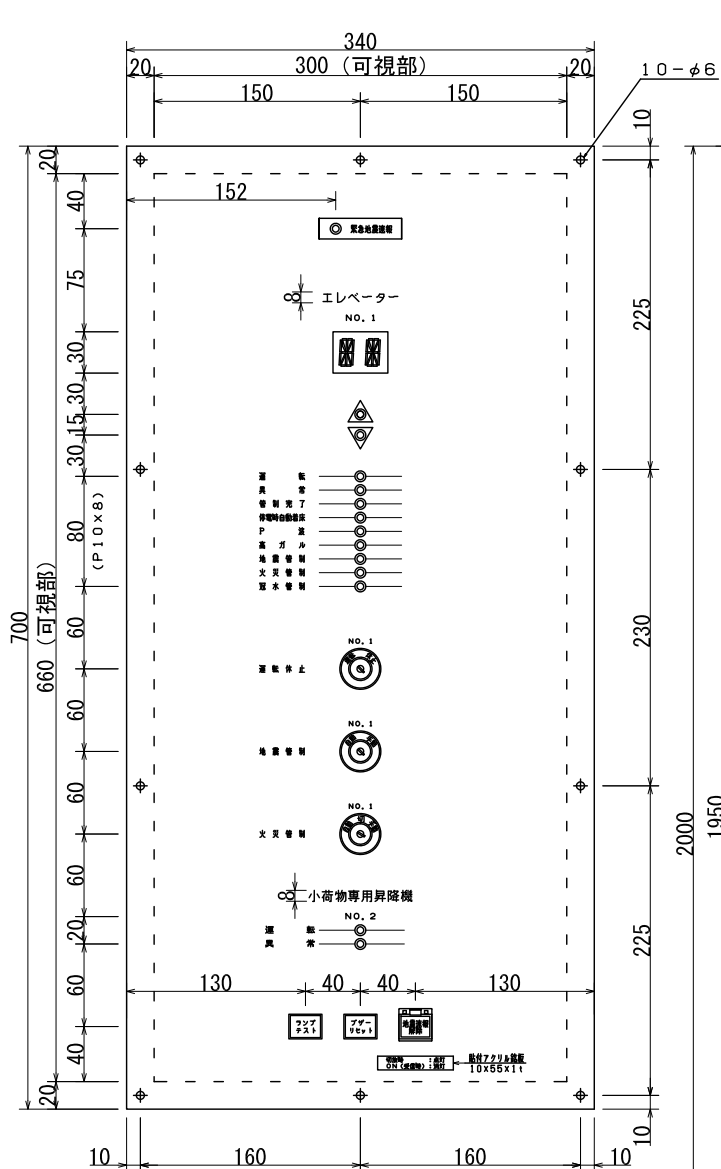
天井伏図

01号機 かが操作盤意匠図 (s = 1 / 5)

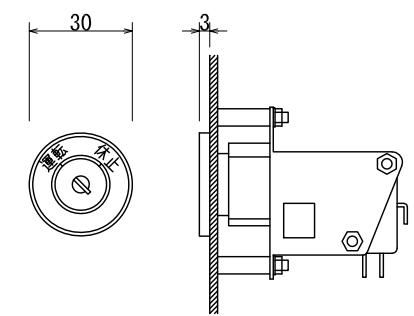


01号機 車いす用かが操作盤意匠図 (s = 1 / 5)

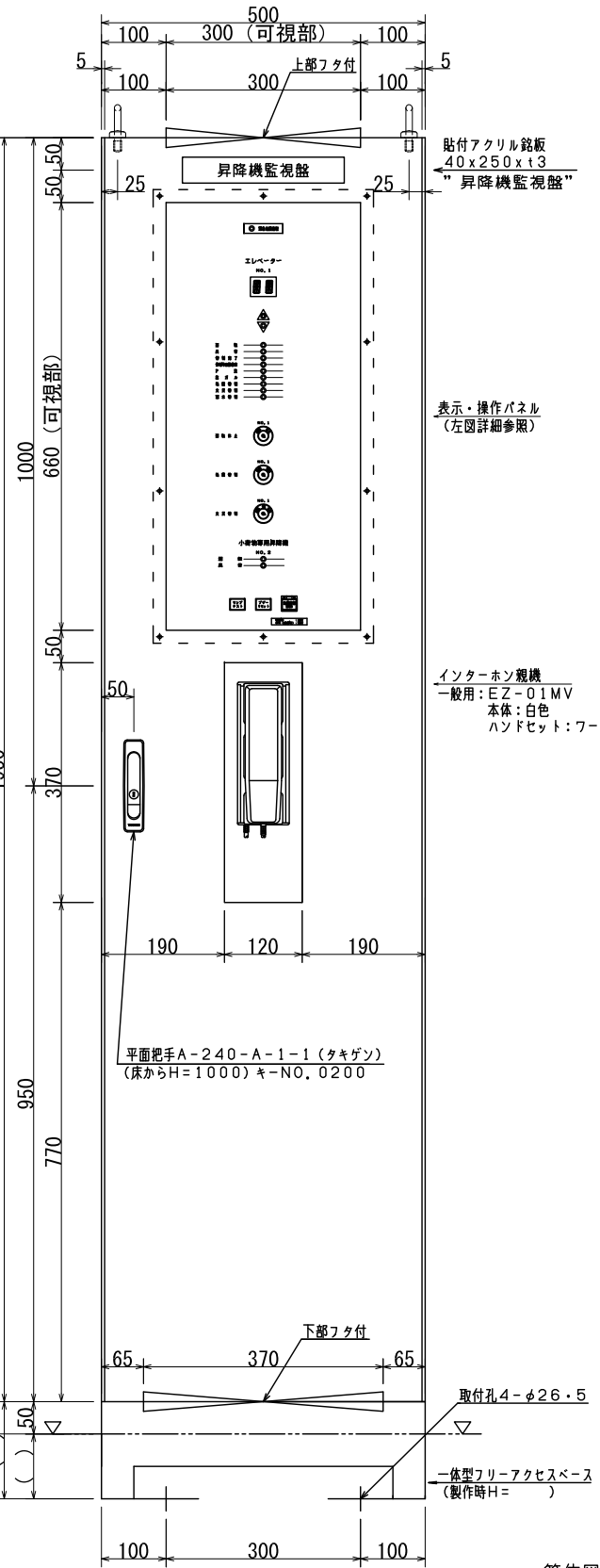




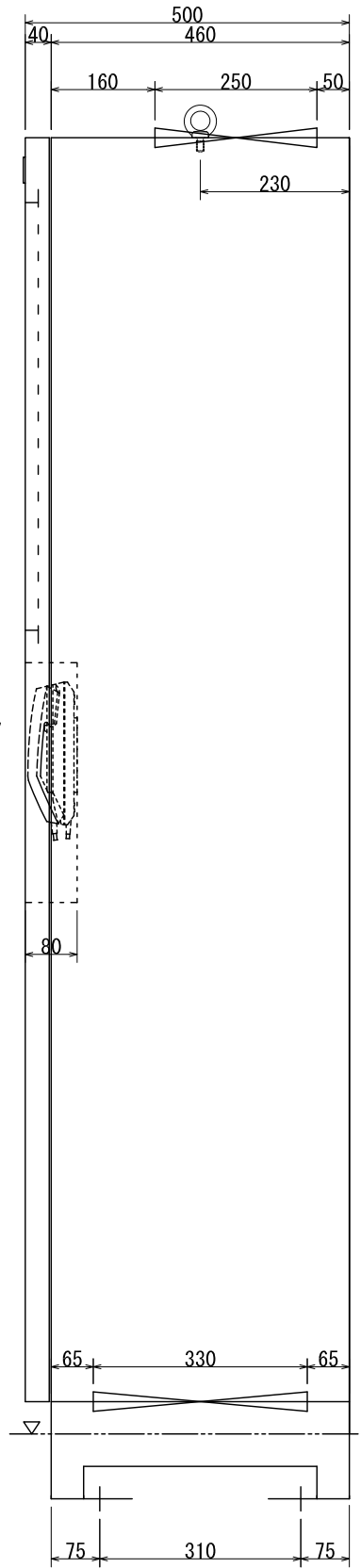
パネル図 (S=1/2.5)



キースイッチ図 (S=1/1)



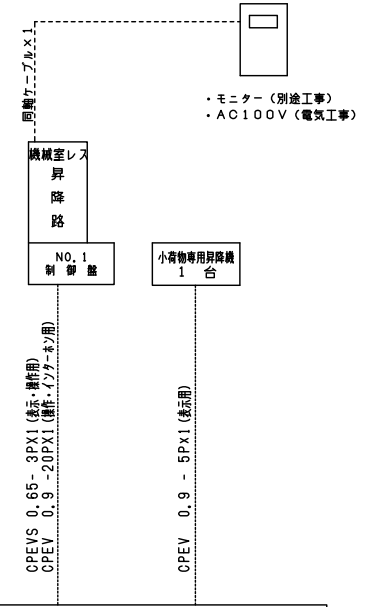
筐体図 (S=1/5)



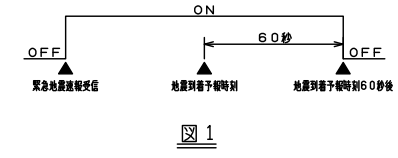
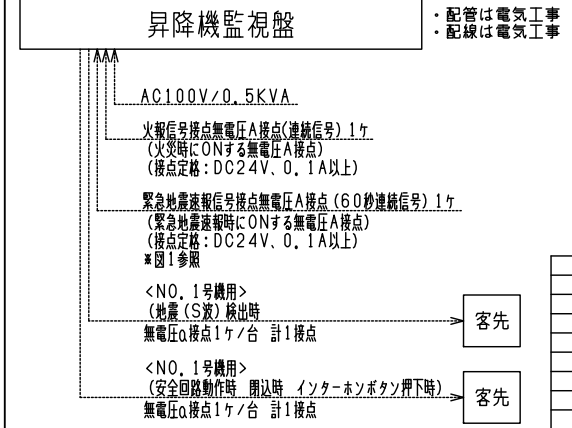
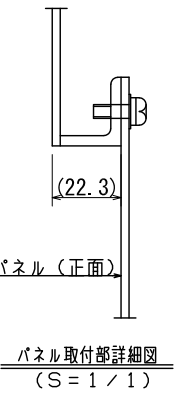
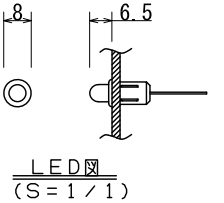
名称	種類	機能
緊急地震速報灯	発光ダイオード φ5 赤色	緊急地震速報を受信したとき点灯します
方向灯	発光ダイオード φ5 昇り: 緑色 降り: 赤色	カゴの運転方向を表示します
運転灯	発光ダイオード φ5 緑色	カゴが運転可能なとき点灯します
異常灯	発光ダイオード φ5 赤色	安全装置が作動した場合、戸を閉めない場合等によりカゴが再始動不能の場合点灯します
管制完了灯	発光ダイオード φ5 緑色	管制運転において、カゴが指定階に着床し戸が全開するとき点灯します
停電時自動着床灯	発光ダイオード φ5 赤色	停電時自動着床電源供給時点灯、停電時自動着床電源遮断時消灯します
P波灯	発光ダイオード φ5 赤色	P波感知器(初期発動)が作動したとき点灯します
高ガル灯	発光ダイオード φ5 赤色	S波感知器で高ガルを感知したとき点灯します
地震管制灯	発光ダイオード φ5 赤色	P波感知器またはS波感知器が作動したとき点灯します
火災管制灯	発光ダイオード φ5 赤色	火災管制運転に切り変わったとき点灯します
冠水管制灯	発光ダイオード φ5 赤色	冠水管制運転に切り変わったとき点灯します
キースイッチ	三菱電機製	#900
ファンテスト	IDEC	各表示灯の球切れをチェックします
ブザーリセット	IDEC	ブザーが鳴っている時に押すとブザーが鳴り止み、異常灯は復帰するまで点灯します
インターホン	NIC製 DC24V	エレベーターのカゴとの連絡用に設けてあります
階床灯(デジタル)	デジタル16セグメント 赤色	カゴの位置を表示します(デジタル)

ELV停止階

号機	停止階
NO.1	1~4階: 4停止



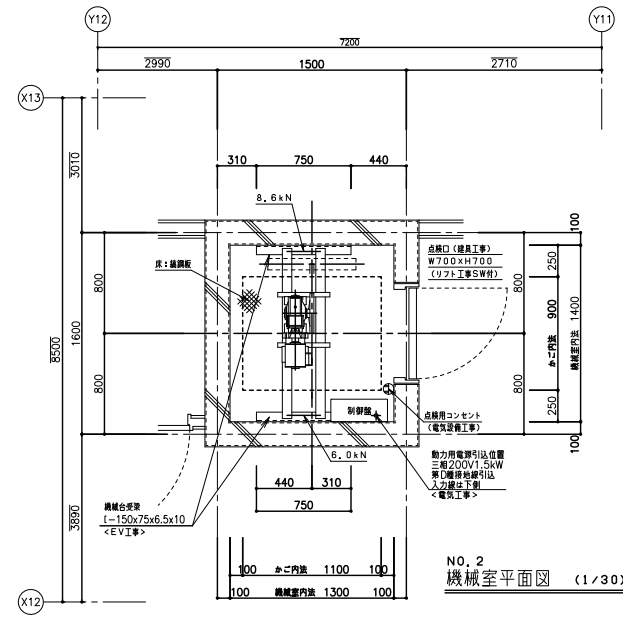
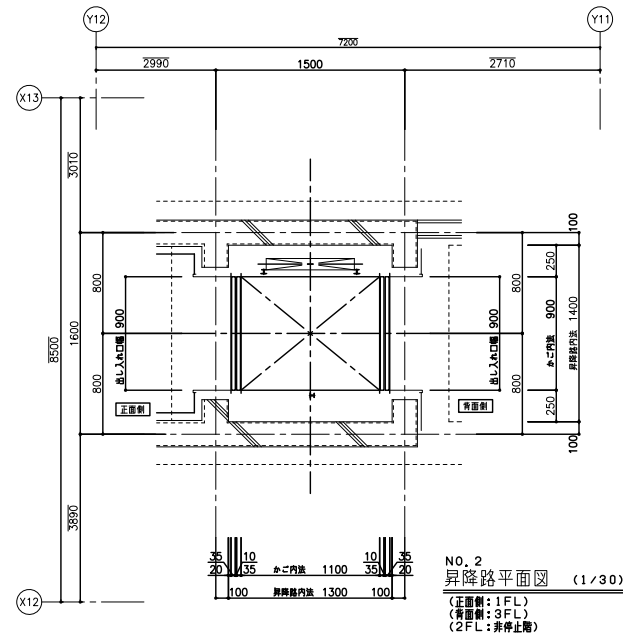
名称	キー外形	機能
運転停止スイッチ		[運転]: 通常運転となります [休止]: 指定階に到着停止します
地震管制スイッチ (一般用以外)		[自動]: 地震計出力による地震管制運転を行います [手動]: 地震計動作の有無に関係なく地震管制運転を行います
火災管制スイッチ		[自動]: 火災信号と連動して火災管制運転を有効にします [切]: 火災管制運転を無効にします [手動]: バンク毎の全号機一斉に避難階到着運転となります
緊急地震速報スイッチ (ロック)		[ON]: 緊急地震速報を無効にします(ファンテスト) [OFF]: 緊急地震速報を有効にします(ファンテスト)



釘番号	一般用
1	NO.1

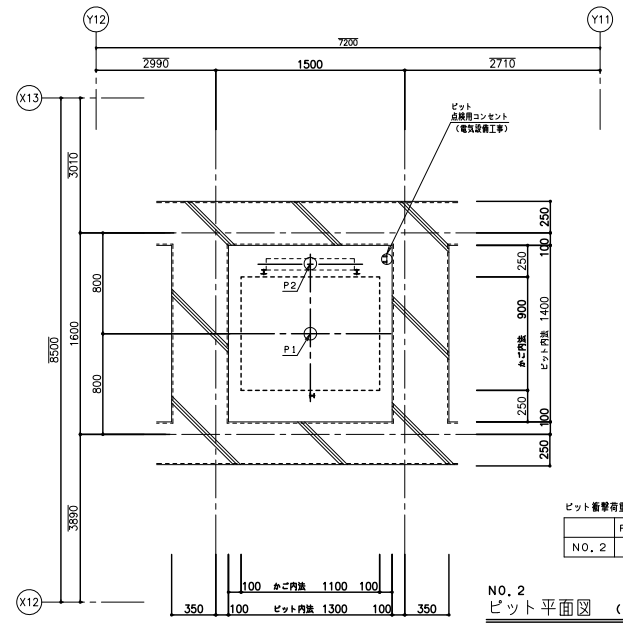
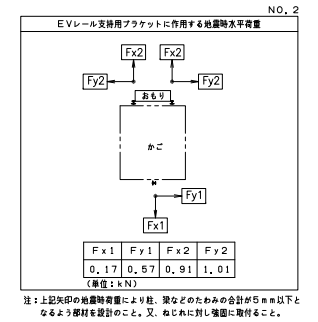
インターホン選局 押釦スイッチ詳細

1	筐体部: 鋼板製 t2.0 指定色焼付塗装仕上
2	パネル部: 鋼板製 t2.0 指定色焼付塗装仕上
3	筐体指定色:
4	パネル指定色:
5	パネル部: 文字・ラインはシルク印刷とする
6	シルク印刷仕様: 番 体) 和 文=丸ゴシック体 英数字=丸ゴシック体 大きさ) 表示部: 5mm、操作部4mm ライン) 0.5mm
7	使用LED: 丸 型) MD-510シリーズ(押野電気) 16セグメント) PSC-08-11EWA(キャブプライト)
8	LED表示色: 緑) UP、運転、管制完了灯 赤) 上記以外の全て(デジタル表示も含む)
9	操作部: ファンテスト、ブザーリセット、地震速報解除 押釦スイッチはLB3シリーズ(IDEC) レンズ透明、記名板乳白、本体黒色。 緊急地震速報解除スイッチはガードカバー付
10	表示灯電源: DC24V昇降機監視盤構成
11	操作電源: DC24V又はDC48Vエレベーター側構成
12	インターホン電源: DC24Vエレベーター側構成
13	入力電源: AC100V
14	車椅子仕様号機: 車椅子用のインターホン選局押釦スイッチは、カゴと同一とする
15	ELV: NO.1号機はソリアル伝送とする
16	ソリアル伝送用インターフェースユニット及び電源は、昇降機監視盤構成とする
17	機械室レスの、インターホンはカゴのみとする

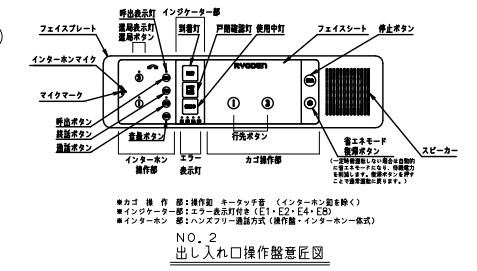
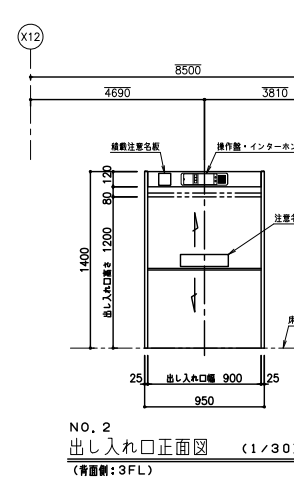
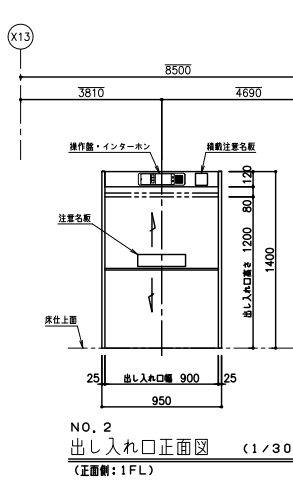


号機名	電源電圧 周波数	電動機容量	設備容量	電源側NF容量	電線サイズ (CV-T)	接地線サイズ	機械室発熱量
NO. 2	AC200V 50Hz	1.5kW	3kVA	20AT	29mまで 2.0mm ² 51mまで 3.5mm ² 80mまで 5.5mm ²	2.0mm ²	490W

照明用電線AC100V 50Hz

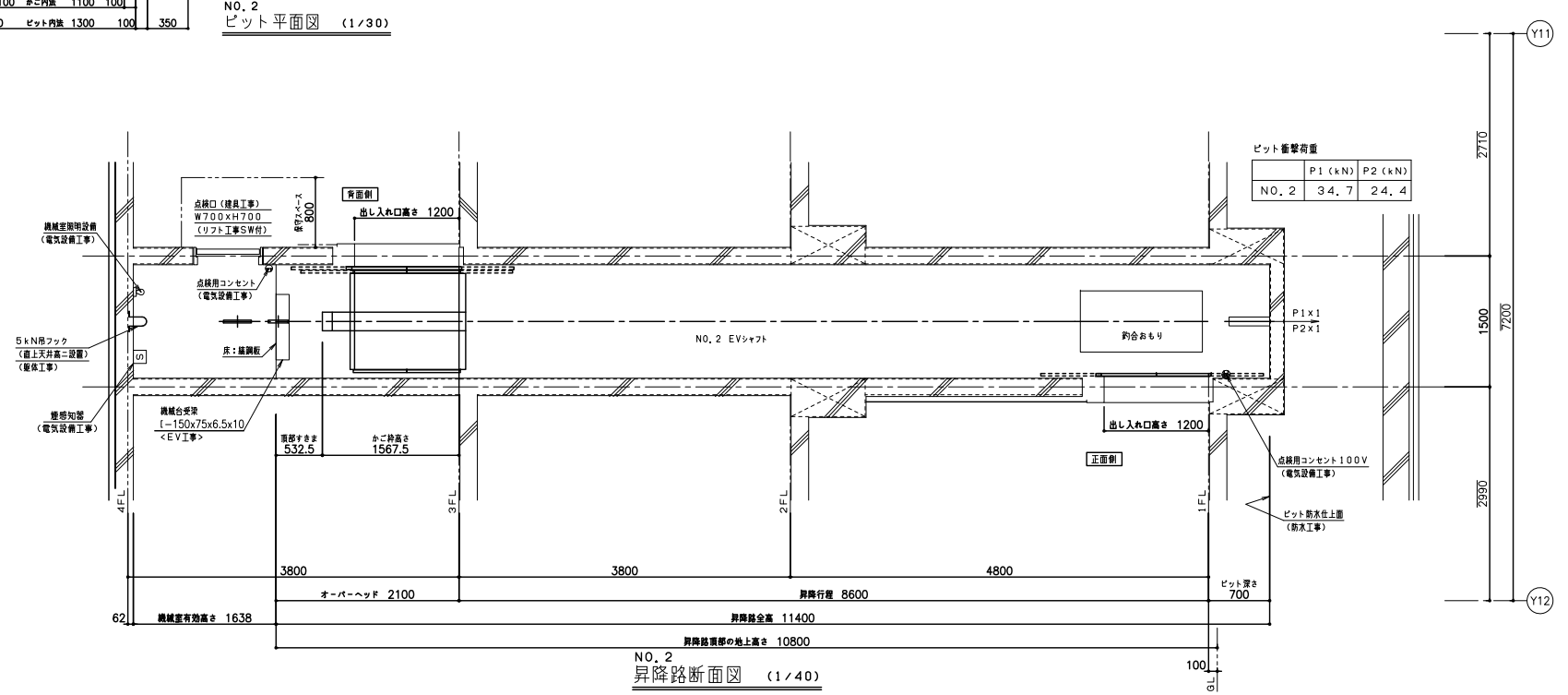


	P1 (kN)	P2 (kN)
NO. 2	34.7	24.4

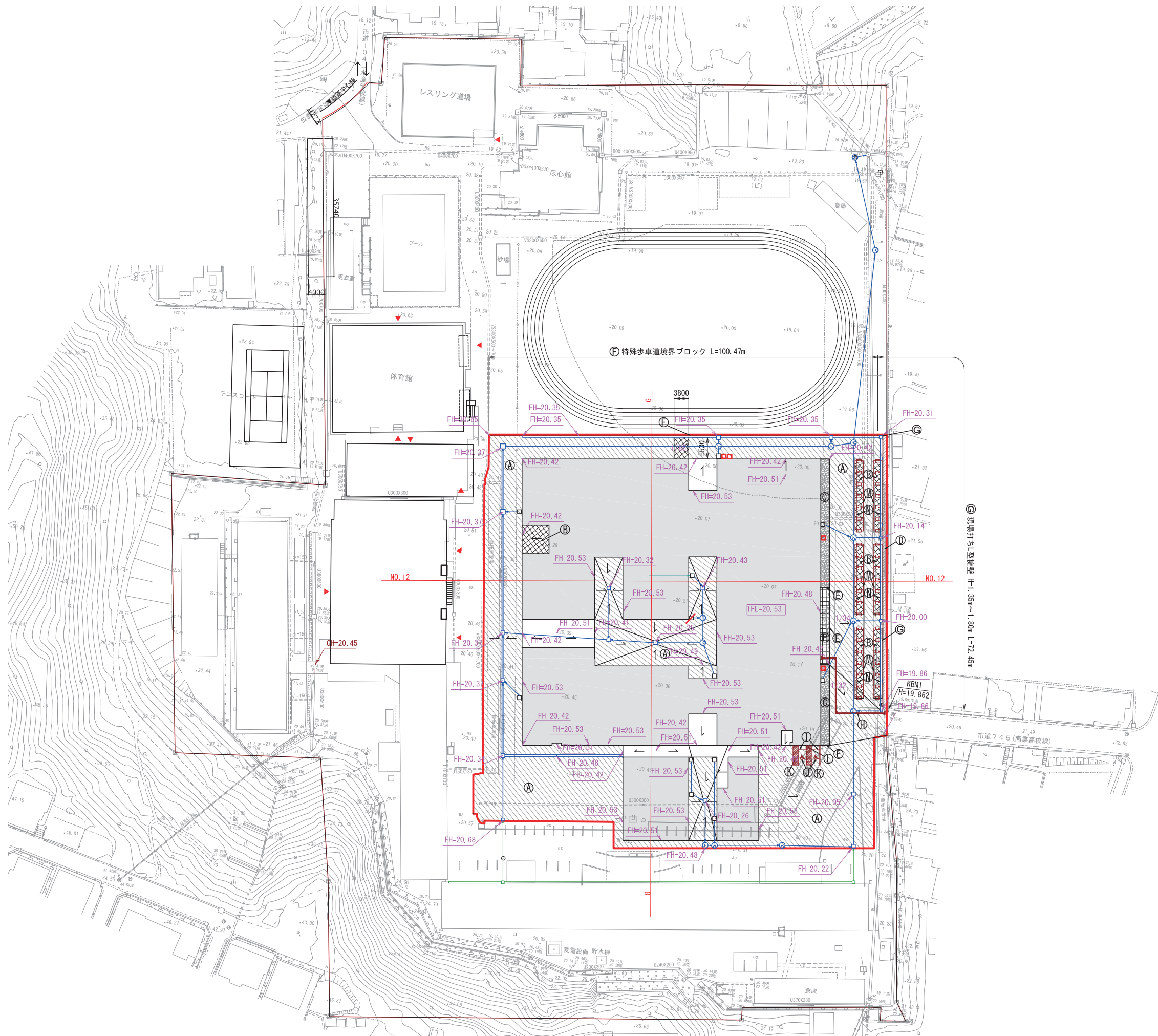


居室インターホン: 3階 食料科職員室内

- NO. 2号機
EV除外工事
- 昇降路及び機械室の築造工事
 - 機械室及び各階出し入れ口照明工事
 - 機械室出入口設備及び機械室入口とその差ぎ工事
 - ビット内防水工事
 - ビット床下部使用の場合の建築躯体工事
 - 動力電源(掘削工事を含む)の機械室受電箱迄の引込工事
 - 機械室内の照明設備及び点検用コンセント設備工事
 - ビット内点検用コンセント設備工事
 - 機械室天井の吊りフック工事
- 注意事項
- 電源電圧の変動は+5%~10%以内の事
 - 本タムウェーター所定の性能維持の為下記条件を守る事
 - 月平均湿度90%以下年平均95%以下
 - 金属を腐食又は腐食したり接点の為の稼働低下の原因となる様な塵及び化学的有害ガスが無い事
 - 昇降路壁に電気・水道等の配管器具を埋まさない事
 - 本エレベーター機械室内機械の発熱量は 490W となります。



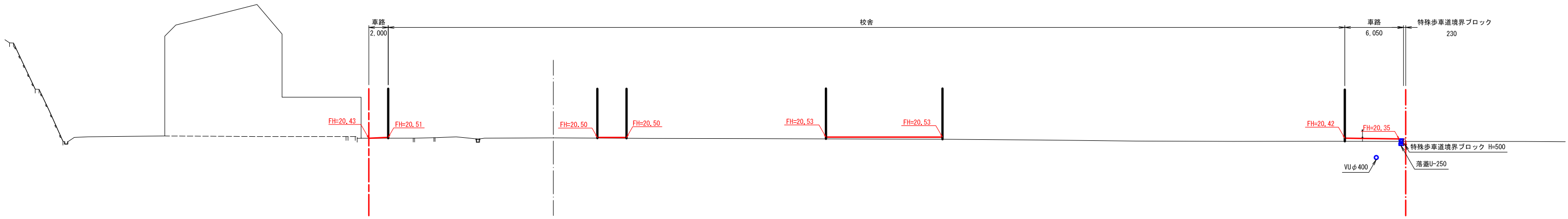
	P1 (kN)	P2 (kN)
NO. 2	34.7	24.4



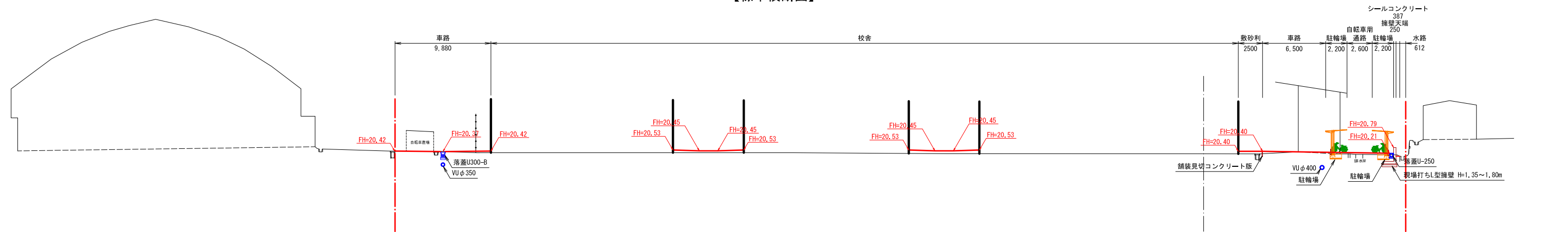
施設一覧表

凡例	名称・規格	数量
Ⓐ	アスファルト舗装 再生密粒度As13 t=50、再生粗粒度As20 t=50 再生クラッシャーラン(RC0-40) t=300	4,354 m ²
Ⓑ	コンクリート舗装 コンクリート(24N-8-25) t=100 再生クラッシャーラン(RC0-40) t=100、溶接金網(鉄筋径6mm網目寸法150mm)	278 m ²
Ⓒ	敷砂利 割石φ200程度 t=300	130 m ²
Ⓓ	シールコンクリート t=50	45 m ²
Ⓔ	舗装見切コンクリート版 (2,000×570×60)	84 m
Ⓕ	特殊歩車道境界ブロック H=500 一般部(180/230×500×600)	100.5 m
Ⓖ	L型擁壁 H=1.35m~1.80m 現場打ち	72.5 m
Ⓗ	視覚障害者誘導ブロック(300×300 t=60)	9.7 m ²
Ⓘ	車止めブロック 2本/箇所(車椅子駐車スペースのみ)	2 箇所
Ⓙ	車椅子標示(W150換算延長 3.8m/ヶ所)	2 箇所
Ⓚ	区画線 溶融式 白色W=150 t=1.0 (車椅子駐車スペースゼブラ部分含む)	57.0 m
Ⓛ	車椅子利用者用駐輪場標識	1 箇所
Ⓜ	駐輪場 W2,200×W18,105 H2,040.5 3.0m×6連	6 箇所
Ⓝ	盗難防止パイプ L=2000 SUS	36 箇所
Ⓞ	フラッグポール H=6.0m 4本立	1 箇所
Ⓟ	タイル舗装(歩道用) タイル張り(t=10mm)、モルタル(1:2) コンクリート(24N-8-25) t=80、溶接金網(鉄筋径6mm網目寸法150mm) 再生クラッシャーラン(RC0-40) t=100	48 m ²

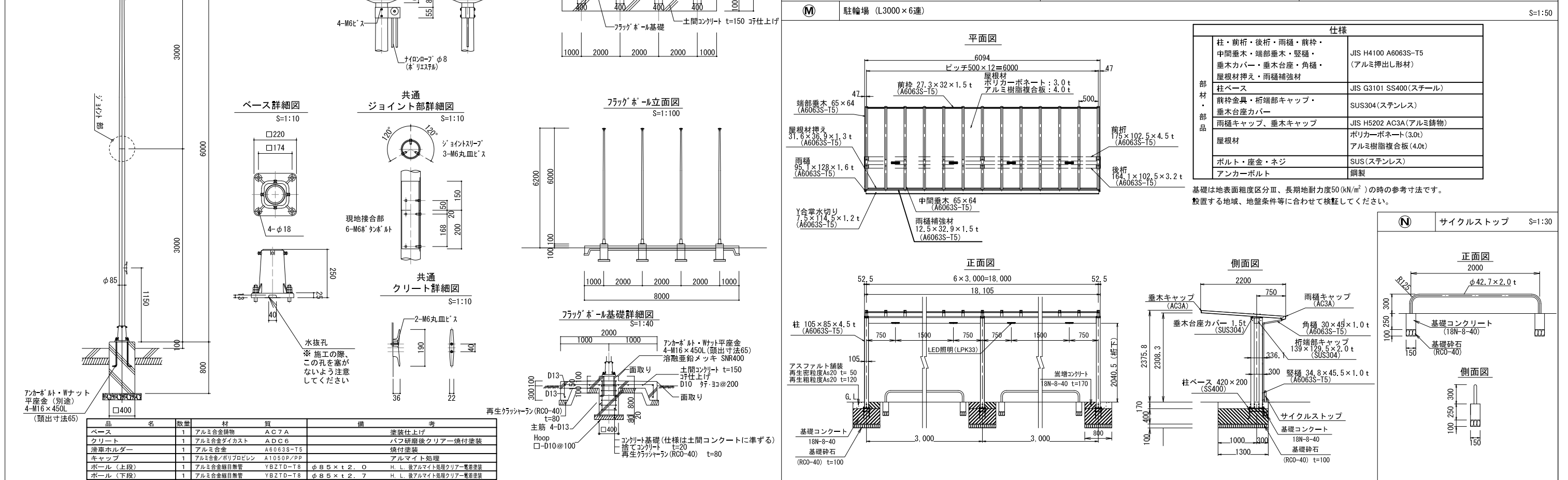
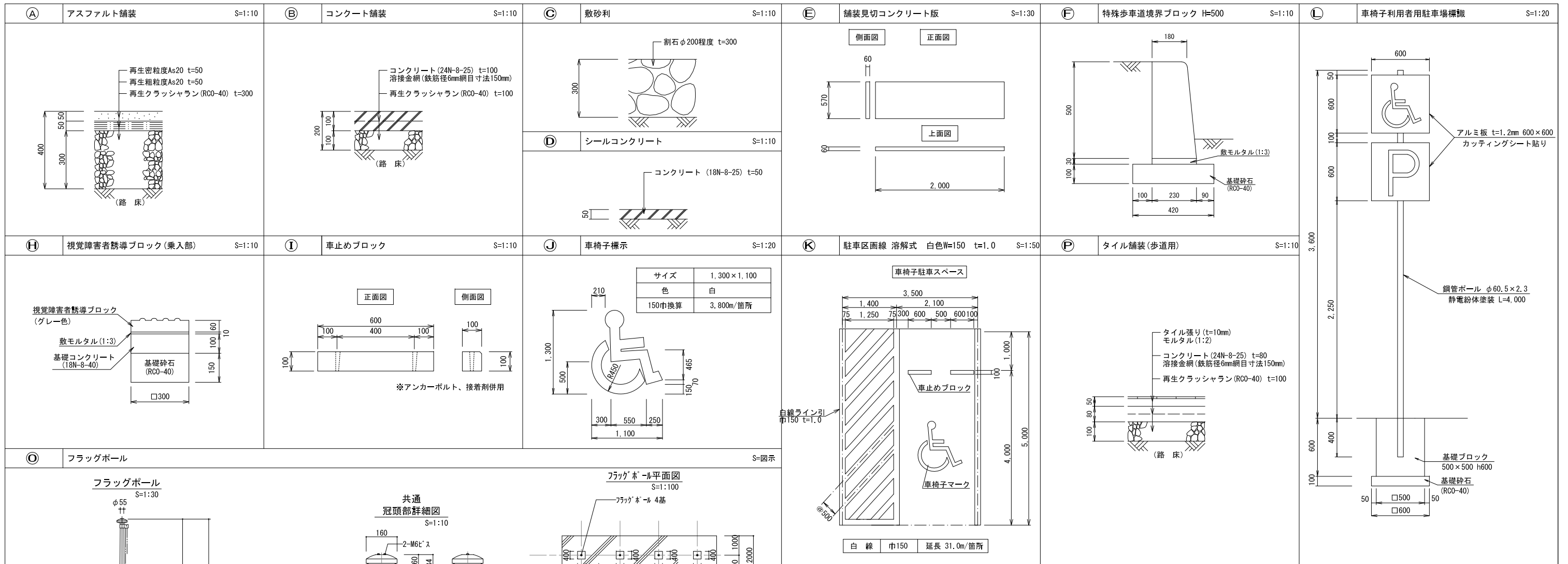
G
【標準横断面図】



NO. 12
【標準横断面図】



訂正						岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事 図面名称 外構施設断面図 図面番号 G-002
						図面番号 図面名称 図面番号
						図面番号 図面名称 図面番号

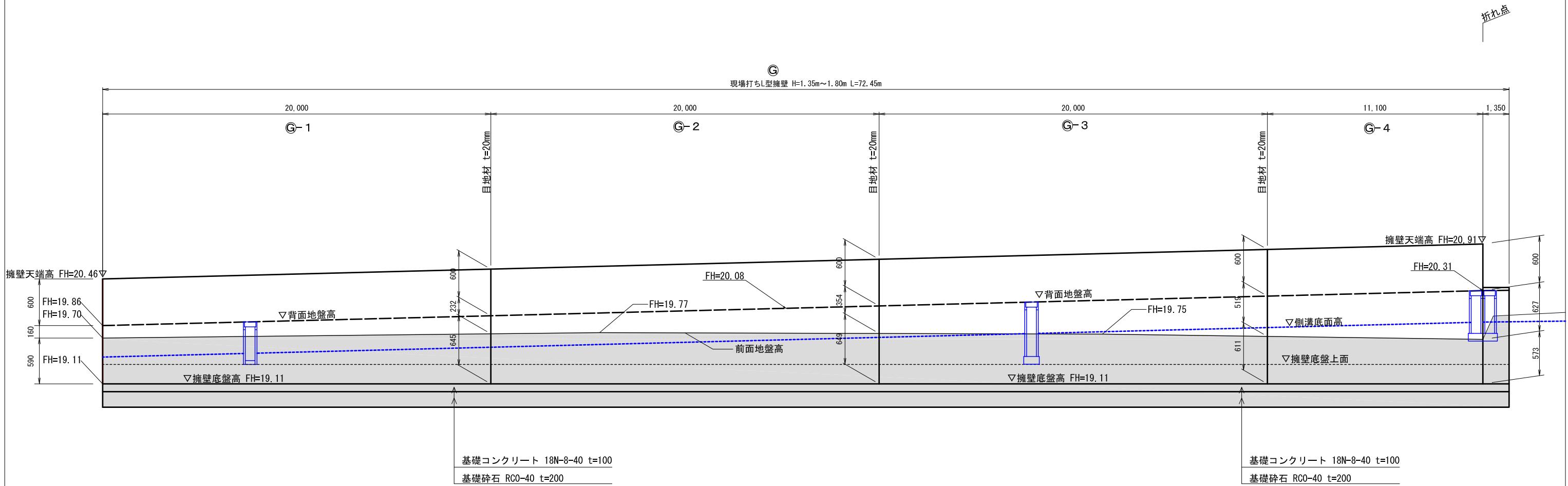


品名	数量	材質	備考
ベース	1	アルミ合金	AC7A 塗装仕上げ
クリート	1	アルミ合金ダイカスト	ADC6 バフ研磨後クリアー焼付塗装
滑車ホルダー	1	アルミ合金	A6063S-T5 焼付塗装
キャップ	1	アルミ合金/ポリプロピレン	A1050P/PP アルマイト処理
ポール(上段)	1	アルミ合金細目無縫	YB2TD-T8 φ8.5×t2.0 H.L.後アルマイト処理クリアー電着塗装
ポール(下段)	1	アルミ合金細目無縫	YB2TD-T8 φ8.5×t2.7 H.L.後アルマイト処理クリアー電着塗装

仕様	
部材・前桁・後桁・雨樋・前枠・中間垂木・端部垂木・壁樋・垂木カバー・垂木台座・角樋・屋根材押え・雨樋補強材	JIS H4100 A6063S-T5 (アルミ押出し型材)
柱ベース	JIS G3101 SS400(スチール)
前枠金具・桁端部キャップ・垂木台座カバー	SUS304(ステンレス)
雨樋キャップ・垂木キャップ	JIS H5202 AC3A(アルミ鋳物)
屋根材	ポリカーボネート(3.0t) アルミ樹脂複合板(4.0t)
ボルト・座金・ネジ	SUS(ステンレス)
アンカーボルト	鋼製

基礎は地表面粗度区分Ⅲ、長期耐力50(kN/m²)の時の参考寸法です。設置する地域、地盤条件に合わせて検証してください。

擁壁展開図 V=1:25、H=1:100

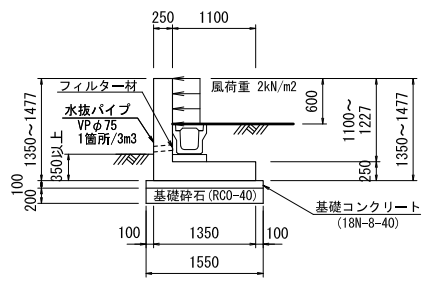


折れ点

訂正						岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	図面名称 擁壁展開図	図面番号 A1版 図示 A3版 図示/2	図面番号 G-004
----	--	--	--	--	--	--	---------------	----------------------------	---------------

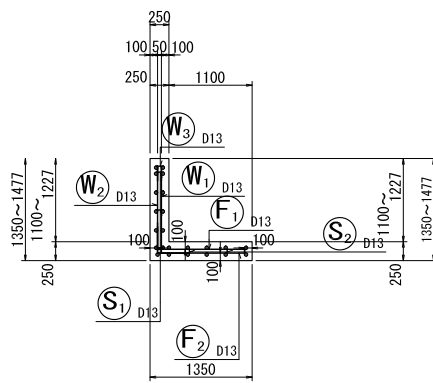
①-1 現場打ち L型擁壁構造図・配筋図-1 (H=1.35~1.48m) S=1:50

一般図
※必要地耐力 56kN/m²

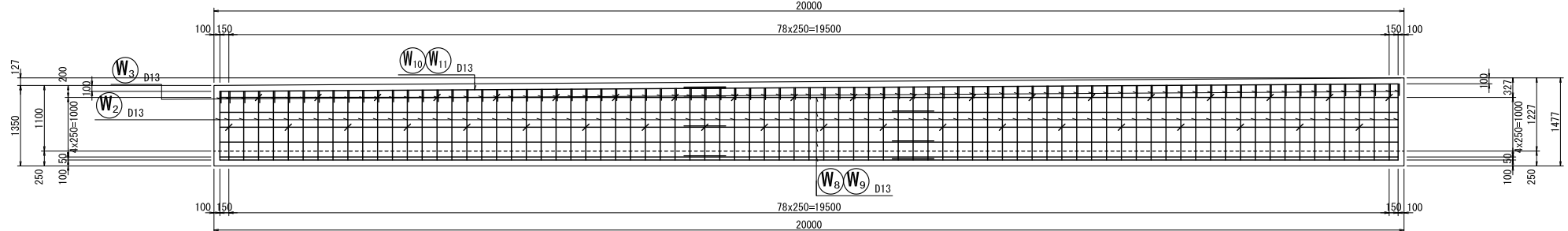


注・基礎地盤工については、支持力試験等により必要地耐力を確認すること。
・延長20m(以下)毎に目地材を設置すること。

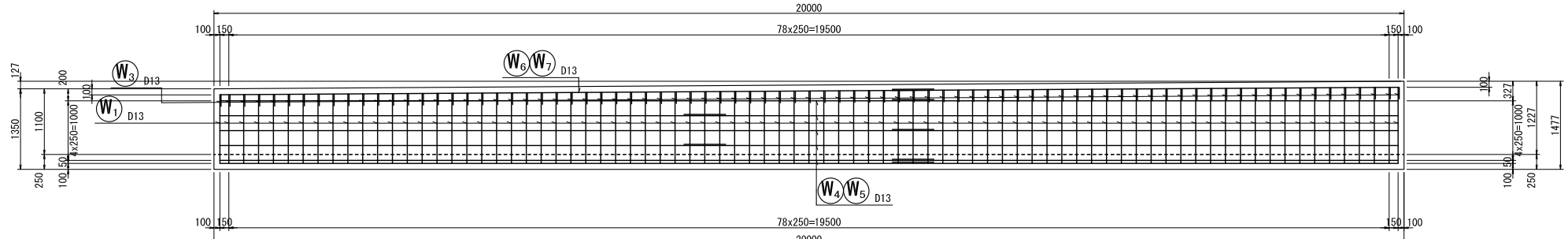
壁断面配筋図



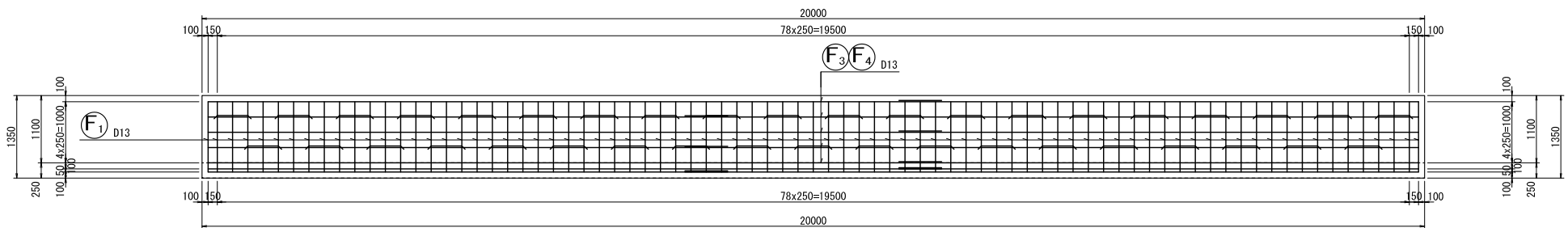
前面図
1-1



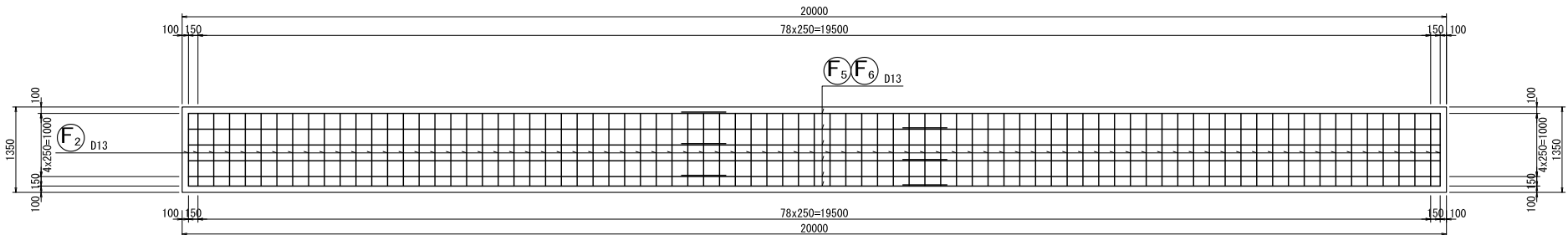
背面図
2-2



底版上面図
3-3



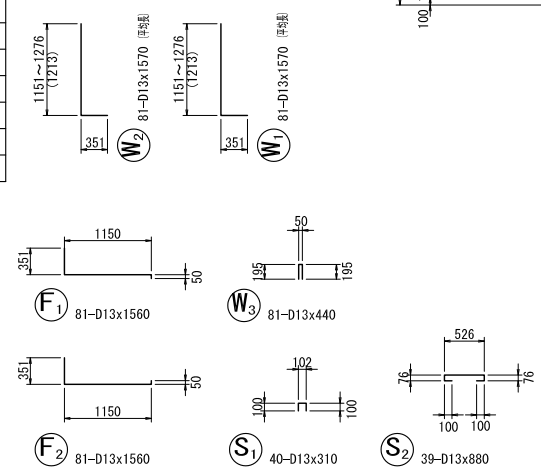
底版下面図
4-4



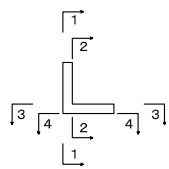
鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
W1	D13	1570	81	0.995	1.562	127	└ (平巻)
W2	D13	1570	81	0.995	1.562	127	└ (平巻)
W3	D13	440	81	0.995	0.438	35	└ (平巻)
W4	D13	12000	5	0.995	11.940	60	└ (平巻)
W5	D13	8500	5	0.995	8.458	42	└ (平巻)
W6	D13	12000	1	0.995	11.940	12	└ (平巻)
W7	D13	8500	1	0.995	8.458	8	└ (平巻)
W8	D13	12000	5	0.995	11.940	60	└ (平巻)
W9	D13	8500	5	0.995	8.458	42	└ (平巻)
W10	D13	12000	1	0.995	11.940	12	└ (平巻)
W11	D13	8500	1	0.995	8.458	8	└ (平巻)
F1	D13	1560	81	0.995	1.552	126	└ (平巻)
F2	D13	1560	81	0.995	1.552	126	└ (平巻)
F3	D13	12000	5	0.995	11.940	60	└ (平巻)
F4	D13	8500	5	0.995	8.458	42	└ (平巻)
F5	D13	12000	6	0.995	11.940	72	└ (平巻)
F6	D13	8500	6	0.995	8.458	51	└ (平巻)
S1	D13	310	40	0.995	0.308	12	└ (平巻)
S2	D13	880	39	0.995	0.876	34	└ (平巻)
						D13	1056 kg
						合計	1056 kg

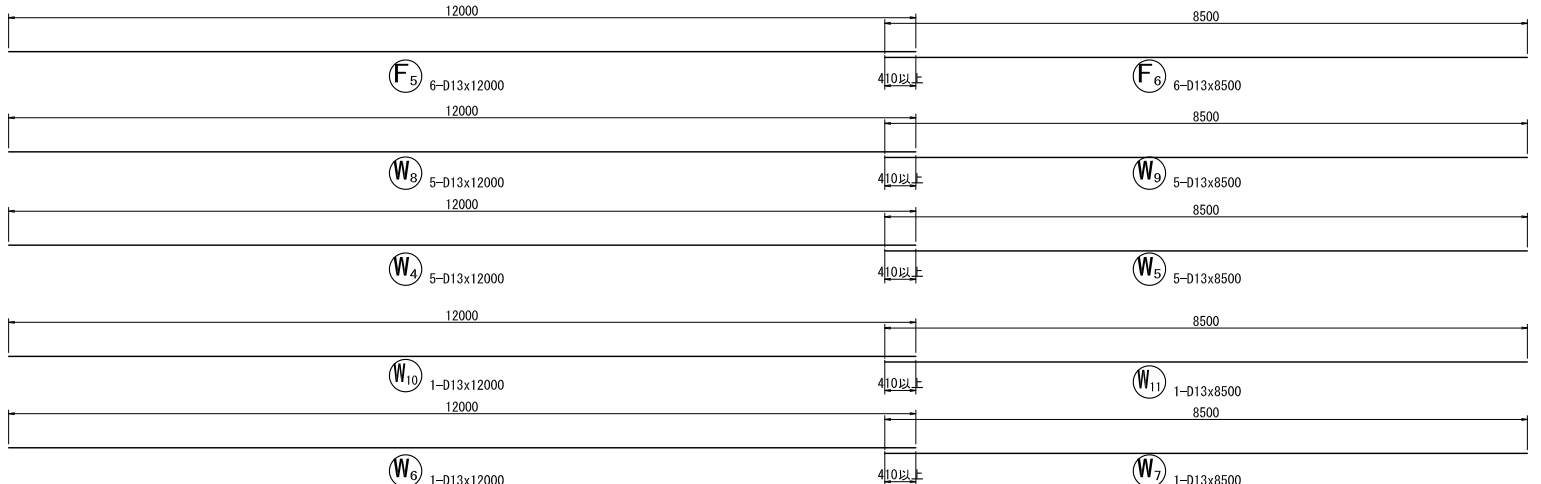
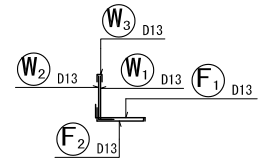
加工図



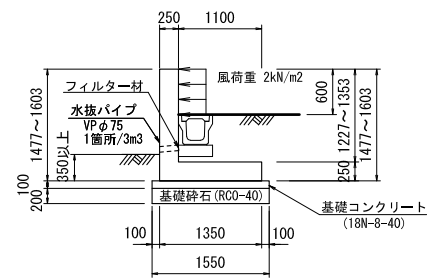
位置図



鉄筋組立図

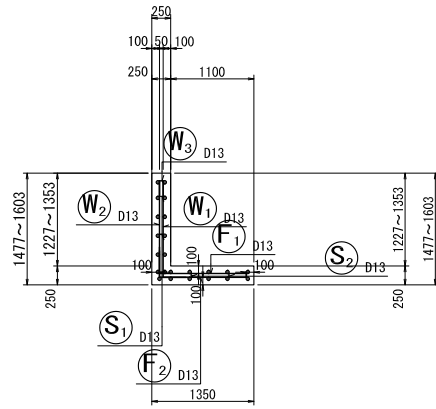


一般図
※必要地耐力 56kN/m²



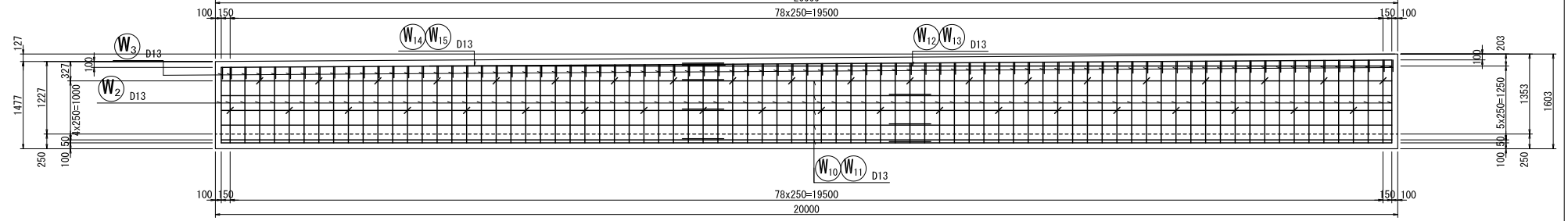
注) ・基礎地盤工については、支持力試験等により必要地耐力を確認すること。
・延長20m(以下)毎に目地材を設置すること。

壁断面配筋図

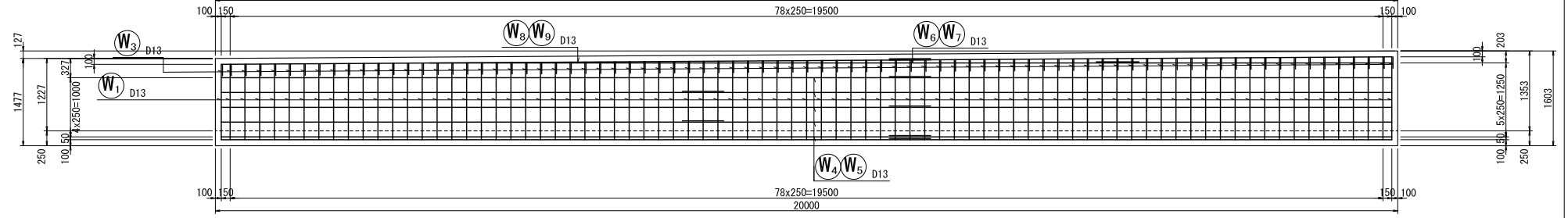


G-2 現場打ちL型擁壁構造図・配筋図-2 (H=1.48~1.60m) S=1:50

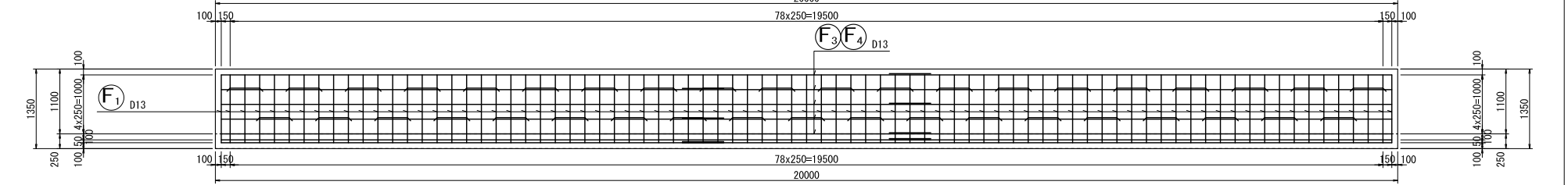
前面図
1-1



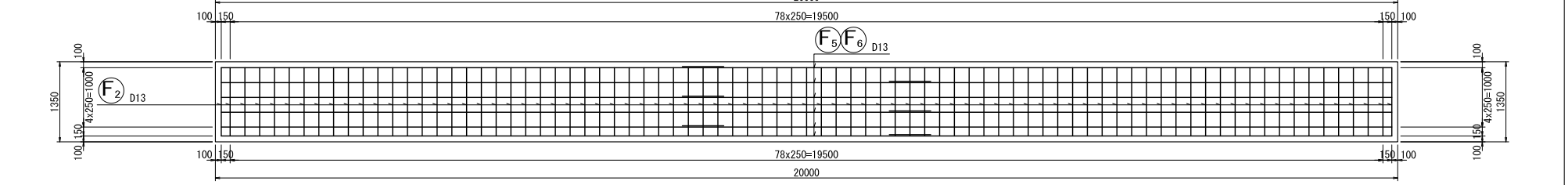
背面図
2-2



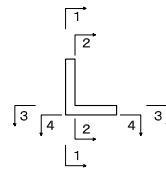
底版上面図
3-3



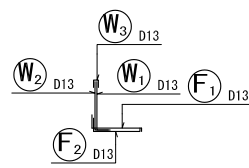
底版下面図
4-4



位置図



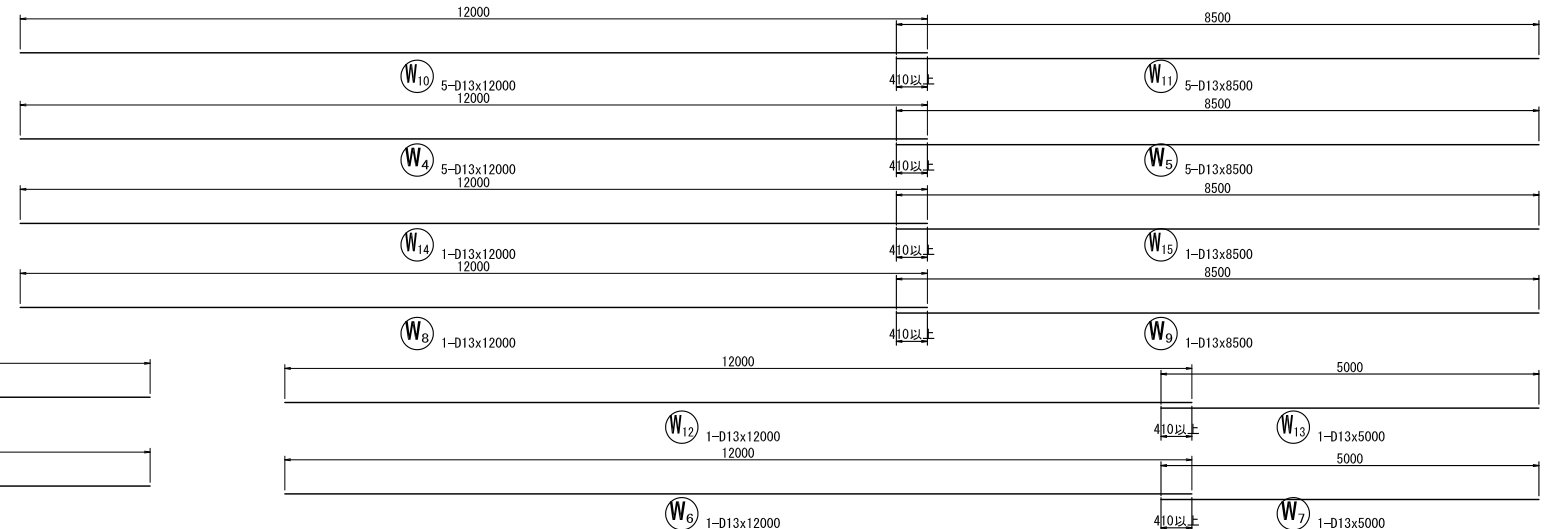
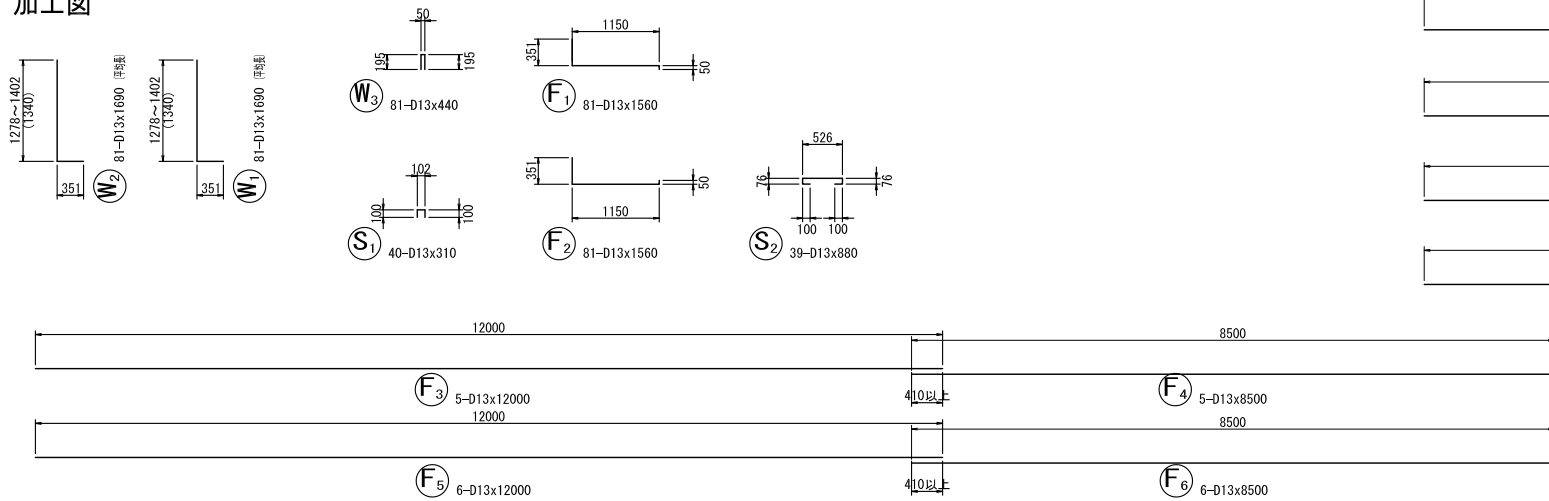
鉄筋組立図



鉄筋表

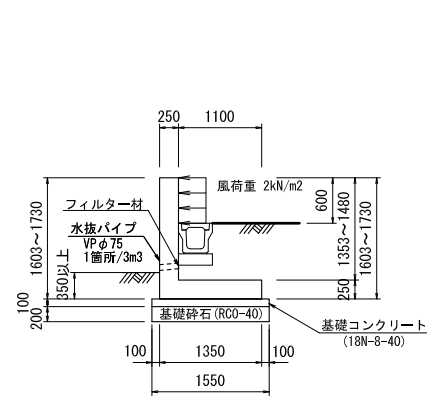
配号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
W1	D13	1690	81	0.995	1.682	136	└ (甲巻)
W2	D13	1690	81	0.995	1.682	136	└ (甲巻)
W3	D13	440	81	0.995	0.438	35	└ (甲巻)
W4	D13	12000	5	0.995	11.940	60	└ (甲巻)
W5	D13	8500	5	0.995	8.458	42	└ (甲巻)
W6	D13	12000	1	0.995	11.940	12	└ (甲巻)
W7	D13	5000	1	0.995	4.975	5	└ (甲巻)
W8	D13	12000	1	0.995	11.940	12	└ (甲巻)
W9	D13	8500	1	0.995	8.458	8	└ (甲巻)
W10	D13	12000	5	0.995	11.940	60	└ (甲巻)
W11	D13	8500	5	0.995	8.458	42	└ (甲巻)
W12	D13	12000	1	0.995	11.940	12	└ (甲巻)
W13	D13	5000	1	0.995	4.975	5	└ (甲巻)
W14	D13	12000	1	0.995	11.940	12	└ (甲巻)
W15	D13	8500	1	0.995	8.458	8	└ (甲巻)
F1	D13	1560	81	0.995	1.552	126	└ (甲巻)
F2	D13	1560	81	0.995	1.552	126	└ (甲巻)
F3	D13	12000	5	0.995	11.940	60	└ (甲巻)
F4	D13	8500	5	0.995	8.458	42	└ (甲巻)
F5	D13	12000	6	0.995	11.940	72	└ (甲巻)
F6	D13	8500	6	0.995	8.458	51	└ (甲巻)
S1	D13	310	40	0.995	0.308	12	└ (甲巻)
S2	D13	880	39	0.995	0.876	34	└ (甲巻)
				D13		1108	kg
				合計		1108	kg

加工図

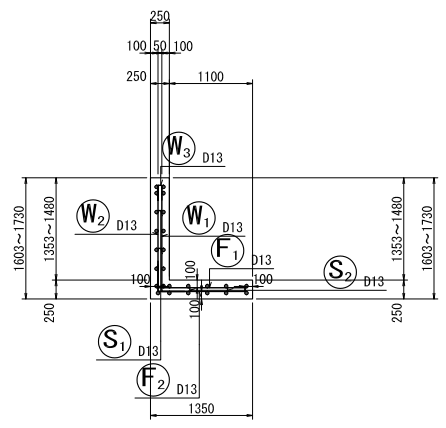


Ⓒ-3 現場打ち L型擁壁構造図・配筋図-3 (H=1.60~1.73m) S=1:50

一般図
※必要地耐力 56kN/m²



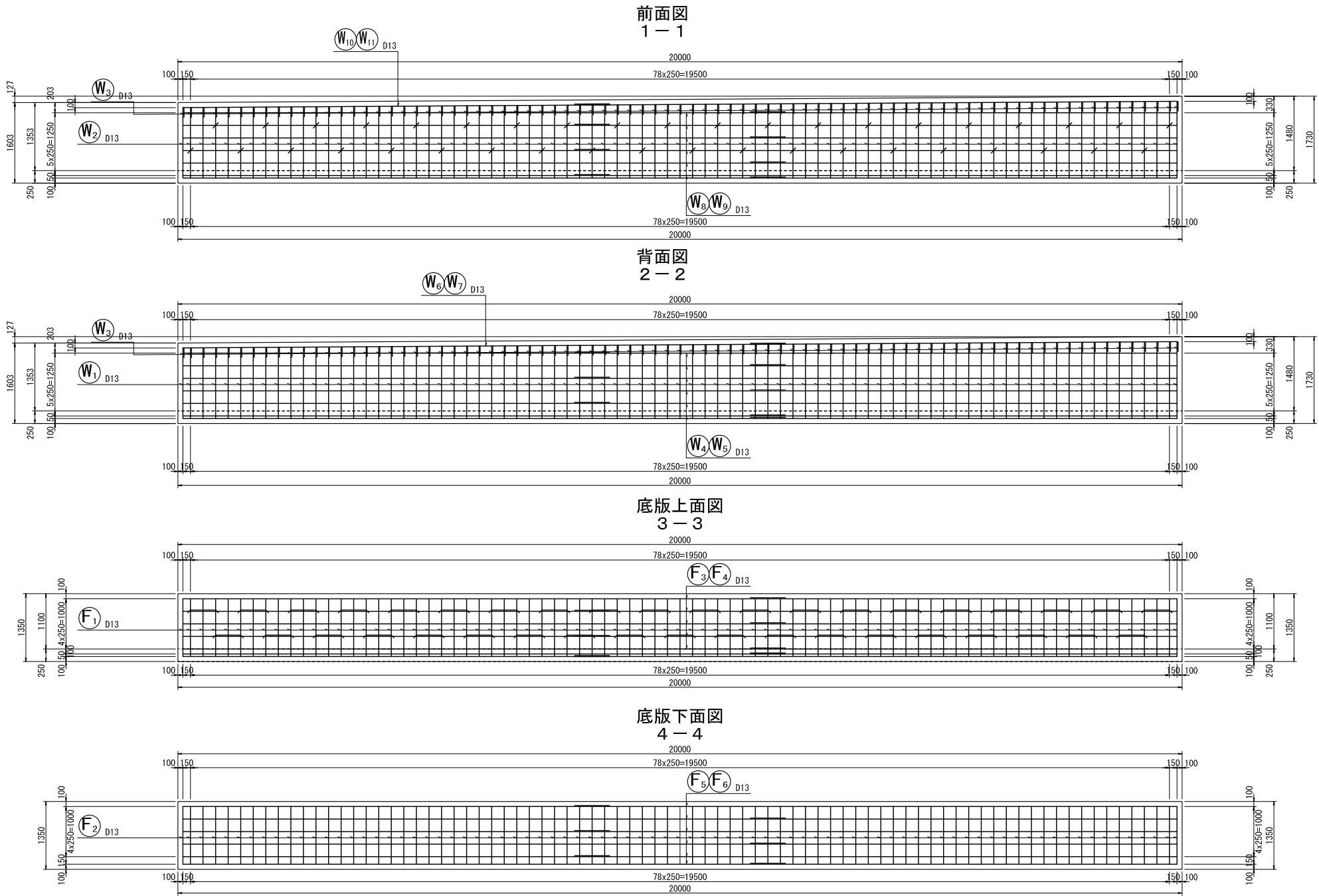
壁断面配筋図



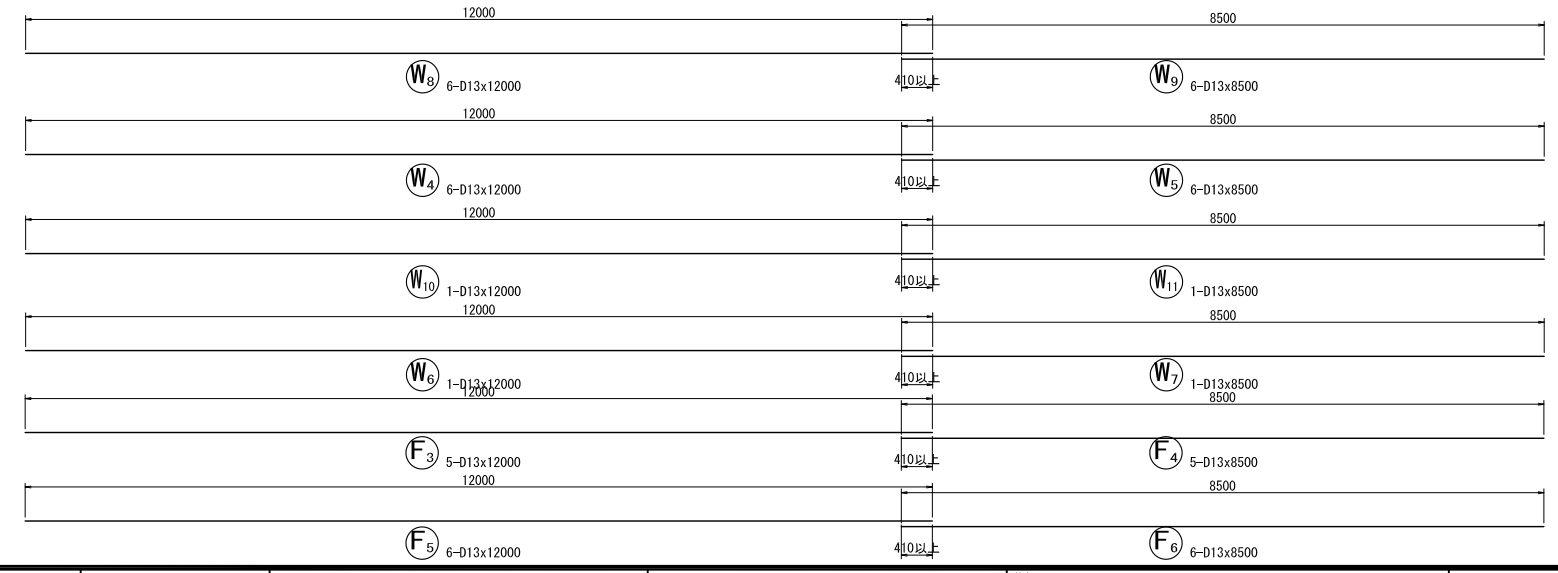
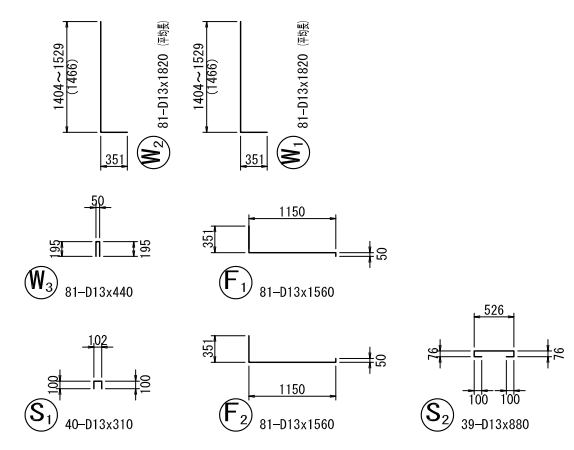
注) ・基礎地盤工については、支持力試験等により必要地耐力を確認すること。
・延長20m(以下)毎に目地材を設置すること。

鉄筋表

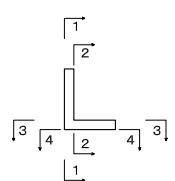
記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
W1	D13	1820	81	0.995	1.811	147	└┘ (平巻)
W2	D13	1820	81	0.995	1.811	147	└┘ (平巻)
W3	D13	440	81	0.995	0.438	35	└┘ (平巻)
W4	D13	12000	6	0.995	11.940	72	└┘ (平巻)
W5	D13	8500	6	0.995	8.458	51	└┘ (平巻)
W6	D13	12000	1	0.995	11.940	12	└┘ (平巻)
W7	D13	8500	1	0.995	8.458	8	└┘ (平巻)
W8	D13	12000	6	0.995	11.940	72	└┘ (平巻)
W9	D13	8500	6	0.995	8.458	51	└┘ (平巻)
W10	D13	12000	1	0.995	11.940	12	└┘ (平巻)
W11	D13	8500	1	0.995	8.458	8	└┘ (平巻)
F1	D13	1560	81	0.995	1.552	126	└┘ (平巻)
F2	D13	1560	81	0.995	1.552	126	└┘ (平巻)
F3	D13	12000	5	0.995	11.940	60	└┘ (平巻)
F4	D13	8500	5	0.995	8.458	42	└┘ (平巻)
F5	D13	12000	6	0.995	11.940	72	└┘ (平巻)
F6	D13	8500	6	0.995	8.458	51	└┘ (平巻)
S1	D13	310	40	0.995	0.308	12	└┘ (平巻)
S2	D13	880	39	0.995	0.876	34	└┘ (平巻)
						D13	1138 kg
合計							1138 kg



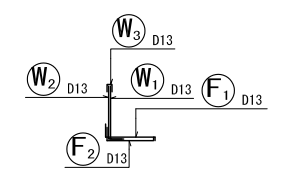
加工図



位置図

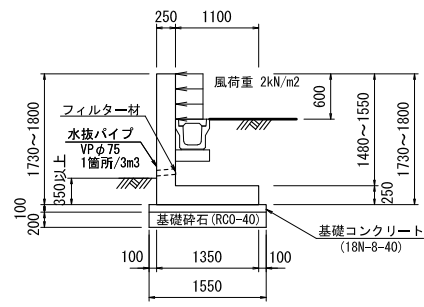


鉄筋組立図



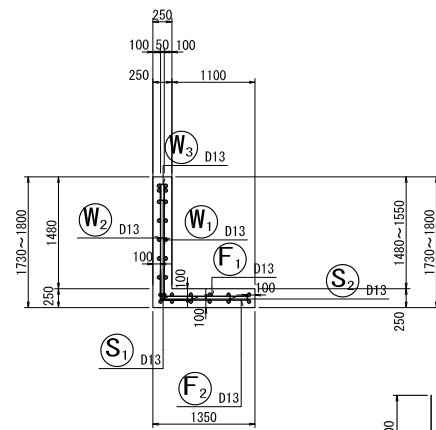
④-4 現場打ちL型擁壁構造図・配筋図-4 (H=1.73~1.80m) S=1:50

一般図
※必要地耐力 56kN/m²

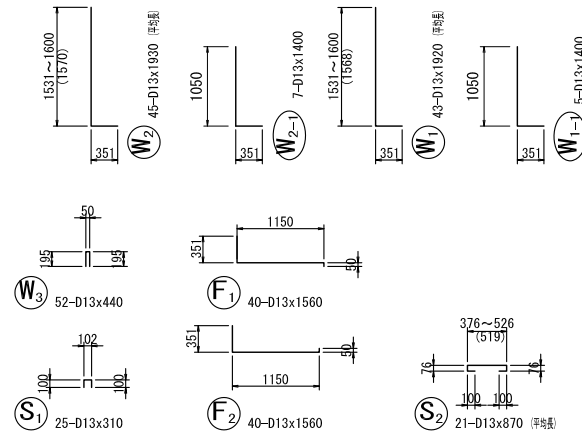


注) ・基礎地盤については、支持力試験等により必要地耐力を確認すること。
・延長20m(以下)毎に目地材を設置すること。

壁断面配筋図



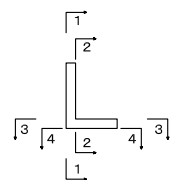
加工図



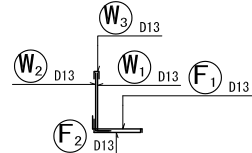
鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
W1	D13	1920	43	0.995	1.910	82	└ (平巻)
W1-1	D13	1400	5	0.995	1.393	7	└ (平巻)
W2	D13	1930	45	0.995	1.920	86	└ (平巻)
W2-1	D13	1400	7	0.995	1.393	10	└ (平巻)
W3	D13	440	52	0.995	0.438	23	└ (平巻)
W4	D13	11930	2	0.995	11.870	24	└ (平巻)
W4-1	D13	10840	1	0.995	10.786	11	└ (平巻)
W5	D13	11930	2	0.995	11.870	24	└ (平巻)
W5-1	D13	10840	1	0.995	10.786	11	└ (平巻)
W6	D13	10840	1	0.995	10.786	11	└ (平巻)
W8	D13	12000	2	0.995	11.940	24	└ (平巻)
W8-1	D13	10910	1	0.995	10.855	11	└ (平巻)
W9	D13	500	2	0.995	0.498	1	└ (平巻)
W10	D13	12000	2	0.995	11.940	24	└ (平巻)
W10-1	D13	10840	1	0.995	10.786	11	└ (平巻)
W11	D13	500	2	0.995	0.498	1	└ (平巻)
W11-1	D13	500	1	0.995	0.498	1	└ (平巻)
W12	D13	10920	1	0.995	10.865	11	└ (平巻)
F1	D13	1560	40	0.995	1.552	62	└ (平巻)
F2	D13	1560	40	0.995	1.552	62	└ (平巻)
F3	D13	10900	7	0.995	10.846	76	└ (平巻)
F4	D13	1150	7	0.995	1.144	8	└ (平巻)
F5	D13	10900	6	0.995	10.846	65	└ (平巻)
F6	D13	1150	6	0.995	1.144	7	└ (平巻)
S1	D13	310	24	0.995	0.308	7	└ (平巻)
S2	D13	870	21	0.995	0.866	18	└ (平巻)
						D13	678 kg
合計							678 kg

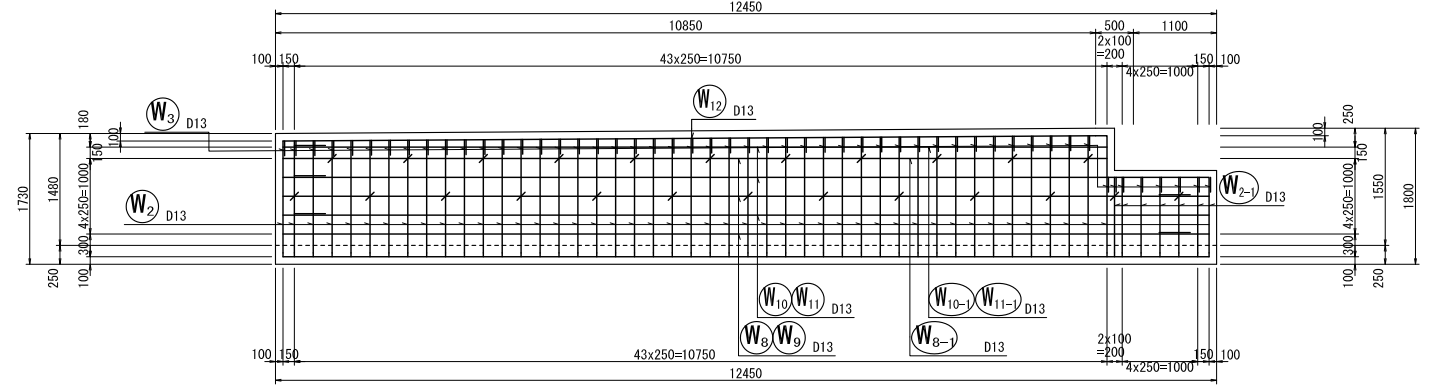
位置図



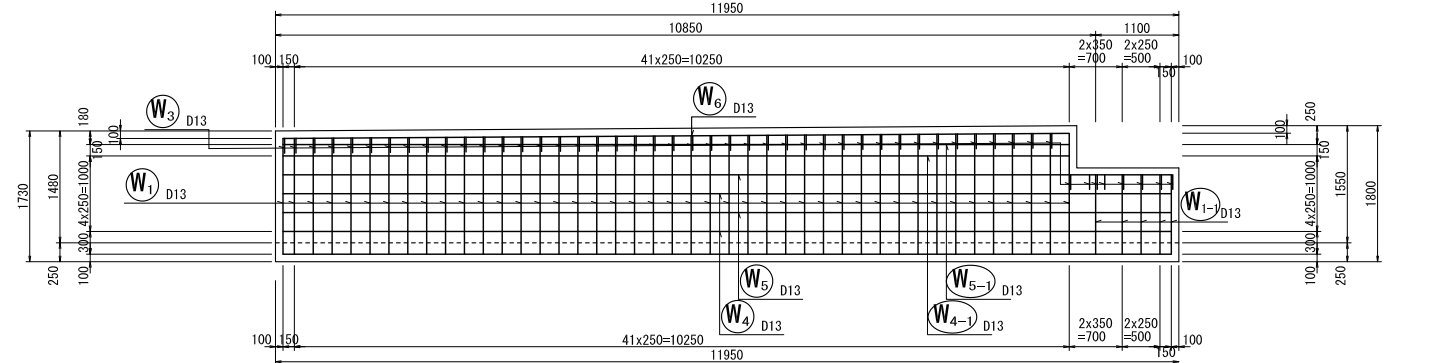
鉄筋組立図



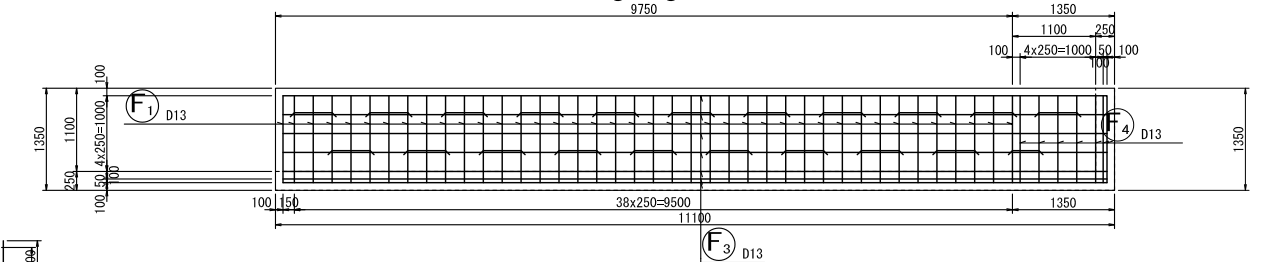
前面図
1-1



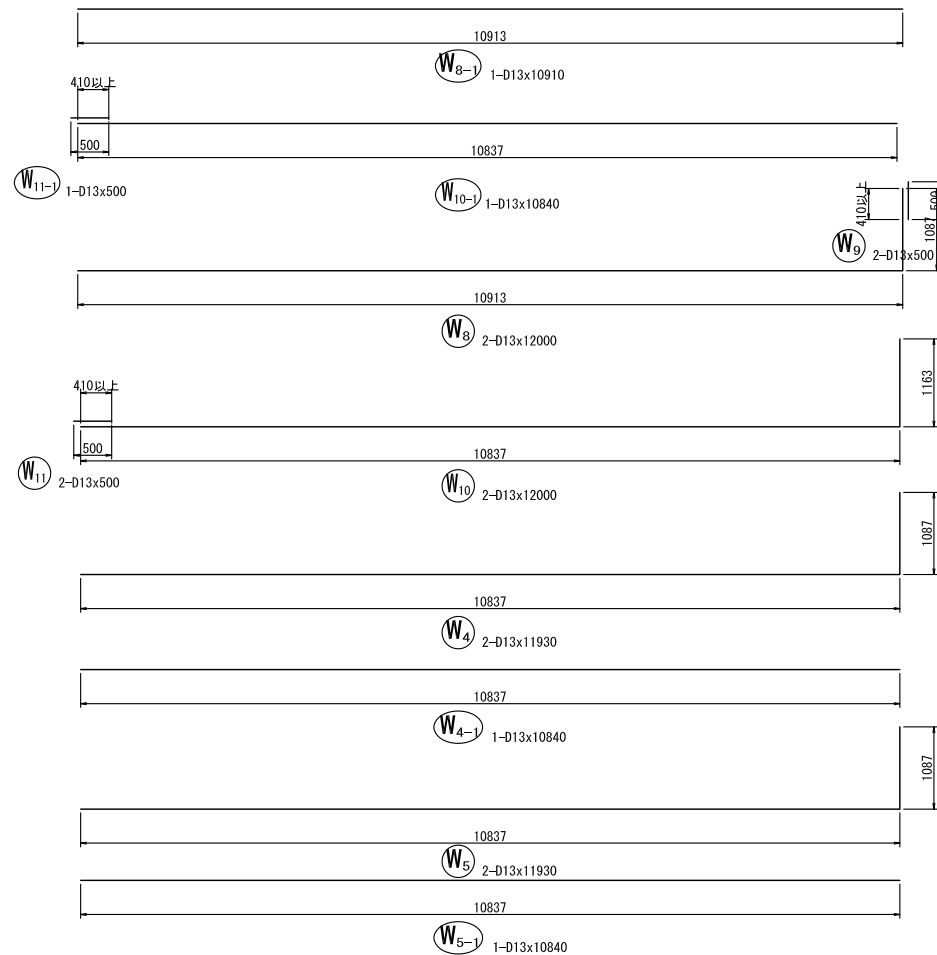
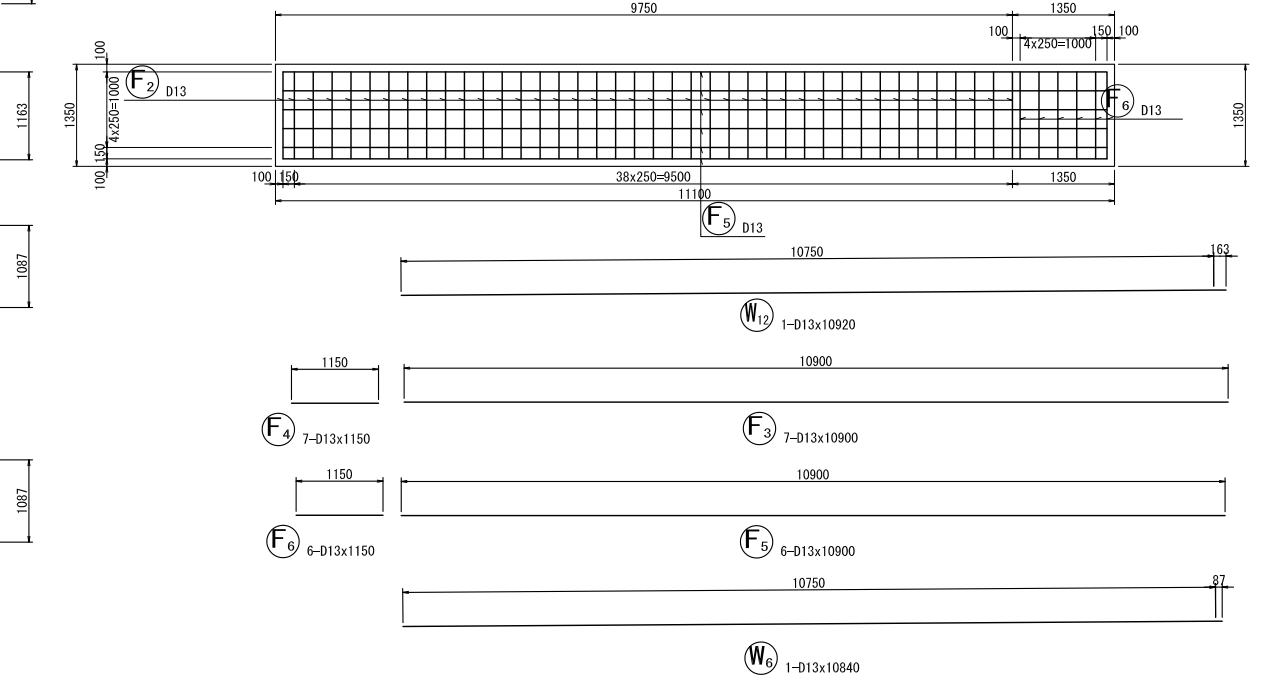
背面図
2-2

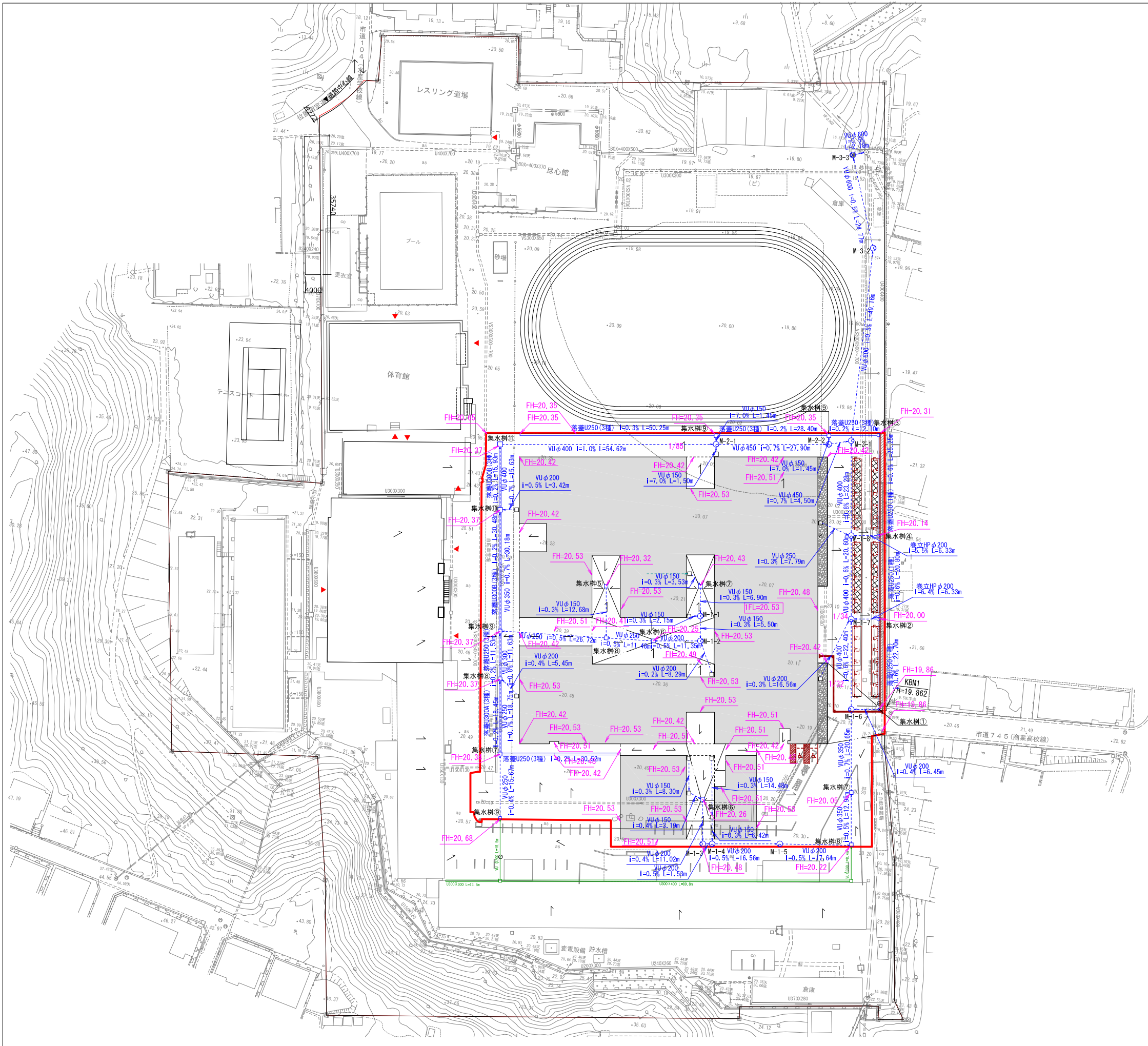


底板上面図
3-3



底板下面図
4-4

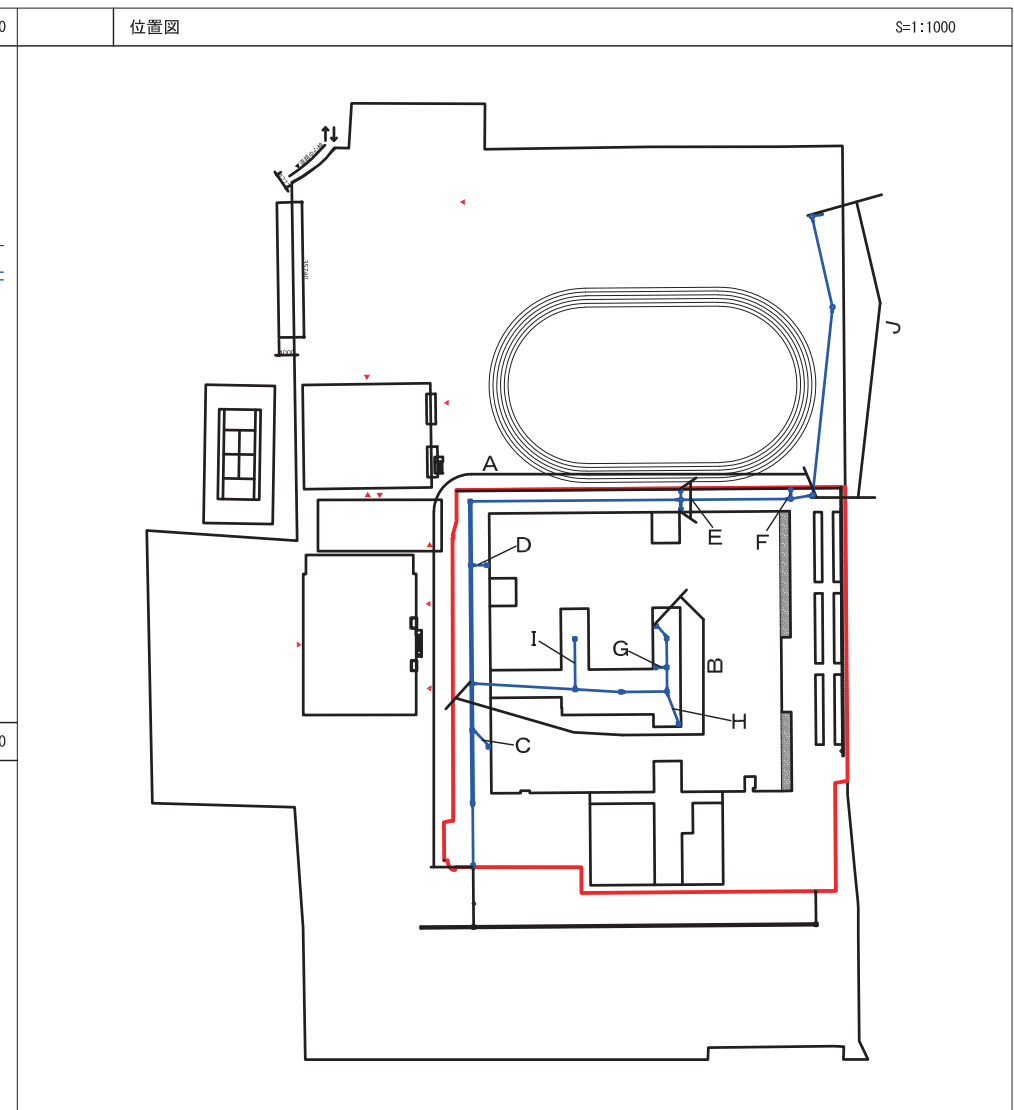
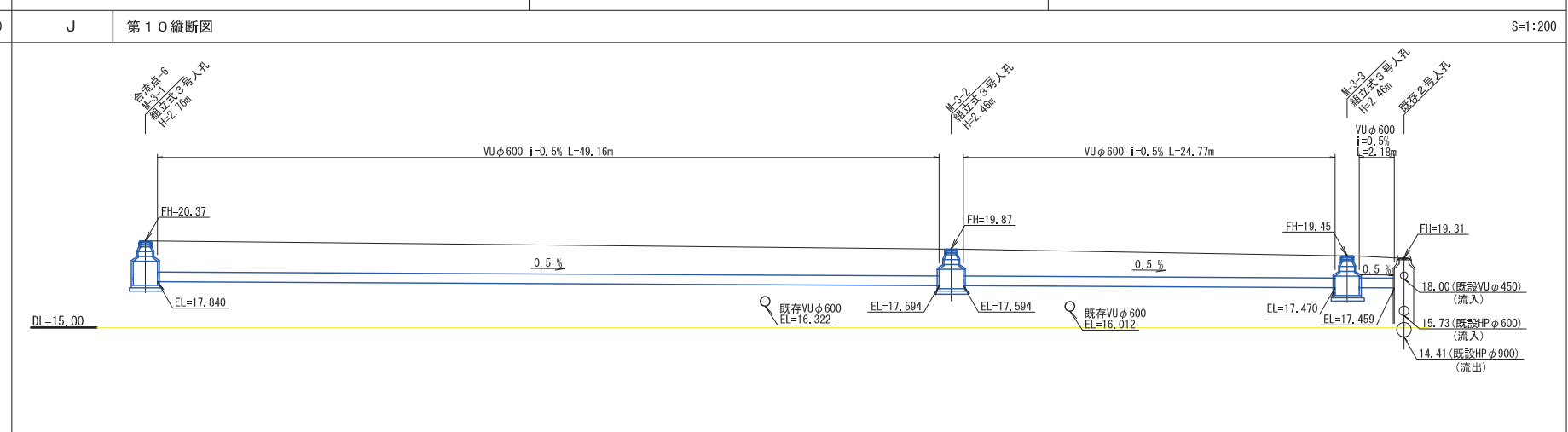
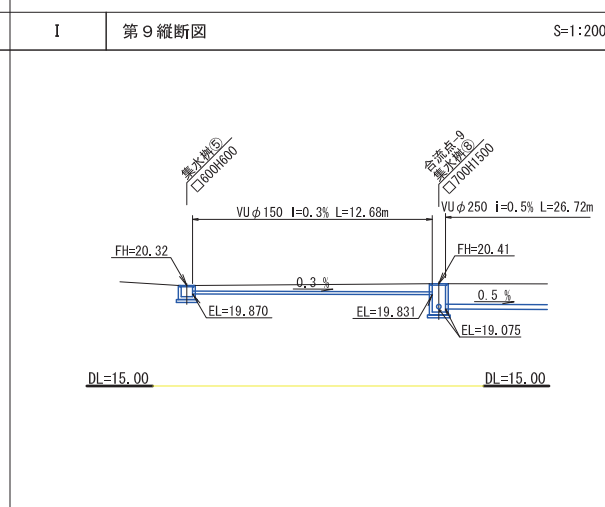
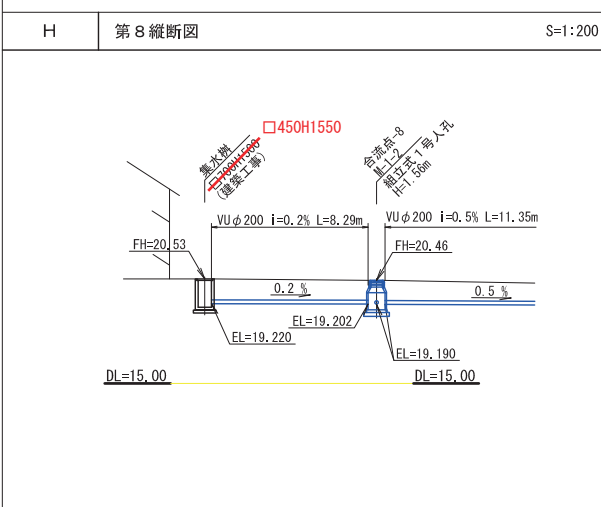
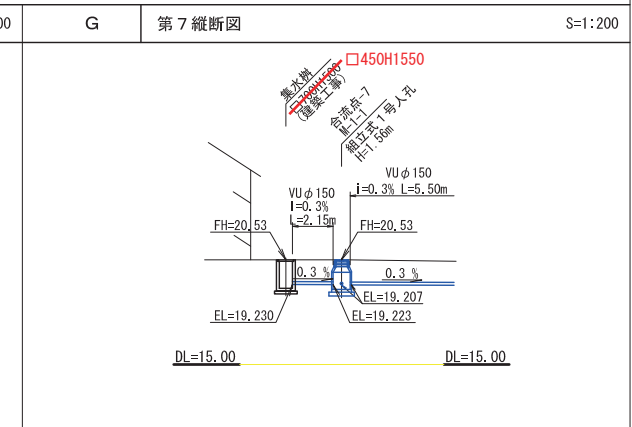
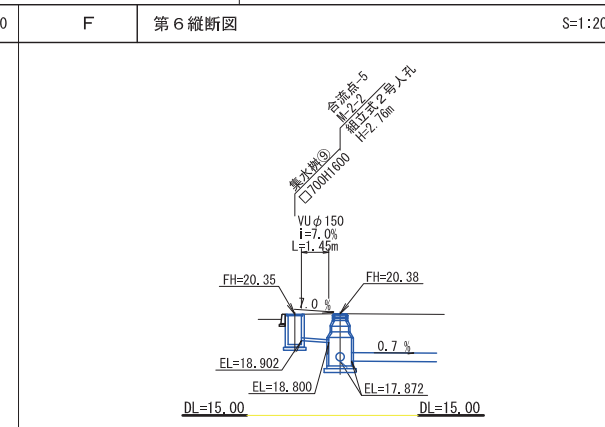
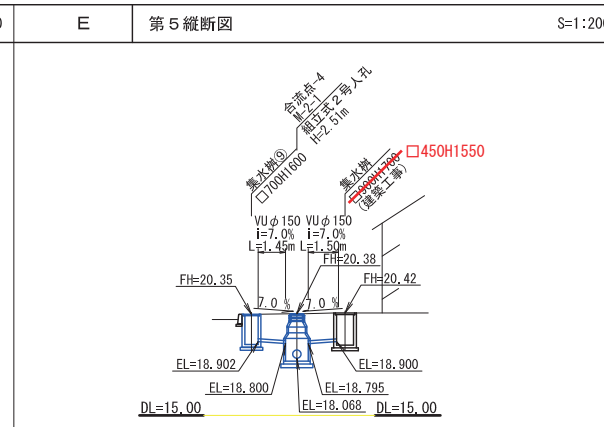
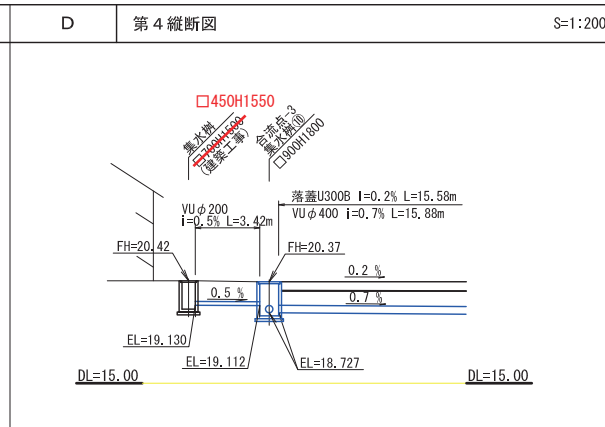
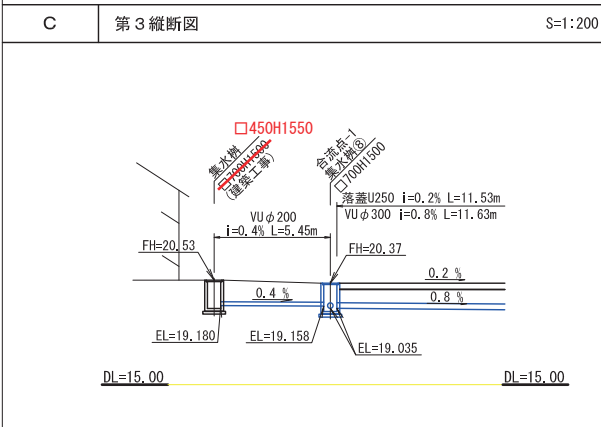
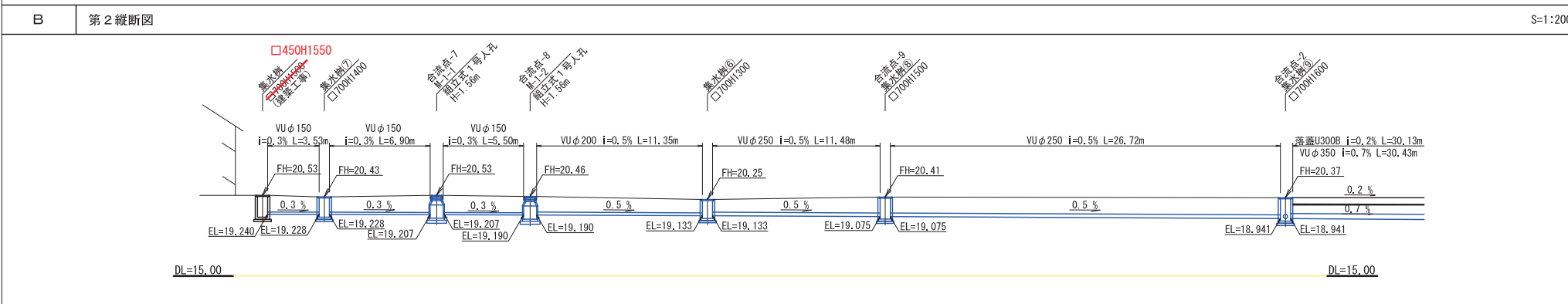
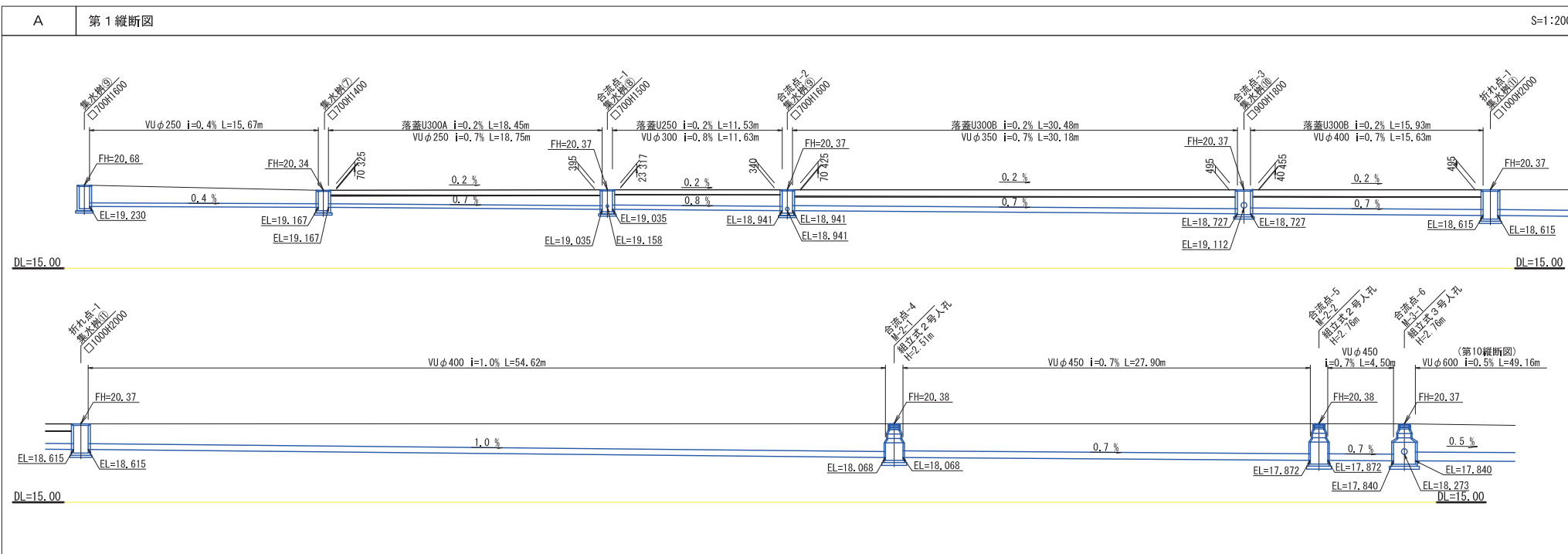


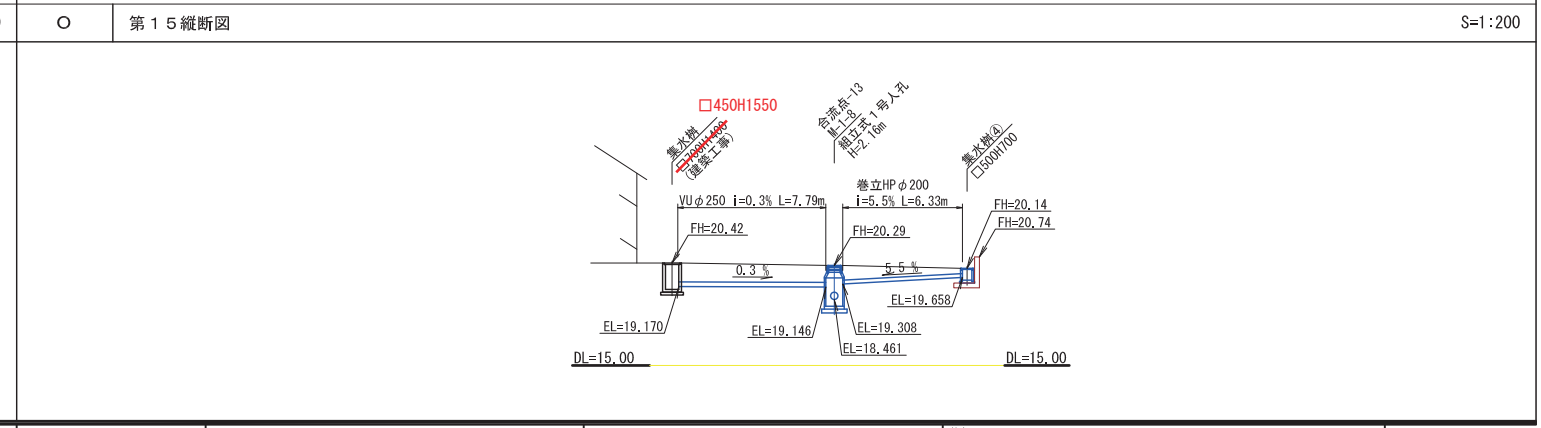
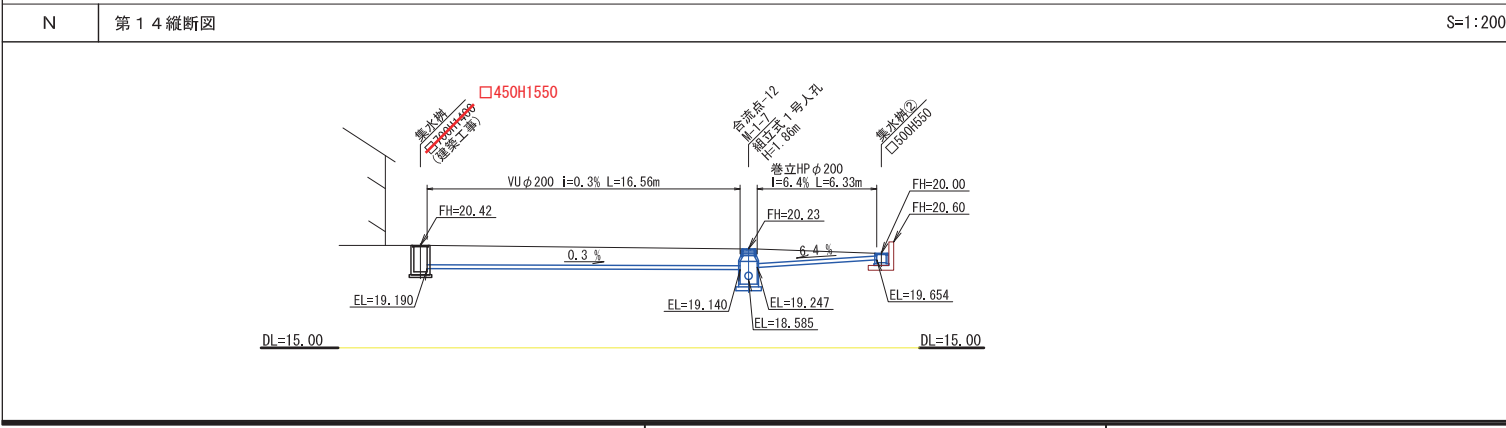
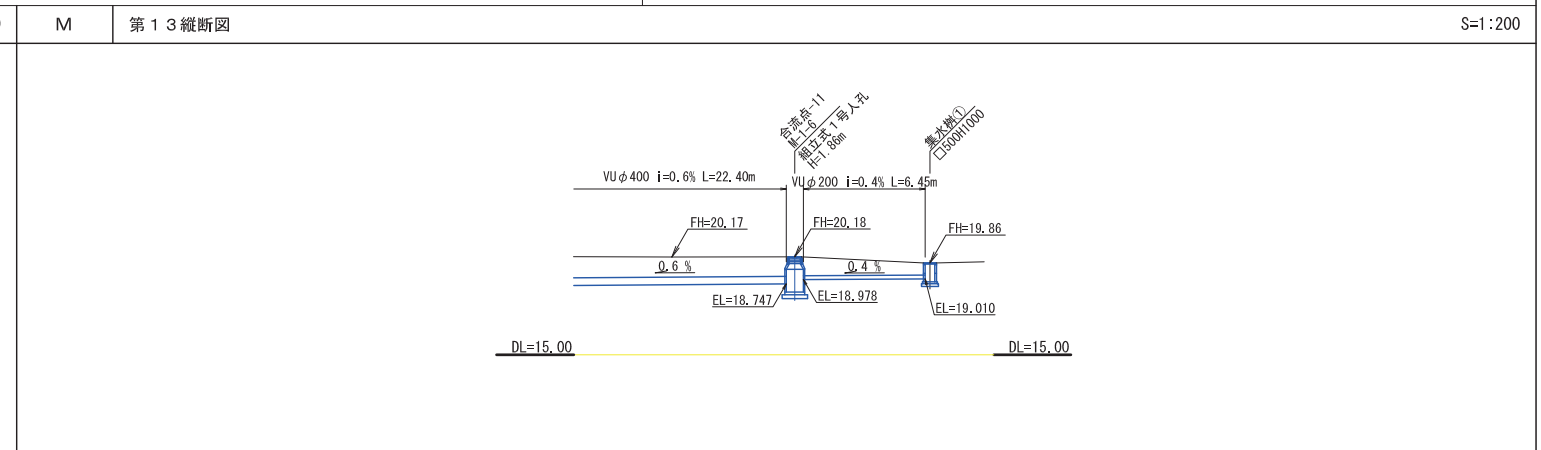
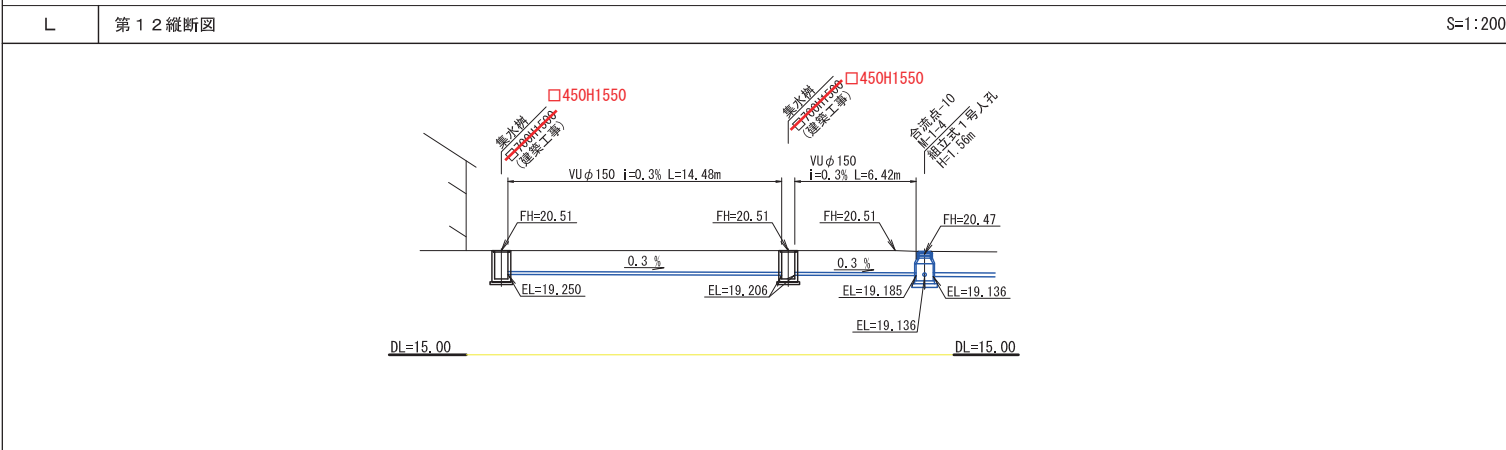
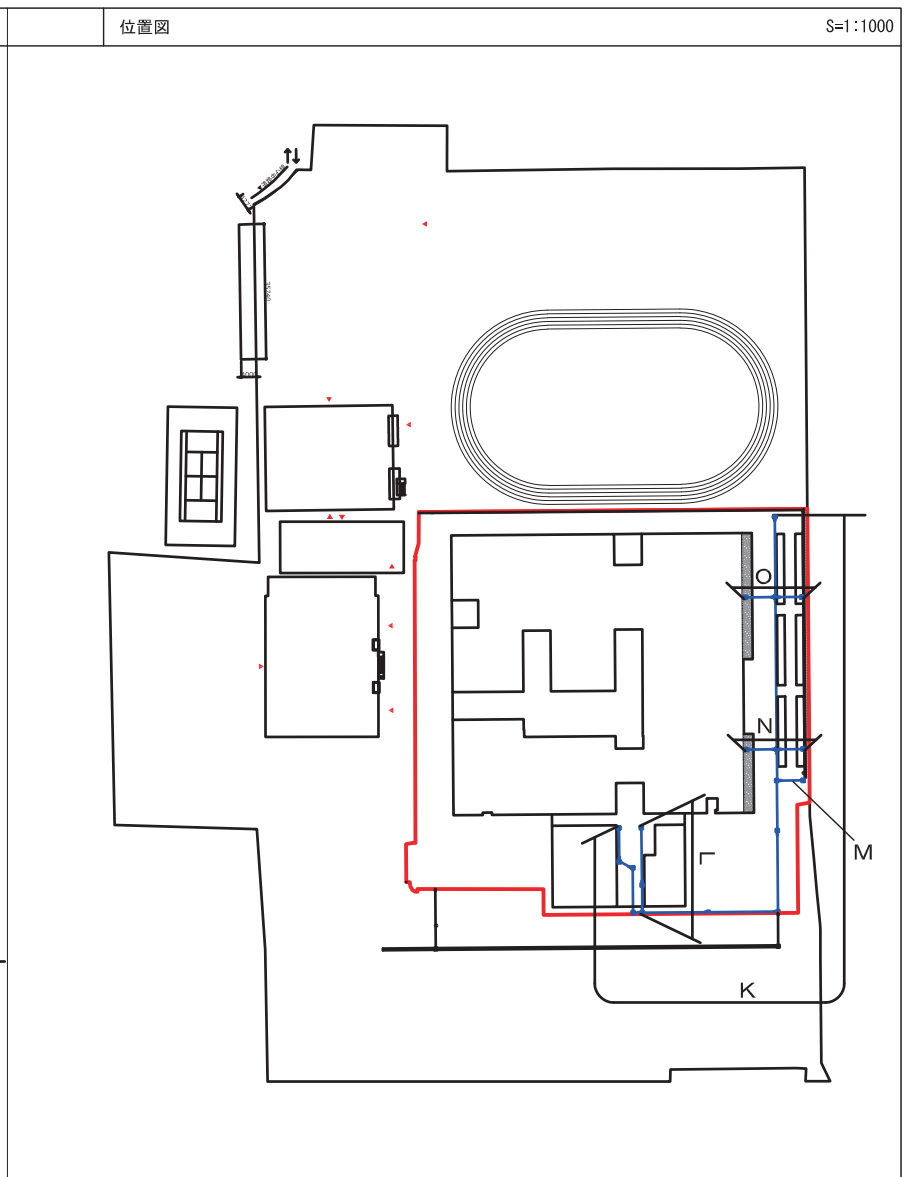
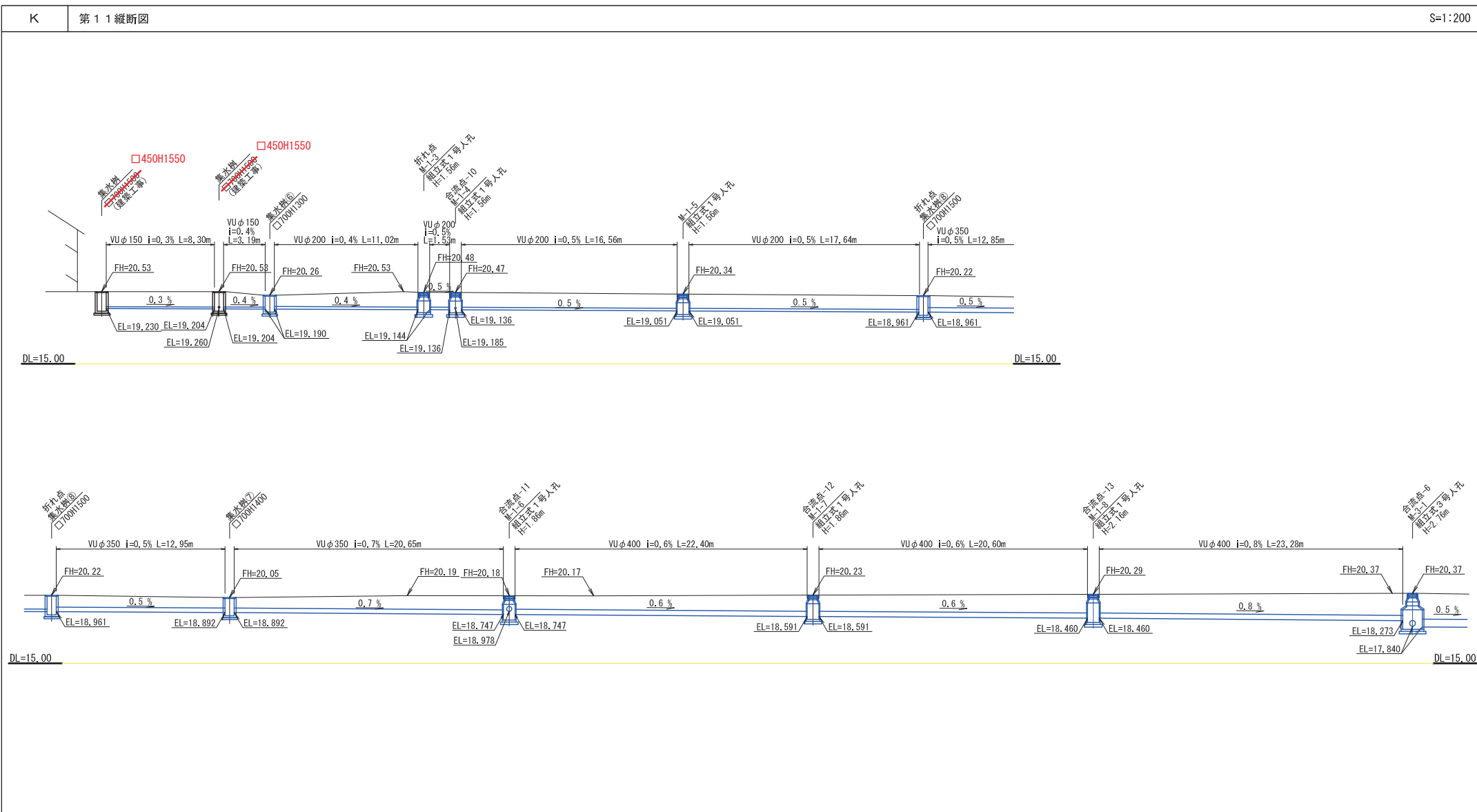


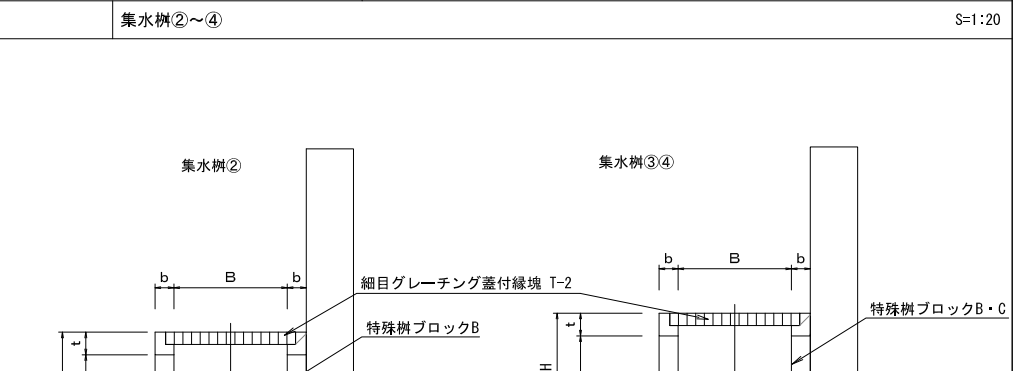
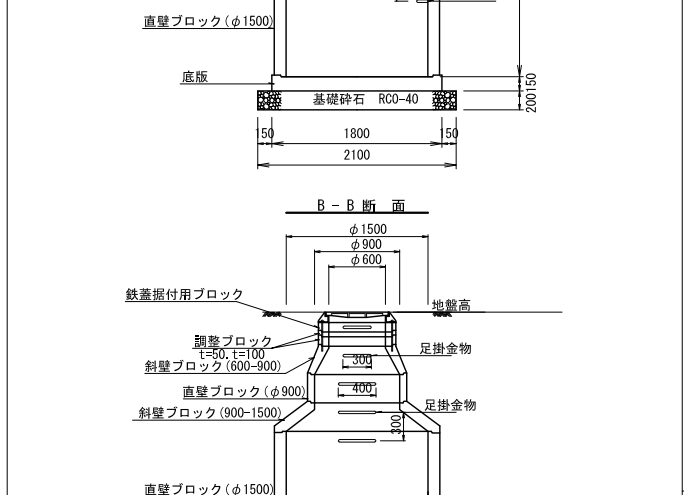
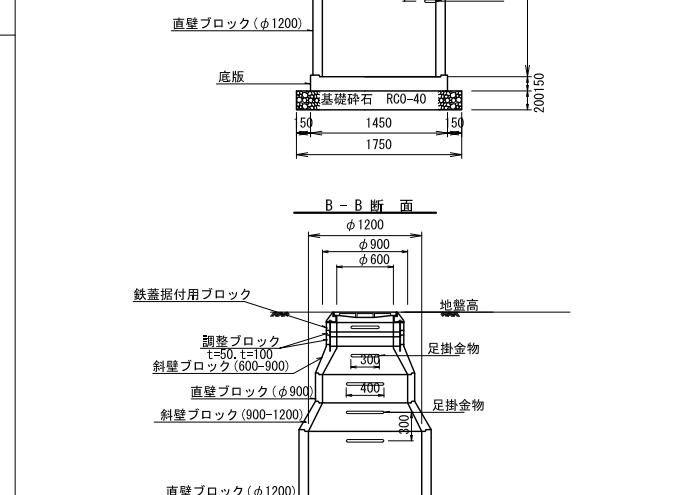
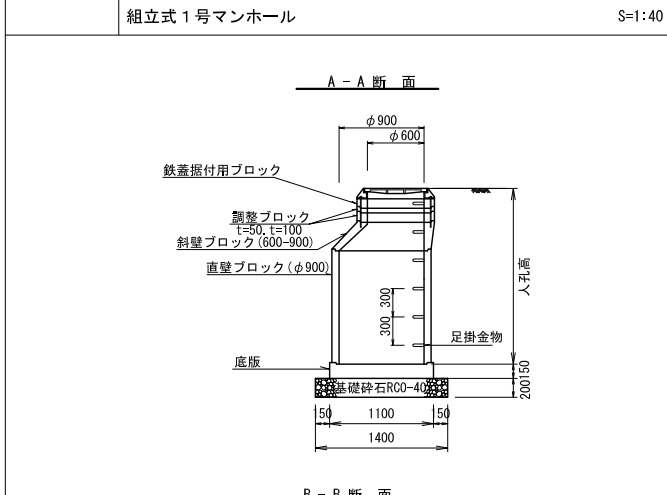
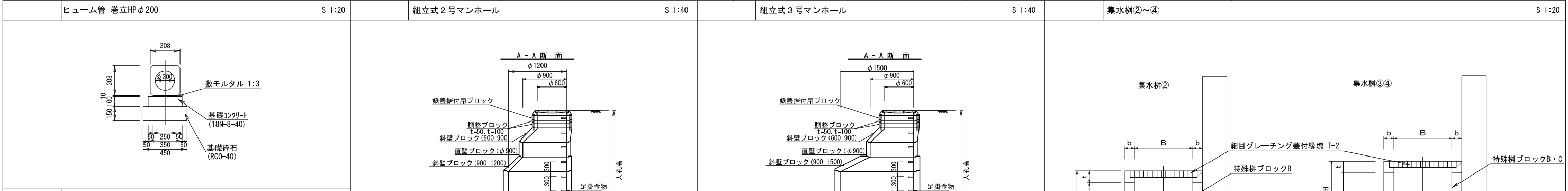
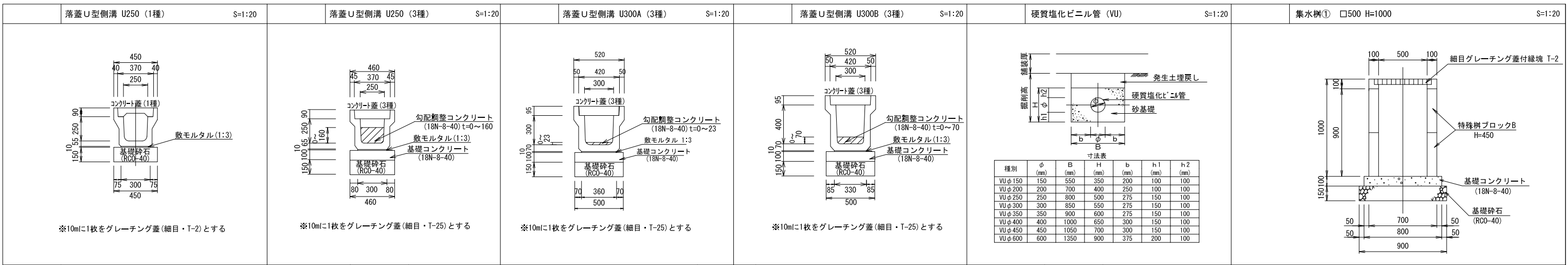
雨水排水施設一覧表

凡例	名称	規格	数量	備考	
——	落蓋U型側溝	落蓋U250 (1種) コンクリート蓋	68.8m	10mに1枚をゲレチング蓋 (細目・T-2) とする。	
	落蓋U型側溝	落蓋U250 (3種) コンクリート蓋	132.8m	10mに1枚をゲレチング蓋 (細目・T-25) とする。	
	落蓋U型側溝	落蓋U300A (3種) コンクリート蓋	18.5m	10mに1枚をゲレチング蓋 (細目・T-25) とする。	
	落蓋U型側溝	落蓋U300B (3種) コンクリート蓋	46.4m	10mに1枚をゲレチング蓋 (細目・T-25) とする。	
- - - - -	塩ビ管	VUφ150 砂基礎	67.6m		
		VUφ200 砂基礎	98.3m		
		VUφ250 砂基礎	80.4m		
		VUφ300 砂基礎	11.6m		
		VUφ350 砂基礎	63.8m		
		VUφ400 砂基礎	136.5m		
		VUφ450 砂基礎	32.4m		
VUφ600 砂基礎	76.1m				
- - - - -	横断暗渠管	巻立ヒューム管 HPφ200	12.7m		
□	集水樹	①□500H1000	ゲレチング蓋 細目・T-2	1箇所	
		②□500H550	ゲレチング蓋 細目・T-2	2箇所	
		③□500H550	ゲレチング蓋 細目・T-2	1箇所	
		④□500H700	ゲレチング蓋 細目・T-2	1箇所	
		⑤□600H600	ゲレチング蓋 細目・T-25	1箇所	
		⑥□700H1300	ゲレチング蓋 細目・T-25	2箇所	
		⑦□700H1400	ゲレチング蓋 細目・T-25	3箇所	
		⑧□700H1500	ゲレチング蓋 細目・T-25	3箇所	
		⑨□700H1600	ゲレチング蓋 細目・T-25	4箇所	
		⑩□900H1800	ゲレチング蓋 細目・T-25	1箇所	
		⑪□1000H2000	ゲレチング蓋 細目・T-25	1箇所	
○	組立式1号人孔	M-1-1			
		M-1-2			
		M-1-3	φ 900 H=1.56m	5箇所	梯子あり
		M-1-4			
		M-1-5			
		M-1-6	φ 900 H=1.86m	2箇所	梯子あり
		M-1-7			
		M-1-8	φ 900 H=2.16m	1箇所	梯子あり
○	組立式2号人孔	M-2-1	φ 1200 H=2.51m	1箇所	梯子あり
		M-2-2	φ 1200 H=2.76m	1箇所	梯子あり
○	組立式3号人孔	M-3-1	φ 1500 H=2.76m	1箇所	梯子あり
		M-3-2	φ 1500 H=2.46m	2箇所	梯子あり
		M-3-3			

直道 4.5m





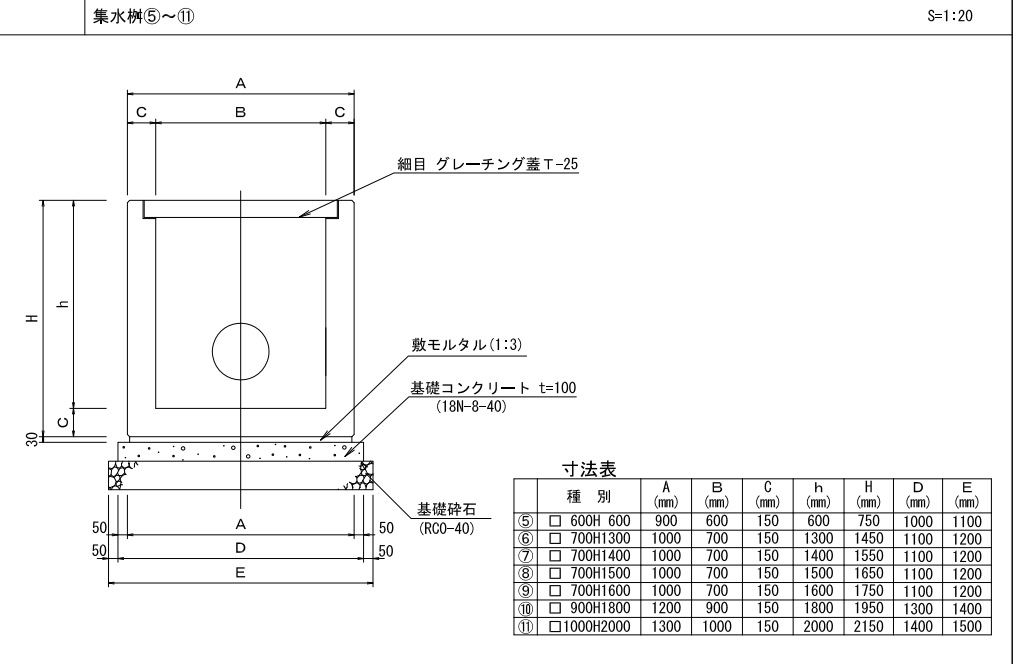


人孔番号	人孔高	鉄蓋 (T-25)		斜壁ブロック		直壁ブロック		調整ブロック		梯子
		φ600 × φ900	φ600 × φ900	φ600 × φ900	φ900	φ900	φ900	φ900		
M-1-1	1.56m	1	1	1	0	1	0	1	1	あり
M-1-2	1.56m	1	1	0	1	0	0	1	1	あり
M-1-3	1.56m	1	1	1	0	1	0	0	1	あり
M-1-4	1.56m	1	1	1	0	1	0	0	1	あり
M-1-5	1.56m	1	1	1	0	1	0	0	1	あり
M-1-6	1.86m	1	1	1	0	0	1	0	1	あり
M-1-7	1.86m	1	1	1	0	0	1	0	1	あり
M-1-8	2.16m	1	1	1	0	0	0	1	1	あり

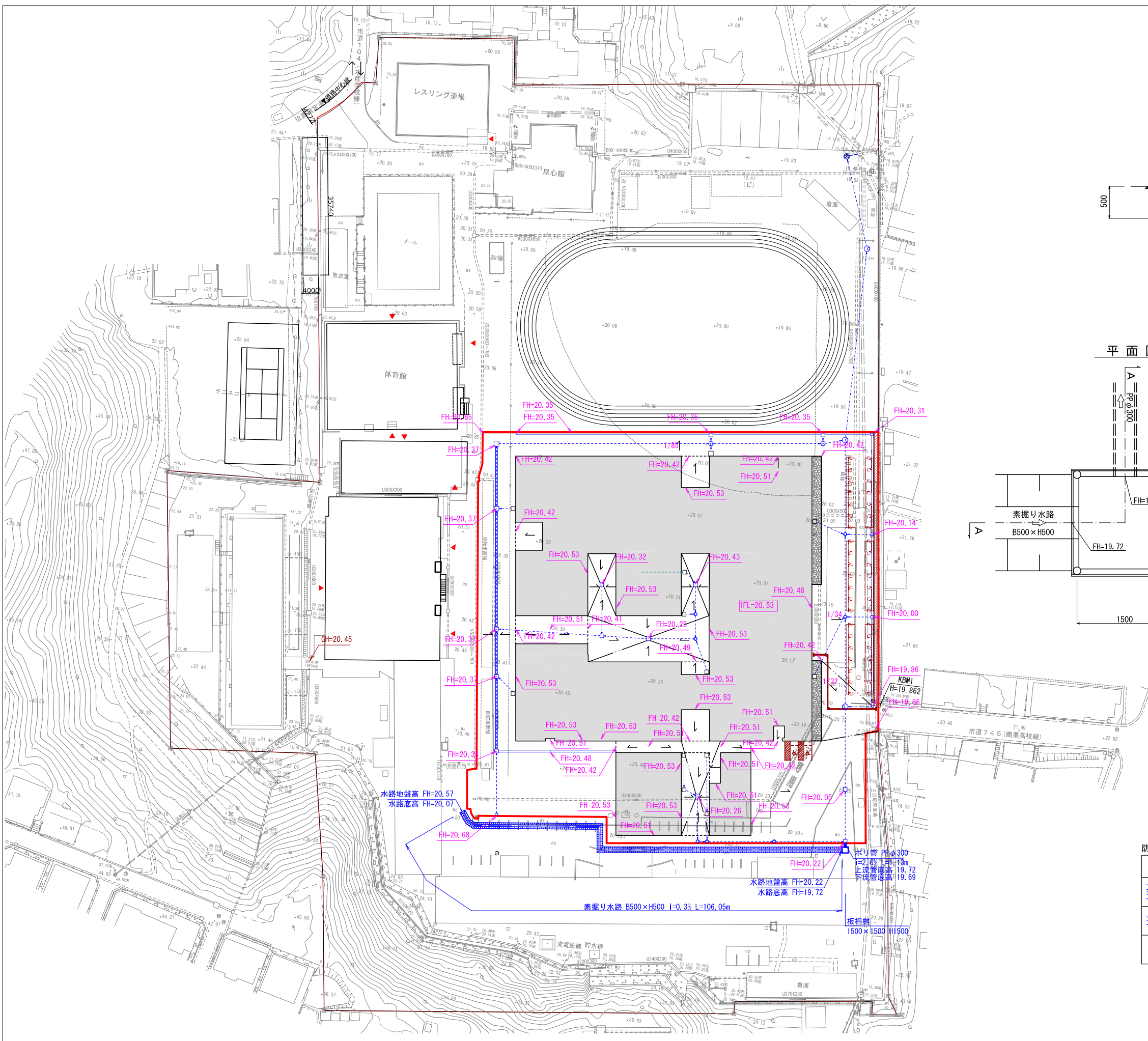
人孔番号	人孔高	鉄蓋 (T-25)		斜壁ブロック		直壁ブロック		調整ブロック		梯子
		φ600 × φ900	φ600 × φ900	φ600 × φ900	φ900	φ900 × φ1200	φ1200	φ900		
M-2-1	2.51m	1	1	1	1	1	1	0	2	あり
M-2-2	2.76m	1	1	1	1	1	1	0	1	あり

人孔番号	人孔高	鉄蓋 (T-25)		斜壁ブロック		直壁ブロック		調整ブロック		梯子
		φ600 × φ900	φ600 × φ900	φ900	φ900 × φ1500	φ1500	φ1500	φ900		
M-3-1	2.76m	1	1	1	1	1	0	1	1	あり
M-3-2	2.46m	1	1	1	1	1	1	0	1	あり
M-3-3	2.46m	1	1	1	1	1	1	0	1	あり

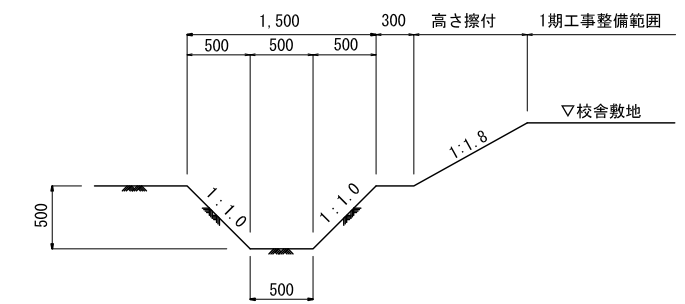
種別	(mm) B	(mm) t	(mm) t+h	(mm) a	(mm) B1	(mm) b	耐荷重	足掛金物
② □500H 550	500	100	550 (100+450)	50	700	100	T-2	なし
③ □500H 550	500	100	550 (100+450)	100	700	100	T-2	なし
④ □500H 700	500	100	700 (100+600)	100	700	100	T-2	なし



種別	(mm) A	(mm) B	(mm) C	(mm) h	(mm) H	(mm) D	(mm) E
⑤ □600H 600	900	600	150	600	750	1000	1100
⑥ □700H 1300	1000	700	150	1300	1450	1100	1200
⑦ □700H 1400	1000	700	150	1400	1550	1100	1200
⑧ □700H 1500	1000	700	150	1500	1650	1100	1200
⑨ □700H 1600	1000	700	150	1600	1750	1100	1200
⑩ □900H 1800	1200	900	150	1800	1950	1300	1400
⑪ □1000H 2000	1300	1000	150	2000	2150	1400	1500

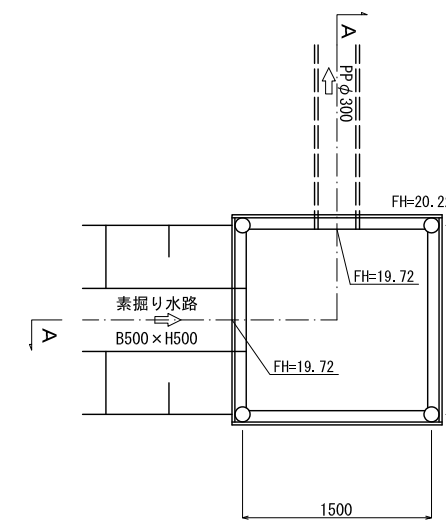


素掘り水路
B500×H500
S=1:30

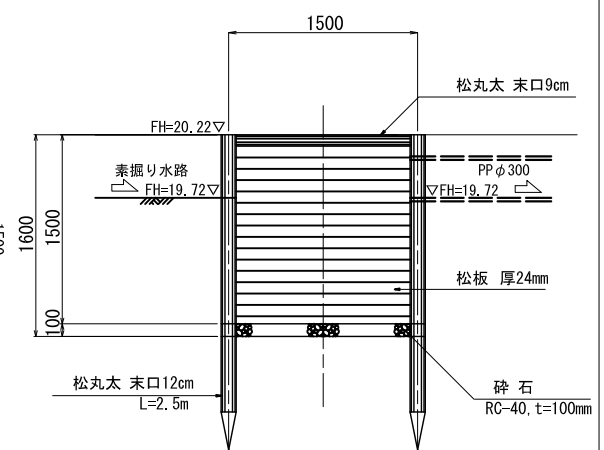


板柵柵
1500×1500×1500 S=1:30

平面図



A-A 断面図



水路地盤高 FH=20.57
水路底高 FH=20.07

水路地盤高 FH=20.22
水路底高 FH=19.72

素掘り水路 B500×H500 i=0.3% L=106.05m

板柵柵
1500×1500 H1500

防災施設一覧表

凡例	名称・規格	数量
	素掘り水路 B500×H500	106.1 m
	高密度ポリエチレン管 PPφ300 (放流管)	1.1 m
	板柵柵 1500×1500 H1500 (松丸太、松板)	1箇所